

もくじ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
セカンドスクール実施要綱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
プレセカンドスクール実施要綱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
セカンドスクール実施地・泊数の変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
平成 27 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	14
各小中学校の日程及び主な活動内容	
<小学校セカンドスクール>	
第一小学校 ·····	16
第二小学校 ·····	20
第三小学校 ·····	24
第四小学校 ·····	28
第五小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	32
大野田小学校	36
境南小学校	40
本宿小学校	44
千川小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	48
#之頭小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	52
関前南小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	56
	60
(本当力子校) く中学校セカンドスクール>	00
第一中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	c c
No. 1 1 1 100	66
70—1710	69 5 0
第三中学校	72
第四中学校	75
第五中学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	78
第六中学校 ·····	81
<プレセカンドスクール>	
第一小学校 ·····	86
第二小学校 ·····	89
第三小学校 ·····	92
第四小学校 ·····	95
第五小学校 ·····	98
大野田小学校 ·····	101
境南小学校	104
本宿小学校	107
千川小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	110
井之頭小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	113
関前南小学校 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	116
桜野小学校 ······	119

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- ○平成元年度 ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」(報告書)でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- ○平成2年度 ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- ○平成3年度 ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- ○平成4年度 ・「夏季山村生活体験学習」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」(報告書)で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- ○平成5年度 ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」(セカンドスクール試行期間中の名称)として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- ○平成6年度 ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」 を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教 材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な 要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- ○平成7年度・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日~7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者(70名)を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- ○平成8年度 ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合 学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール 教材・事例集」を作成。
- ○平成9年度 ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画 の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生か した活動内容を模索した。
- ○平成10年度 ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。

- ○平成14年度・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・ 発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。
- ○平成15年度・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール*を4校にて試行。 *プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高 めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第1回オーライ!ニッポン大賞」 に選定される。
- ○平成16年度 ・プレセカンドスクールを10校にて試行。
 - ・「セカンドスクール 10 周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。 ○ 平成 17 年度
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- ○平成19年度 ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整 理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- ○平成20年度 ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁 村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委 託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、 桜野小学校、第一中学校が対象となった。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカン ドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- ○平成21年度 ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール(桜 野小学校)、プレセカンドスクール(境南小学校)の日程を変更し、 実施日数、活動内容を変更して行った。
 - ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同によ る「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活 動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学 校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象 となった。
- ○平成22年度 ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。

ルは、泊数も変更した。

- ・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同によ る「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活 動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学 校が対象となった。
- ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」 が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。
- ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体 験活動の教育的な効果の調査」を実施した。
- ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、 「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事 例集を作成した(~平成24年度)
- ○平成23年度 ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千 川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは 第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変 更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクー
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・ 防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、 全期間バスの借上げを行った。

○平成25年度 ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う 子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活 動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。

- ○平成26年度 ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視 察が行われた(長野県飯山市)。

- ○平成27年度 ・実施20年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人 日本デザイン振興会が主催する「2015年度グッドデザイン賞」を受 賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとって は貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただいた。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施し た。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」(2015冬号)、「市報1面」(平成27年12月15日号)、 「きょういく武蔵野」1面(平成27年12月15日号)にセカンドスク ール特集として掲載された。
 - ・全国教育長会(厚木市)で、教育長によるセカンドスクールの発表 を行った。

(目的)

- 第1条 この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然 に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活(以下「ファーストスクール」という。)では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。
 - (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
 - (2) 長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
 - (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とかかわる力を培う。

(実施学年)

- 第2条 実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。 (活動内容)
- 第3条 セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。
- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則(昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号)第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会(以下「委員会」という。)に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、 委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

- 第5条 セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、 その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行う ものとする。
- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあ たるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及 び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 セカンドスクールには、看護師を各学校1人同行させるものとし、児童及び生徒の健

康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 セカンドスクールに要する経費は市が負担するものとする。ただし、児童及び 生徒は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。 (その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

(目的)

- 第1条 この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール(武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱(平成14年11月1日施行)に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。)を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。
 - (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
 - (2) 短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
 - (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とかかわる力を培う。
 - (4) 学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。

(実施学年)

第2条 実施学年は、小学校第4学年とする。

(活動内容)

- 第3条 プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別 活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。
- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則(昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号)第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会(以下「委員会」という。)に届け出なければならない。

(実施場所)

第4条 校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的 な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

(指導者等)

- 第5条 プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものと し、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を 行うものとする。
- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあ たるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

5 プレセカンドスクールには、各校につき看護師1人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 プレセカンドスクールに要する経費は市が負担するものとする。ただし、児童は、 食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(~平成14年度)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)		長野県飯山市 戸狩			-	(7泊8日)
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩		
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)		長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)
千川 小学校	山梨県中富町 (5泊6日)	· >	(6泊7日)				>	千葉県銚子市 (7泊8日)
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平	-	(7泊8日)
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)
桜 野 小 学 校 (※ 1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)					-
第一中学校		東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県 足和田村			
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町 			
第三中学校	長野県豊科町	長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校	(6泊7日)	長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市 ▶	静岡県 御殿場市 (4泊5日)			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原(3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)			

^{※1} 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

^{※2} 平成4年 ・・・長野県八坂村にて試行実施(6泊7日)

^{※3} 平成5~6年・・・岩手県遠野市にて試行実施(12泊13日)

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成15年度~)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校						新潟県魚沼市		(6泊7日)
第二小学校		平成16年11月1日 南砺市へ新設合併						
第三小学校				群馬県片品村		-	(7泊8日)	
第四小学校							>	(6泊7日)
第五小学校	群馬県川場村							>
大野田小学校								
境南小学校	(7泊8日)						>	(6泊7日)
本宿小学校								
千川 小学校					山形県鶴岡市			(6泊7日)
井之頭小学校						長野県飯山市 戸狩		
関前南小学校							(8泊9日)	(7泊8日)
桜 野 小 学 校	山形県遊佐町 (7泊8日)					-	(5泊6日)	(7泊8日)
第一中学校	長野県白馬村		W#17/E4818					
第二中学校			平成17年4月1日 十日町市へ 新設合併					
第三中学校								
第四中学校			✓ V¢17年10日1日					
第五中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					
第六中学校			平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併					

23年度	24年度	25年度	26年度	27年月
	(6泊7日)			
新潟県南魚沼市 (6泊7日)				
	新潟県			
· >	新潟県 南魚沼市			
新潟県南魚沼市				
MIND X HI AK 10 11				
長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)				
長野県飯山市				
戸狩 (6泊7日)				
				長野県白
			>	長野県白.
		L		

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	平成17年11月1日 甲州市へ新設合併					千葉県 館山市
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市					
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町				新潟県 南魚沼市
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)							
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)						
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)						
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)					山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)						新潟県 南魚沼市	
千川 小 学 校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	平成18年3月27日 香取市へ新設合併	東京都檜原村 -			
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村					
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)							
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)					→

24年度	25年度	26年度	27年度
·····	山梨県富士河口 湖町西湖		
			>
			>
			山梨県 山中湖村
			山梨県 富士河口湖町
	24年度		

平成 27 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名		実施日				実施場所	現地宿舎										
	第一小学校	9	月	25	В	(金)	~	10	月	1	В	(木)	6	泊	7	В	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校 9 月 27 日 (日) ~ 10 月 4 第三小学校 10 月 19 日 (月) ~ 10 月 25		В	(⊟)	7	泊	8	В	富山県南砺市利賀村	民宿								
	第三小学校	10	月	19	В	(月)	~	10	月	25	В	(⊟)	6	泊	7	В	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	6	月	4	В	(木)	~	6	月	10	В	(zk)	6	泊	7	В	長野県飯山市	民宿
小学校	第五小学校	9	月	16	В	(水)	~	9	月	22	В	(火)	6	泊	7	В	新潟県南魚沼市	民宿
セカン	大野田小学校	9	月	18	В	(金)	~	9	月	24	В	(木)	6	泊	7	В	長野県飯山市	民宿
ドス	境南小学校	9	月	25	В	(金)	~	10	月	1	В	(木)	6	泊	7	В	長野県飯山市	民宿
クール	本宿小学校	9	月	30	В	(水)	~	10	月	6	В	(火)	6	泊	7	В	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9	月	25	В	(金)	~	10	月	1	В	(木)	6	泊	7	В	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9	月	30	В	(水)	~	10	月	6	В	(火)	6	泊	7	В	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校	9	月	25	В	(金)	~	10	月	1	В	(木)	6	泊	7	В	長野県飯山市	民宿
	桜野小学校	0)	月	27	В	(日)	~	10	月	3	В	(土)	60	泊	7	В	長野県飯山市	民宿
	第一中学校	9	月	8	В	(火)	~	9	月	12	В	(土)	4	泊	5	В	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊 ホテル1泊
中学校	第二中学校	5	月	26	В	(火)	~	5	月	30	В	(土)	4	泊	5	В	新潟県十日町市松之山	農家2泊、旅館2泊
セカン	第三中学校	5	月	21	В	(木)	~	5	月	25	В	(月)	4	泊	5	В	長野県北安曇郡白馬村	民宿
ドス	第四中学校	9	月	25	В	(金)	~	9	月	29	В	(火)	4	泊	5	В	長野県飯田市	キャンプ1泊、 農家1泊、旅館2泊
クール	第五中学校	9	月	25	В	(金)	~	9	月	29	В	(火)	4	泊	5	В	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊 ホテル1泊
	第六中学校	9	月	9	В	(水)	~	9	月	13	В	(⊟)	4	泊	5	В	長野県安曇野市	農家1泊 公営宿泊施設3泊
	第一小学校	9	月	16	В	(水)	~	9	月	18	В	(金)	2	泊	3	В	山梨県南都留郡富士河口湖町西湖	ホテル
	第二小学校	10	月	14	В	(水)	~	10	月	16	В	(金)	2	泊	3	В	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第三小学校	6	月	3	В	(水)	~	6	月	5	В	(金)	2	泊	3	В	新潟県南魚沼市	民宿
小	第四小学校	10	月	14	В	(水)	~	10	月	16	В	(金)	2	泊	3	В	群馬県利根郡片品村	民宿
学校プ	第五小学校	9	月	30	В	(水)	~	10	月	2	В	(金)	2	泊	3	В	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
レセカ	大野田小学校	6	月	17	В	(水)	~	6	月	19	В	(金)	2	泊	3	В	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
ンド	境南小学校	9	月	16	В	(水)	~	9	月	18	В	(金)	2	泊	3		山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
スクー	本宿小学校	6	月	3	В	(水)	~	6	月	5	В	(金)	2	泊	3	В	新潟県南魚沼市	民宿
ル	千川小学校	10	月	6	В	(火)	~	10	月	8	В	(木)	2	泊	3	В	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	井之頭小学校	10	月	14	В	(水)	~	10	月	16	В	(金)	2	泊	3	В	群馬県利根郡片品村	民宿
	関前南小学校	9	月	16	В	(水)	~	9	月	18	В	(金)	2	泊	3	В	東京都西多摩郡檜原村	民宿
	桜野小学校	9	月	16	В	(水)	~	9	月	18	В	(金)	2	泊	3	В	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル

小学校也かうドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

9月25日~10月1日(6泊7日)

参加人数 男子30名 女子29名 計59名

〇日程表

ОH	1111						
9	月25日(金)	9月	126日(土)	9月	27日(日)	9月	128日 (月)
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床、朝食	6:30	起床、朝食	6:30	起床
7:35	出発式	9:30	福山森林体験の家	10:00	小出スキー場着	7:30	朝食
			炭焼き、薪割		ハイキング		
12:00	守門着・昼食(弁当)	12:00	昼食(弁当)	12:30	昼食(弁当)	9:00	須原小学校訪問
13:00	開校式	13:00	伐採体験	13:30	小出スキー場発	9:30	交流会
14:00	課題別学習①	16:15	班長会議	14:15	目黒邸見学		稲刈り・はざ掛け
15:10	守門地区散策	17:00	健康観察・入浴	15:00	昔話を聞く会	12:30	昼食(弁当)
16:00	須原小対面式					13:00	須原小学校出発
18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	健康観察・入浴	13:30	農耕舎(見学・脱穀)
19:00	はじめましての会	19:00	手紙書き	17:30	夕食	16:45	健康観察・入浴
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	17:30	夕食
	一日の振り返り		一日の振り返り		一日の振り返り	19:00	天体観測
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯·就寝
9月	月29日 (火)	9.	月30日(水)	1 0	月1日(木)		
6:30	起床、朝食	6:30	起床	6:30	起床		
8:30	教員交代紹介	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	課題別学習②						
12:30	昼食(弁当)	9:00	わら細工作り	8:00	荷物整理・大掃除		
	課題別学習②の続き	11:30	郷土食作り体験	9:00	セカンドのまとめ		
	教員交代	12:00	昼食	10:30	閉校式		
14:30							
15:00	魚沼風景スケッチ	13:30	宿別体験	11:00	守門発		
17:00	健康観察・入浴						
18:00	夕食	15:30	セカンドのまとめ	12:40	昼食(赤城高原 S.A)		
19:00	手紙書き	17:00	健康観察・入浴	14:00	トイレ休憩		
20:00	語らいの時間	18:00	夕食	15:30	学校到着		
21:00	就寝準備		ありがとうの会		帰校式		
21:30	消灯・就寝	20:30	一日の振り返り	16:00	解散		
1	i e	1	1	1	i	1	

21:30 消灯·就寝

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・総合的な学習の時間で5月から児童一人一人がバケツ稲を育て、米作りの過程や、米作りの 難しさなどを実感させた。また、学校の田んぼでは、魚沼から送っていただいたコシヒカリ を育てた。
- ・総合的な学習の時間で夏休みに入る前に、魚沼市について調べてみたい内容を精選し、「歴史」「気候」「自然」「特産品」「米」の5つのグループに分かれ、自分の興味のあることについて調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだこと、学習したことを文章で表現し、課題別学習①のグループ毎で現地の講師の方々に発表する機会を設定した。また、現地の講師の先生から聞いた内容や、自分が見学して分かったことをまとめ、4年生を対象に発表した。
- ・国語の学習で、「セカンドスクールを一文字で表そう」という内容で、現地で決めたセカンド スクールを一文字で表した漢字を書き、自分の成長について表現した。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

現地の講師の方3名にグループごとについてもらい、小出 スキー場の駒見山の頂上を目指してハイキングをした。ハイ キングの最中に見かけた植物の名前の由来や、昆虫の種類 などを説明していただいた。また、自然の中での遊び等を



【頂上から見た魚沼の景色】

教えてもらいながら、自然の楽しみ方を実感できた。散策をしながら、魚沼市の有名な山など 詳しく説明を聞き、自然に興味をもちハイキングをすることができた。

2 星空学習

須原高原スキー場の「星の家」という施設で、講師の方3名に来ていただき、観測を行った。 当日の夜空についての話、天体望遠鏡での観測、双眼鏡での観測と3か所をまわりながら学習 を進めた。当日は、残念ながら空に雲がかかってしまい星空を見ることができなかったが、そ の日はちょうど月が大きくはっきりと見える日だったため、一度だけ月を見ることができた。 講師の方々が様々な資料を提示してくださり、星座や宇宙への興味・関心が深まった。

<社会体験活動>

1 農業体験(野菜の収穫・田植えなど)

地元の魚沼市立須原小学校の5年生と交流会を行い、その後、魚沼農耕舎の方の指導のもと、

稲刈りとはざ掛けを行った。鎌の使い方、束ね方など須原小学校の児童にも教えてもらいながら、共同で作業をすることができた。最後に落ち穂を拾うことも教わり、米を大切にする姿勢も学ぶことができた。その後、足踏み式の脱穀機(大正~昭和初期の物)を使い、脱穀作業も体験することができた。更に、昔はわらを使用して生活に役立つ物を作っていたことも学び、実際にわらを編んで鍋敷きを作成した。



【林業体験 伐採の様子】

2 林業体験

福山森林体験の森に出かけ、炭焼き窯から炭をかき出す作業や、丸太を短く切ったものを斧で薪にする作業などを行った。炭焼き窯での作業を通して、高温の中で仕事をする大変さを、また、薪割り体験では、想像以上に力が必要なことも実感した。ブナ林で、伐採した木をのこぎりで短く切り分け、運び出す作業も行い、友達と協力して作業を行うこともできた。

3 課題別学習(1)(2)

課題別①では「魚沼市について調べよう」というテーマに沿って、事前に学習してきた5つのグループごとに現地で講師の先生に向けて発表した。その後、講師の方から現地の様子や専門的な内容について詳しく話を聞くことができた。課題別②では、魚沼(新潟)を知る学習として、「生活の移り変わり(歴史)」「雪対策と生活や街づくりの工夫(気候)」「中越地震の被害と復興」「奥只見ダムと水力発電」の4グループに分かれて只見線への乗車、鈴木牧之記念館の見学、奥只見ダム、小千谷震災ミュージアムへの見学、除雪車見学等を行った。帰宿後、1日の振り返りの際に児童同士で各グループの内容を交流し合う時間をもつこともできた。

<生活·文化体験活動>

1 郷土食作り

6日目の昼食は、各宿で郷土食の五目御飯作りを行った。米、山菜、クルミなど地元でとれた食材を使う地産地消の考え方は昔からあり、食材を色々な調理法でおいしく食べようとする昔の人々の工夫にも気付くことができた。

2 宿別体験

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験や、河原でのクルミ拾いなど、宿の方々と一緒に活動した。地元で作っている野菜や食材を自分の手で収穫し、食べることを体験し、食料生産の喜びやの食べ物のありがたさを改めて実感できる機会となった。

〇児童の感想

・伐採体験の時、ペアの友達と太い節の部分を 20 分くらいかけて切りました。その時、爽快感を得られました。また、協力してできたので、友達っていいなあと改めて感じました。

- ・稲刈りで、須原小学校の子に手伝ってもらったり教えてもらったりしました。とても優しく してくれました。その感謝を私たちはCOSMOSという歌で伝えることができました。さ ようならをする時、その子と目があった時、にっこり笑って手をふってくれました。そのこ とがセカンドスクールの中でとても印象に残っています。
- ・わら細工は、最初わらがうまく動かなくて大変で、やめたくなりました。けれどお母さんが、「あきらめないで一生けんめいやれば、きれいに作れるよ。」と言ってくれて、がんばろうと思いました。何事も、あきらめないで一生けんめいにやればできることを改めて知りました。
- ・セカンドスクールで、協力したり助け合ったりできるようになったので、これからの学校生活でも、自分の係や当番でなくても自分から進んで行える人になりたいです。そして、これからの学校生活で、人との関わりを大切にして生活していきたいです。
- ・みんなで協力して注意し合い、うまく生活できて充実したセカンドスクールになったなと思いました。班長として班をまとめられて、良かったです。これからの生活でもセカンドスクールで学んだことを生かして、みんなで注意し合いながら仲良く生活したいです。
- ・セカンドスクールでは、人と関わる機会がとても多かったです。例えば、宿で友達と一緒に 過ごしたり、いろいろな体験で協力して一つのことをしたりしました。また、指導員の先生 とも関わったり、様々なところで教えてくれた方々とも関わったりしました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

1 学期の総合的な学習の時間から学校の田んぼやバケツで稲を育て始め、2 学期に稲刈り、はざ掛け、脱穀、精米、収穫まで行い、東京でも実際に継続して育てる活動を行った。2 学期の総合的な学習の時間では、自然、気候、特産品、歴史、米について事前に調べ、調べたことを現地で発表し、講師の方から現地の様子や専門的な内容について詳しく話を聞いたりする時間を持った。また、学習したことや体験したことを4年生に向けて発表し、下学年の児童が来年度への活動に対して興味・関心がもてるようにした。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・1日目に、班毎に指導員と須原地区を周るオリエンテーリングを実施した。各宿を巡りなが ら須原地区の様子を知り、指導員との関係を深めることができた。
- ・課題別学習は、5日目に魚沼(新潟)を知る学習として「生活の移り変わり(歴史)」「雪対策と生活や街づくりの工夫(気候)」「中越地震の被害と復興」「奥只見ダムと水力発電」の4グループに分かれ、只見線への乗車、奥只見ダムや小千谷震災ミュージアムへの見学などを行い、どの場所でも課題を深く追究した。「生活の移り変わり(歴史)」では、今回初めて南魚沼市塩沢の牧之通りに行き、雪国の昔の暮らしを深く知ることができた。
- ・次年度もよりよい活動となるよう、観光協会、現地の小学校と連携を取りながら計画を立て ていく。特に小学校については、校長先生をはじめ、担任の先生とも連絡を取り合い、交流 の仕方をよりよいものにしていく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市利賀村

9月27日~10月4日(7泊8日)

参加人数 男子 32名 女子 30名 計 62名

〇日程表

9 月	月27日 (日)	9月	128日 (月)	9月	29日 (火)	9,	月30日(水)
7:30	集合 (武蔵境駅)	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:35	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:03	武蔵境駅発	8:30	地域散策	9:00	朝会	10:00	朝会
9:44	東京駅発	9:30	そば打ち体験		トレッキング		林業体験
	車内昼食	11:30	昼食	12:00	昼食	13:00	昼食
12:41	新高岡駅着	13:00	稲刈り体験	13:00	峠の一本杉発	13:45	岩魚つかみ体験
13:00	新高岡駅発	16:00	民宿着	15:00	そばの郷着	16:30	民宿着
15:00	利賀村着 開校式	17:00	入浴	16:00	民宿着	17:00	入浴
16:00	民宿着	18:00	夕食	17:00	入浴	18:00	夕食
	はし作り	20:00	民宿の方のお話	18:00	夕食	20:00	民宿の方の話
17:00	入浴	21:30	就寝	20:00	手紙書き(家族へ)	21:30	就寝
18:00	夕食			21:30	就寝		
21:00	就寝						
1 (0月1日 (木)	1 0)月2日(金)	1 0	月3日(土)	1	0月4日(日)
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:15	朝食
9:00	朝会	9:15	利賀小との交流	10:00	相倉合掌集落見学	8:50	閉校式
	課題別学習	12:00	給食	12:30	民宿着	11:46	新高岡駅発
12:00	昼食	13:00	麦屋節のお話		昼食		車内昼食
13:30	そばの郷資料館見学	13:30	利賀小とのお別れ会	13:30	民宿別活動	14:28	東京駅着
14:30	民宿別活動	14:30	劇団スコット見学	17:00	入浴	14:55	東京駅発
17:00	入浴	16:00	民宿着	18:00	夕食	15:30	武蔵境着
18:00	夕食	17:00	入浴		お別れ会		解散式
20:00	お別れ会の準備	18:00	夕食	21:30	就寝	16:00	解散
21:30	就寝	20:00	手紙書き(民宿の方へ)				
		21:30	就寝				

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の年間を通した単元「利賀の森は地球を守る」
 - 1) 二小にある樹木を観察し、種類とその特徴について調べる。
 - 2) 二小の近くの独歩の森について調べ、「武蔵野の森を育てる会」の方をゲストティーチャーに迎えて樹木や森林についての話をしていただく。
 - 3) 森林について課題を設定し、社会科の学習につなげる。
 - 4) 利賀村について、自然や特産物、伝統、歴史などを調べる。
- ・1 学期後半から 2 学期にかけて社会科で農業について学習し、米作りの工夫や仕事をしている人の思いを学ぶ。
- ・社会科の単元を入れ替え「森林とわたしたちのくらし」の学習を2学期に行う。
 - 1) 人工林や天然林、森林のはたらきなどを調べ、その役割について学ぶ。
 - 2) 林業について学習し、林業の仕事をしている人の工夫や思いを学ぶ。
 - 3) 土砂崩れを防いだり、雨水を蓄えたりする森林の役割や、私たちの生活との関わりについて学ぶ。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にまとめる。
- ・お世話になった方々へ手紙を書き、感謝の思いを伝える。
- ・課題別学習ごとに学習したことを新聞にまとめ、発表会に取り組む。
- ・展覧会での取り組み
 - 1) 立体作品「くっつ木パズル」では、セカンドスクールの思い出を木工作品で表現する。
 - 2) 平面作品「木、林、森、そして広がる」では、トレッキングで一本杉を目指して歩いた ことを思い出しながら、自分のイメージした木を墨と筆で表現する。
 - 3)全校共同作品「セカンドスクール20周年記念」では、利賀村で見た樹木を再現する。
 - 4) 造形活動「わら細工」では、利賀村から講師をお招きし、縄のない方や初午の作り方を教えて頂きながら、活動に取り組む。
- ・自分たちで刈ったお米を利賀村から送っていただき、そのお米を炊き、おにぎりパーティー をする。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

グループごとに、現地のインストラクターの方に利賀の動植物についての話を聞きながら歩いた。植物に触れながら、その植物の名前や特徴を学び、生活の中でどのように使われてきたのかについても知ることができた。また、熊の爪の跡や食べ残した跡を見たり、鳥の鳴き声を聞いたりすることで、大自然に住む動物についても考えることができた。社会で学習した人工林、天然林についても、森林の中を歩いたり実際に樹木に触れたりすることで、その違いについて理解を深めることができた。

<社会体験活動>

1 稲刈り

鎌を使って稲を刈る、結ぶ、はさにかける、という一連の流れを体験 した。また、脱穀機での稲の脱穀作業に取り組むことで、昔の農作業の 大変さを実感することができた。稲刈り後は、ライスセンターで稲の精 米行程を見学した。学校での学習と、利賀での農作業体験、ライスセン ター見学を通して、米が食卓に届くまでの人々の努力や苦労を実感する ことができた。



【稲刈り体験】

2 林業体験

森林組合の方々から、木の伐採方法や枝打ちについて話を伺った。実際にチェーンソーを使 った伐採の様子を見学した。ものすごい地響きとともに伐採される様子を見て、林業を営む人々 の工夫や危険などを肌で感じることができた。さらに、大きなのこぎりを使って丸太を切った り、小さなのこぎりを使って細い枝を切ったりする体験をした。昔と今の作業の違いを知り、 体験することで、林業に携わる人たちの苦労と努力、工夫について学習することができた。

3 劇団スコット見学

今年度は利賀芸術公園にある劇団スコットの劇場見学をした。はじめ に、合掌造りの室内劇場で、劇団スコットの歴史や現在の活動について のお話を伺った。合掌造りの劇場では、高い天井と黒を基調とした木材 建築、自然光を生かした造りも演出のひとつだという貴重なお話を聞く ことができた。その後、野外円形劇場を見学したが、大きな池に浮かぶ 舞台と背景に広がる利賀の大自然は圧巻であった。国際的な活動のお話【劇団スコット・野外劇場見学】 も聞くことができ、利賀村と世界とのつながりを学習するよい機会となった。



<生活·文化体験活動>

1 岩魚つかみ

キャンプ場の百瀬川の浅瀬に4つの区切りをつくっていただき、生きた岩魚をつかむ体験に 取り組んだ。苦戦しながらも、普段はできない活動に積極的に取り組んでいた。その後、つか んだ岩魚の腹にカッターを入れ、内臓を取り除く作業を行った。一人一人が岩魚の命と向き合 い、真剣に取り組むことができた。普段何気なく食べている食べ物も、すべて命をいただいて いることを改めて実感し、一口一口しっかりと味わっていただくことができた。

2 民宿での体験活動

8つの班に分かれ、各民宿に分泊した。1週間の生活の中で、食事の準備や片付け、掃除、 荷物の整理整頓など身の回りのことに一人一人が積極的に取り組むことができるようになった。 同時に、友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ち を考えて接したりすることの大切さを身をもって感じることができた。民宿では、野菜の収穫 や選別する体験、藁で草履を作る体験、養殖をしている岩魚の世話、各民宿の特色ある仕事や 利賀の伝統的な活動を体験させていただいた。民宿の方が温かく迎えてくださり、家族のよう に接してくださったことで、「自分たちも民宿の方へ何かできることはないか。」との思いが深 まり、自ら挨拶をしたり積極的にお手伝いをしたりと、感謝の気持ちを言葉や行動で表すこと ができるようになってきた。

〇児童の感想

- ・1週間、友達と民宿に泊まるのは不安だったけれど、民宿の方が優しく迎えてくれたので安心して生活することができた。友達と協力し、励まし合って、乗り越えることができた。
- ・岩魚をさばく時は、かわいそうになって「ごめんなさい。」と言いながらさばいた。食べ物は みんな命からできているんだなぁと思った。
- ・利賀村は、自然がたくさんあって空気がとてもおいしかった。利賀村の方々は、この大自然 の中でいろいろな工夫をして生活していることを知った。日本には、いろいろな場所があっ て、その地域によって暮らし方も違うのだなと感じた。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

<総合的な学習の時間>

「利賀の森は地球を守る」

事前学習では、校庭や「独歩の森」の樹木観察・森林学習に取り組み、武蔵野市の樹木の種類や萌芽更新、雑木林の役割などを学習し、自分たちが住む武蔵野市の自然への関心を深めた。 2 学期に入り、社会科「わたしたちの生活と森林」で、日本における森林の割合やその実態、林業、森林問題について学習し、視野を広げながら学習に取り組んできた。それらの学習をもとに、南砺市利賀村の森林に関心をもち、自ら課題をもって調べ学習に取り組んだ。セカンドスクールでは、原生林トレッキングと林業体験において、学校で学習したことを実際に見たり体験したりすることができた。また、民宿の方にも利賀村の森林や自然についてお話を伺うことで、より学習への理解を深めることができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・セカンドスクールに携わるたくさんの利賀村の方や指導員、看護師、引率教員で連携をとり、 全日程ほぼ予定通り活動に取り組ませることができた。1週間という長期宿泊の中で、児童 は友達と深く関わり、切磋琢磨しながら、様々なことを乗り越えることができた。多くの人 と関わることで感謝の気持ちをもち、それらを自分自身の言葉や行動で表すことができるよ うになった。
- ・今年度は、劇団スコットの見学を日程に組み込むことができた。普段は見ることのできない 劇場内を見学し、世界での活動の様子についても話を伺うことができた。また、課題別学習 でも「世界とつながる利賀」をテーマに劇団スコットから講師の先生に来ていただくことが できた。利賀村と世界とのつながりについて知り、関心を高めることができた。

<課題>

- ・事前に学校側のねらいを明確に示し、内容の厳選や活動形態の工夫などにより、児童の活動 時間を十分に確保し、活動の充実を図る。
- ・民宿での活動内容を把握し、児童が注意すべきことを事前に学校で指導しておく必要がある。 また、民宿での生活について指導員の先生方とも十分に打ち合わせをしておく。

第三小学校

群馬県利根郡片品村

10月19日~10月25日 (6泊7日)

参加人数 男子45名 女子33名 計 78名

〇日程表

1 ()月19日(月)	1 0	月20日(火)	1 0	月21日 (水)	1 0	月22日(木)
-							<u> </u>
0.00	学 拉焦 △ . Ⅲ ※ →	6:00	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:00	学校集合・出発式	6:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	出発	8:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会
11:45	開校式	8:30	尾瀬での自然体験	9:00	稲刈り	9:30	武尊牧場自然体験
12:15	各民宿あいさつ	9:30	鳩町峠				
13:00	昼食(弁当)	12:00	昼食(弁当・牛首)	12:00	昼食(各宿)	12:00	昼食(牧場)
14:00	リンゴ収穫体験			14:00	魚つかみ・さばき・	14:00	牧場出発
		14:30	鳩町峠出発		焼き体験	15:30	うどん作り (各宿)
16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	16:30	夕方の会
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食(うどん)
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	19:00	学習の記録
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯
1 0	月23日(金)	10	月24日 (土)	10,	月25日(日)		
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	朝会		すいとん作り	9:00	朝会		
9:00	収穫体験(各宿)	10:00	朝会	9:30	勤労体験活動		
		10:30	河原体験				
12:00	昼食(各宿)	12:00	昼食 (河原)	11:00	昼食(各宿)		
13:30	ジャム作り	13:30	片付け	12:00	閉校式		
15:00	感謝の会準備	15:00	感謝の会準備	12:30	片品村出発		
16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	15:30	学校着・帰校式		
17:30	入浴	17:00	入浴	15:45	解散		
18:30	夕食	18:00	夕食				
19:30	学習の記録	19:00	感謝の会				
21:00	消灯	21:00	消灯				

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールのめあてや、出発までに行う調べ学習と スライドショーをもとに、一週間の活動について確認した。
- ・尾瀬ヶ原や片品村の自然や特産品、りんご、魚つかみなどセカンドスクールの活動の中から一人一つ課題を決め、図書資料・インターネット情報等を参考にして調べた。 一人一冊の冊子にまとめ、違う課題ごとにグルーピングして、共有した。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成した。事前にカードを民宿へ送付した。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、レク係の係ごとに、開閉校式の司会、部屋の整理整 頓表などを作って準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・学校文集「ぶさんの子」で、セカンドスクールの思い出について作文を書いた。
- ・セカンドスクール報告会を行い、学んだことについて発表した。
- ・3 学期には、4 年生に向けてセカンドスクール報告会を行う。自分たちが体験したこと、学んだことを伝えるとともに、4 年生へセカンドスクールの意欲付けを行う。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 尾瀬ハイキング

2日目の尾瀬のハイキングでは、尾瀬高校の高校生が班に1、2名つき、ハイキングを行った。山の歩き方のマナーや、尾瀬の歴史、植物の名前や由来、水中の生物、どのように尾瀬の自然を守っているのかなどの話をしていただいた。尾瀬ヶ原の周りの山の名前や標高の覚え方を教えてもらっている班もあった。時折、足を止めて植物を見ながら話をする高校生の話を一生懸命聞いたり、質問したりして充実したハイキングを行うことができた。



【尾瀬高生に話を聞く児童】



【尾瀬ヶ原で湿原を観察する児童】

2 武尊牧場自然体験

4日目に武尊牧場でハイキングを行った。2班に1名牧場の方がついて、案内していただいた。尾瀬で見た植物と色違いの植物、ケムリダケや、ヤドリギの木、白樺など武尊牧場にある植物についてたくさん教えていただいた。



【武尊牧場で話を聞く児童】

<社会体験活動>

1 収穫体験

リンゴ収穫体験を行った。ふじという種類のリンゴは、その場で丸かじりをして食べた。事前にリンゴのもぎ方、おいしいリンゴの見付け方などを教えていただき、収穫した。蜜のたくさん入ったリンゴを「おいしい。」と子どもたちは嬉しそうに食べていた。もう一つ、紅玉という種類のリンゴも収穫した。このリンゴは、5日目に各宿でジャム作りに使用した。5日目の午前には、各宿でじゃがいも、トマト、とうもろこしなどの野菜の収穫体験を行った。その野菜は昼食にいただいた。自分たちで収穫した野菜なのでどの児童もたくさん食べていた。リンゴはなぜ赤くなるのか、おいしいリンゴの見分け方などについて学ぶことができた。

2 稲刈り

3日目、稲刈りを行った。宿の方に稲刈りのポイントを教えていただき、稲刈りを行った。8束稲を刈り、それを麻ひもで結んだ。硬く結ぶことになかなか苦戦している児童が多かったが、最後には、落ちている稲穂もきれいに拾い、まとめることができた。最後に、米作りについて質問をし、米作りの苦労や、この地域で育てられている米の種類などについて学ぶことができた。



【稲刈りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 うどん作り

宿の方に教えていただきながら、各宿でうどん作りを行った。うどんの生地作りでは生地を 足で踏んでこねた。その後、機械を使って生地をのばして裁断した。機械にいれると麺ができ て出てくる様子に子どもたちは大喜びだった。作ったうどんは、夕食にいただいた。

2 河原体験

6日目に河原体験を行った。班ごとに、河原の石を拾い、かまどを作った。かまどの向きを考えたり、かまど作りに適している平たい石を選んだりして作っていった。かまどができたら、マッチ5本と新聞紙1枚で火起こしを行った。6日目までに集めておいたスギの葉や白樺の皮を上手に活用し、火を大きくし、薪の組み方も、ジャンボリーでの経験などを生かしてすべての班が火を起こすことができた。その火ですいとんを温め、昼食としていただいた。かまど作り、火起こしを通して班で協力することの大切さを学んだ。

3 ジャム作り

1日目のリンゴ収穫体験で収穫した紅玉という種類のリンゴを用いてジャム作りを行った。 リンゴの皮むきやリンゴを切ることに苦戦している児童が多かったが、鍋で煮て良い香りが漂 ってくると、児童もわくわくした表情で見ていた。ジャムは次の 日の朝食にいただいた。

4 魚つかみ・さばき体験

魚つかみでは、川に放流したニジマスを手でつかみどりし、腹をさばいてはらわたを取り、それを食べる体験をした。まだ動いている魚を前に、苦戦しながら腹をさばいたり、戸惑ったりする児童の姿もあった。講師や指導員の先生、友達に助けてもらいながら、全員がさばくことができた。普段は魚をなかなか食べない児童も、自分でさばいた魚をすべてきれいに食べていた。



【魚をさばく児童】

5 勤労奉仕体験

最終日、お世話になった宿の方々に感謝の気持ちを込めて活動をした。食堂やお風呂の掃除をしたり、宿で使うつまようじ入れを作ったりした。

〇児童の感想

- ・尾瀬で、落ち葉は土の栄養になって森を豊かにすると聞いてすごいと思いました。
- ・稲刈りでは、稲を刈るだけでも大変だった。でも実際はそれ以外の作業もあるので、米の一 粒一粒に苦労があることが分かった。
- ・河原体験では、班でかまどを作り、火をおこしました。今まで一緒に過ごしてきた友達と協力し、チームワークを発揮することができました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

セカンドスクールでの体験を通して、ファーストスクールでは味わえない自然や人との触れ合いを通して、環境保全の必要性や自然に対する畏敬の念などに気付くことができた。また、長期の宿泊により、自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付けたり、友達と協力したり、譲り合ったりすることの大切さを養うことができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・実施時期を秋にしたことで、プレセカンドスクールで田植え、セカンドスクールで稲刈りを 行うことができた。
- ・収穫体験では、自分たちが収穫したものを食べさせていただくことができ、良かった。
- ・ジャム作りでは、生活経験の少なさから、包丁の扱いに個人差が大きかった。事前に家庭で 包丁に触れる機会を設けるなどした方がよかった。
- •10 月下旬の寒い時期だったので、喘息の発作を起こしたり、風邪気味になったりと、体調を くずす児童がいた。
- ・宿の方々との交流の時間を設けたが、宿ごとに交流の時間がばらばらであるなどの差がでて しまった。事前にしっかりと打ち合わせをすべきであった。

第四小学校

長野県 飯山市

6月4日~6月10日(6泊7日)

参加人数 男子38名 女子36名 計 74名

〇日程表

6	月4日(木)	6	月5日(金)	6.	月6日(土)	6	月7日 (日)
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食	9:00	田植え体験	9:00	とん平ハイキング	9:00	ブナ林観察
13:30	戸狩到着・開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
14:00	飯山について	13:30	宿ごと体験	15:00	手すき和紙体験	13:30	ものづくり体験
15:00	はし作り	15:00	雪国のくらし体験	16:30	手紙書き		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
20:00	健康観察	19:30	星空観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
	語らいの時間	20:30	健康観察		語らいの時間		語らいの時間
	今日のまとめ		語らいの時間		今日のまとめ		今日のまとめ
21:30	就寝		今日のまとめ	21:30	就寝	21:30	就寝
		21:30	就寝				
6	月8日 (月)	6	月9日(火)	6月	10日(水)		
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察		
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	林業体験	9:00	焼き板作り	8:00	荷物整理		
12:00	昼食		笹ずし作り		部屋掃除		
13:30	わらぞうり作り	12:00	昼食	9:30	閉校式		
17:30	夕食	13:00	ふるさと体験	10:00	戸狩出発		
19:00	キャンプファイヤー	14:00	セカンドスクールのまとめ	12:00	昼食		
20:30	入浴	16:00	宿の方への手紙	15:00	学校到着・到着式		
	健康観察	17:00	入浴	15:30	解散		
	語らいの時間	18:00	お別れ夕食会				
	今日のまとめ		感謝の交流会				
21:30	就寝	20:30	健康観察				
			今日のまとめ				
		21:30	就寝				

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・本やインターネットで調べ学習をして、自分なりに飯山のイメージをもつ。
- ・セカンドスクール全体を通しての課題を作る。調べ学習を通して興味をもったこと、セカンドを通して明らかにしたいことを課題として設定する。個人で課題を作る。

2 事後の学習内容

- ・お世話になった方々へのお礼の手紙を書き、感謝の気持ちを伝える。
- ・セカンドスクールの体験や学びを作文や新聞にまとめ、校内全体、保護者に発表する。
- ・総合的な学習の時間や社会科の学習と関連させ、新たな課題として「環境」について調べ学 習を行う。
- ・4年生に向けてセカンドスクール発表会を行う。

〇特色ある活動内容

く自然体験活動>

1 とん平ハイキング

とん平高原のハイキングを通して、都会では見られない植物や生き物に触れ、自然に親しむ活動プログラムである。各宿の方々から飯山で見られる植物や生き物の説明を聞きながら山道を進んだ。食べることのできる植物がたくさんあることに、子どもたちは驚いていた。宿の方から草遊びも教えていただき、夢中になって遊んでいる場面もあった。あいにくの雨だったが、途中のリフト乗り場で雨をしのぎながら、宿の方から飯山の地形や米作りの話なども聞くことができた。これからの学習に生きていくとても貴重な話で、子どもたちも興味深く聞いている様子が見られた。

2 ブナ林観察

標高の高い地域で見られる「ブナ林」について理解を深めていくための体験活動である。宿の方から、ブナの木が果たす役割や伐採の歴史など詳しく説明していただいた後、美しいブナの森を歩き自然に親しんだ。ブナを漢字で書くと「橅」。人々は、以前ブナを「木では無い」といってたくさん伐採してしまったという話は、特に児童の印象に残ったようで、自然環境保護の大切さを改めて感じ取った様子であった。

<社会体験活動>

1 田植え体験

体験前に宿の方々からおいしい米を作るには冷たい水やよい土作りが必要であること、また 毎日の世話が重要であることなどを教えていただいた。田植え体験では、初めは土の感触に驚 き、声を上げたり、田んぼに入ることに抵抗をみせたりする児童もいたが、しばらくすると「楽 しい」「土が気持ちいい」と夢中で活動に取り組む姿が見られた。飯山の棚田の様子も、その下 に大きく広がる信濃平の田んぼの様子も見ることができ、帰京後、社会科の農業の学習への理解も深まった。

2 手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」栽培が盛んな地域であり、和紙作りが盛んに行われていた。地域に伝わる伝統工芸に触れ、学んでほしいと考え、飯山市内でも数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、和紙作りの体験学習を行った。 手すき和紙やこうぞについての説明を聞いた後、一人2枚和紙作りを行った。1枚には、菜の花も混ぜ、美しい和紙を仕上げることができた。一つ一つのこだわりが伝統工芸を作り上げているということに対して、児童も理解を深めた様子であった。

<生活・文化体験活動>

1 はし作り

飯山市戸狩で宿の方々から歓迎を受けた開校式の後、児童が現地で初めて行う体験活動が「はし作り」である。セカンドスクール滞在中、毎日の食事で使用する箸なので、児童もよい箸を作ろうと真剣に竹を削っている姿が印象的であった。小刀を使うことが初めてで、難しさを感じる児童も多かったが、宿の方々に教えていただきながら、全員が箸を完成させた。滞在期間中、毎日の食事でこの箸を使用し、宿のご飯がより一層おいしく感じられたようだった。



【民宿の方とふれあいながらのはし作り】

2 わらぞうり作り

雪国の暮らしの中では必需品であった「わらぞうり」を、手作業で作り上げる体験活動である。宿の方々からアドバイスをいただきながら、児童は2時間以上座ったままわらぞうり作りに取り組んだ。根気のいる作業であった分、完成したときの喜びも大きかったようで、自分で作ったわらぞうりを履いて地面を踏みしめる姿からは充実感が感じられた。児童は活動を通し、昔の人々の知恵や自分たちの手でものを作る苦労と達成感を感じ取っていた。



【昔の人の苦労を聞きながらの作業】

〇児童の感想

- ・セカンドスクールで友達の大切さを学びました。セカンドスクールでは、いつも友達と協力 したり、助け合ったりして生活しました。友達と一緒に行動する中で、友達のことをもっと よく知り、仲を深めることができました。
- ・昔の田植えは、工夫して、体を使って、苦労して田植えをしていたのだと感じました。今は、 機械で便利にできるようになっていることが分かりました。
- ・わらぞうりをはいてみると、痛くてしょうがありません。昔の人は、自分でわらぞうりを作り、山などに登っていたことや、雨の日などもわらぞうりをはいていた不便さを十分感じることができました。そのことを思うと今の生活は、とても便利だと思いました。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

本校では、セカンドスクールを第5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。1学期から2学期まで、今年度は51時間の指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名 (・は主な内容)
	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』4月~6月(全40時間)
1 学期	「飯山ってどんなところ?」
	・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。
	・調べ学習のテーマを選択し、インターネットを活用した調べ学習を行う。
	・調べ学習でまとめたことを、1冊の冊子にまとめ、情報交換を行う。
	「セカンドスクール」6月上旬(全27時間)
	・現地での体験による課題の追求
	・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見
	「セカンドスクールをまとめよう」
	・事前学習や現地で学んだことを新聞や報告書で表現する。
	『飯山からの贈り物①』10月~11月(全11時間)
	「セカンドスクールを伝えよう」
	・セカンドスクールを振り返り、新たな課題を話し合う。
	・新たな課題について調べ、まとめる。
2 学期	「セカンドスクール学習発表会」
2 于朔	・発表したい体験活動を考え、グループごとに発表の内容や方法、発表の流れ、役割
	分担などを話し合い、練習や準備をする。
	・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。
	「セカンドスクール交流会」
	・宿の方たちへの感謝の気持ちを伝える。
3学期	『飯山からの贈り物②』(全12時間)
	・セカンドスクールで見付けた新たな課題である「環境」についての調べ学習
	「総合の学習のまとめをしよう」
	・セカンドスクールを中心とした1年間の総合まとめ
	・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事前に、現地の方との打ち合わせを十分に行うことができたため、どの体験でも今後の学習 につながる貴重な話をたくさんしていただき、児童の体験についての理解が深まった。
- ・飯山の自然に親しみ宿の方々の温かさに触れ、武蔵野市ではできない体験をすることができた。実感を伴った知識として身に付いたことが多くあった。
- ・自然に触れる活動が多かったので、飯山の歴史や産業に触れることができる活動をさらに充 実させていく。

第五小学校

新潟県南魚沼市

9月16日~9月22日(6泊7日)

参加人数 男子 34名 女子 41名 計 75名

〇日程表

9月16日 (水)		9月17日 (木)		9月18日 (金)		9月19日 (土)			
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床		
8:30	バス出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
11:30	八海山到着	9:30	グループ学習 1 回目	9:30	五十沢小学校到着 交流会	9:30	塩沢宿見学		
12:00	昼食	11:50	民宿帰着	12:30	昼食(学校給食)	12:00	昼食		
13:00	八海山ロープウェイ	12:00	昼食	13:30	五十沢小学校発	14:30	郷土食作り		
14:30	開校式	13:30	カントリーエレベー ター見学	14:00	雲洞庵到着 座禅体験				
15:00	各民宿へ(付近散策)	16:00	洗濯 入浴	16:00	民宿帰着	16:00	洗濯・入浴		
					洗濯・入浴				
16:30	民宿帰着 入浴								
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ		
20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察	20:30	健康観察		
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯		
9月20日(日) 9月2		121日 (月)	9月	22日(火)					
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床				
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食				
9:30	農業体験 稲刈り・はざかけ	9:30	グループ学習3回目	8:00	荷物の整理				
12:00	昼食	12:00	昼食	8:30	宿舎出発				
13:30	グループ学習 2 回目	13:30	しいたけパックセン ター見学	9:00	学習報告会				
16:00	民宿帰着	15:30	民宿ごとの活動	11:00	明坊士				
	洗濯・入浴		夕食、感謝の会	11.00	閉校式 				
18:00	夕食			11:30	バス出発				
19:00	学習のまとめ			16:30	学校着				
		19:00	入浴	16:40	帰校式				
20:30	健康観察	20:30	健康観察		解散				
01.00	W let	01.00	2014 Jest	1		1			

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

・課題別学習に向けての調べ学習 (「ガイドブックを作ろう」) 「米作りの1年」、「新潟の郷土料理」、「六日町の観光」、「カントリーエレベーター」「新潟の自然」 など、一人一人がテーマを決めて、分担し、担当のテーマについて調べ、調べた内容を班で交流 し合った。写真や図、絵を取り入れたり、表などを用いたりしながら、工夫してまとめていた。 ・社会科との関連(「米づくりについて調べよう」)

2 事後の学習内容

- ・6つのグループ(「米作り」「川の学習」「ぶな林とキノコ」「六日町周辺の植物」「郷土料理」「日本の伝統文化」)に分かれて、学習のまとめを行う。
- ・お世話になった六日町の方々を迎えて交流会を開き、セカンドスクールで学んだことを報告する と同時に、感謝の気持ちを伝える。
- ・4・5・6年生と六日町の方々との合同交流会を設定する。合唱や演奏の披露などして六日町の方と交流し、セカンドスクールで撮影した映像を解説付きで映すスライドショーを実施した。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ

初日に、ロープウェイに乗り八海山山頂まで登った。快晴とはいかなかったが、水田が広がる 新潟の平野や中央を流れる魚野川の様子、小高い山の中腹にあるこれから一週間滞在する上野原高 原などの地形が一望できた。

2 課題別学習

①川の学習

②植物観察

川の源流では湧水に触れ、山から湧き出る小さな流れが集まり、 大きな流れになることを実感することができた。合わせて、森の 役割、川の石の様子について学ぶとともに、箱根サンショウウオ などの珍しい生き物にも実際に触れ、身近に観察した。



【川の学習】

民宿付近のお松の池に自生するじゅんさいや、珍しい食虫植物であるタヌキ藻の観察をした。 タヌキ藻が絶滅危惧種であることを知って、子どもたちは驚き、自然を大切に守っていかなければ ならないという気持ちを強くもった。

③ブナ林とキノコ

ブナ林の中でキノコの種類、生え方の特徴、キノコの増え方などを学んだあと、実際に探す活動を通して、キノコに関心を強めていった。また、落葉樹で地上の水をたっぷりと蓄えるブナ林の役割についても学び、環境問題を考えるきっかけにもなった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・はざかけ体験)

民宿の方々や、講師の方々による指導のもと、一人一人が鎌を使って稲刈りを体験した。中腰になって行う作業を1時間以上にわたり続けることで、農作業の厳しさや苦労を知るとともに、技術の進歩によるコンバインでの稲刈りが、生産力を上げる上で大きく貢献していることを理解することができた。事前に、農家の方から稲を育てる手間や苦労を聞いた子どもたちは、刈った稲を東ねるとき、1本の落ち穂も出さないように丁寧に作業しようとする様子が見られた。



【稲刈り体験】

2 カントリーエレベーターおよび精米所の見学

社会科の授業で学習したカントリーエレベーターを実際に見学し、その大きさと迫力を改めて感じることができた。また、科学技術の力で、トラックに米を積んだまま米の重量が測れるシステムや、モミが付いた稲が、短時間で精米されていく様子を興味深く見学した。

<生活・文化体験活動>

1 郷土食作り

民宿の方やインストラクターの方の指導のもと、ちまき作りやそば打ち、まいたけご飯づくり、もちつきなど日常生活ではできない体験ができた。

2 民宿での生活

家庭を離れ、自分でできることは自分でするという目標のもとに、洗濯や布団たたみ等慣れない活動にも取り組んだ。はじめのうちはうまくできずに指導員や民宿の方に注意されていたのが、日を追うごとに上手になっていく様子が見られた。友達と一週間寝食を共にすることで、お互いの知らなかった一面を発見したり、時にはぶつかり合いながら、次第に友情を深めていったりする姿が見られた。また、毎日おいしい食事を作ってくださり、「いってらっしゃい。」「おかえり。」と温かく見守ってくださる民宿のお父さんやお母さんとの触れ合い、指導員の先生方との触れ合いを通して、自分を支えてくれる多くの方の愛情を感じ、感謝する気持ちをもつことができた。

3 雲洞庵での座禅体験

1300年の歴史が感じられる雲洞庵の建物や庭園の雰囲気に、子どもたちは「日本の伝統」を肌で感じ取れた様子だった。座禅体験では「精神を集中させるのが難しかった。」と苦戦しながらも、人から人へ受け継がれた文化を自分たちも共有している喜びや、心を「無」にする初めての体験を味わうことができた。



【雲洞庵】

4 句会

毎日の学習のまとめの時間に、その日見た六日町の風景や、体験したことをもとに俳句を一句ずつ作る活動をした。6日目の夜に指導員の先生も交えて句会を開き、一番票を集めた句を宿ごとに選定し、最後の学習発表会で全体に披露した。

〇児童の感想

- ・牧之通りを見学して、六日町の歴史を知るいい機会となり中島屋や記念館では貴重な資料を見る ことができよかった。
- ・セカンドスクールでは、食事の準備がたくさんできたので、家でもできるといいです。
- ・農家の人たちから届けられた米は、水分を 15%落とすと聞いてびっくりしました。ご飯は、鮮度が大事ということが分かりました。
- ・座禅が、こんなに難しいなんて初めて知りました。本当は、木の棒でたたいてほしかったです。
- ・感謝の会で少しだけ泣きそうになりました。宿のお父さんとどうしても別れたくないのですごく さみしいです。
- ・5日目になるとだんだん生活にも慣れてきました。整理整頓にも慣れて、部屋をきれいにできる ようになりました。
- ・川の温度が 10 度なのに高い温度だと聞いてびっくりしました。長靴を履いていても、水が冷たく感じられました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

宿舎の生活では、自分たちのことは、自分たちの力でやろうとする中で一人一人が考えて行動する力が伸びた。はじめのうちは失敗してもあれこれ試す中で創意工夫も生まれ、自分たちの力でできたという喜びや自信につながっていった。また、共同生活の中で交友関係が広がったり、より深まったりしたことで、仲間意識が高まった。お互いに励まし合い、声を掛け合う光景も多くみられるようになった。

また、学習や生活を支えてくださる方に感謝する気持ちをもつことができるようになった。思いやりや温かい人間関係がもたらす心地よさに気付くことで、今後のファーストスクールでの人間関係にも良い影響をもたらすことが期待される。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

比較的、余裕のあるプログラム内容で一つ一つの活動を十分時間をかけて体験することができた。 子どもたちが全員体調を崩すことなく、全行程を終了できたのもこのゆとりが要因の一つであった と思う。

次年度以降の課題としては、課題別学習の内容が、場所によって量、内容の難度に差があったことと、今回のようにメインの坂戸山登山が中止になったときの雨天プログラムの再考が挙げられる。 観光協会の方と連携を図り、より充実した内容のプログラムを目指していきたい。

大野田小学校

長野県飯山市

9月18日~9月24日(6泊7日)

参加人数 男子62 女子51名 計113名

9月	18日(金)	9月	19月(土)	9)	月20日(日)	9)	月21日(月)
7:30	学校集合	6:00	起床·健康観察	6:00	起床·健康観察	6:00	起床·健康観察
	出発式	7:00	朝食・片付け	7:00	朝食・片付け	7:00	朝食・片付け
9:00	関越道	9:00	トレッキング	9:00	課題学習(1)	9:30	農業体験(1)
	練馬 IC	12:00	昼食	12:00	昼食		稲刈り
9:20	高坂 SA	15:00	民宿到着	13:00	課題学習(2)	12:00	昼食
11:00	佐久平 PA	15:30	周辺散策	16:00	はがき書き	13:00	農業体験(2) 脱穀
12:00	小布施 SA 昼食	17:00	入浴	18:00	夕食・片付け	17:00	バーベキュー
13:30	開校式	18:00	夕食	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
15:00	はしづくり	19:00	今日のまとめ	20:00	星空観察	21:00	消灯
18:00	夕食	20:00	星空観察	21:00	消灯		
20:00	今日のまとめ	21:00	消灯				
21:00	消灯						

9月	122日 (火)	9月	123日 (水)	9月24日 (木)		
6:00	起床・健康観察	6:00	起床·健康観察	6:00	起床·健康観察	
7:00	朝食・片付け	7:00	朝食・片付け	7:00	朝食・片付け	
9:00	課題学習(3)	9:00	宿別プログラム(2)	8:00	荷物整理	
12:00	昼食		郷土料理体験		大掃除	
13:30	宿別プログラム(1)	12:00	昼食	9:00	学習のまとめ	
	農業に関すること	13:00	宿別プログラム(3)	10:20	閉校式	
16:00	宿での活動		クラフト体験	10:40	戸狩出発	
18:00		15:00	お礼の会準備	11:20	小布施 SA	
		18:00	夕食・片付け		昼食	
19:00	夕食・片付け	18:30	お礼の会	13:30		
	今日のまとめ				横川 SA	
20:00	星空観察	20:00	健康観察	14:40	高坂 SA	
21:00	消灯	21:00	消灯	16:00	帰校式	

1 事前の学習内容

- ・社会科と関連付け、雨温図を活用して長野県飯山市戸狩の気候の特色を調べて適切な服装を 考えたり、長野県飯山市までの経路や人口について学習したりした。「日本のよさを発信し よう」というめあてをもって学習を進め、セカンドスクールでも「日本のよさ」「戸狩のよ さ」を見つけようという見通しをもたせる学習を行った。
- ・家庭科と関連付け、戸狩で生産されたアスパラガスを使用して調理実習を行い、戸狩の特産品へ関心を高めた。
- ・長野県飯山市の伝統や文化、産業について本やインターネットで学習し、疑問やもっと知り たいと思うことを見付け、自らの課題をもってセカンドスクールに取り組むことができるよ うにした。
- ・班長や生活、入浴等の係ごとに分かれてセカンドスクールに向けての準備を進めた。セカンドスクール前から協力する場面を設定することができた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことを整理し、報告会ができるようにスライドを作成した。
- ・スライドを用いて、戸狩の民宿の方々と4年生に向けて、報告会を行った。
- ・小中学校セカンドスクール報告会に向けて、発表者決めやスライドの編集をした。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 トレッキング

天候に恵まれ、2日目に民宿の方と共にとん 平トレッキングを行った。子どもたちが日常生 活では経験しない険しく長い道のりだったため、 自然と声を掛け合い助け合う姿が見られた。下 山後には、達成感を味わうだけでなく、仲が深 まったり、新たな人間関係ができたりしていた。 山頂から戸狩全体を見わたすことで自然の美し さ、豊かさを感じることもできた。

6泊7日という長い宿泊行事に取り組むため に、チームビルディングを目的としたトレッキ



【トレッキングの様子】

ングを2日目に設定したことは効果的であった。このことは、子どもたち自身も感じており、 まとめのプリントにトレッキング前後での人間関係の変容について書いていた。

1 農業体験(稲刈り・脱穀)

秋実施に変更することができたため、稲刈りと脱穀を行った。稲刈りをしたことがない子どもも多く、機械を使わずに広い田の稲を鎌で刈っていく大変さを感じていた。脱穀は、千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、一粒も無駄にしないように手で取ったり、拾ったりした。農家の人が熱い思いをもって米を育てていることを学ぶことができた。



【脱穀した米を集めている様子】

2 今日のまとめ

毎晩、「今日のまとめ」の時間を設定した。各自「今日のまとめ」の時間までに活動を振り返り、「戸狩のよさ」「自分や友達のよさ」「明日の自分、明日のわたしたち」の3つの項目について記述した。その日の体験をもとに「戸狩のよさについて」考えることで、雪、川、稲作が深い関係をもっていることに気付かせることができた。「自分のよさ」を振り返ることで、客観的に自分の行動を見つめ直すことができるようになったり、明日からの自分の行動を考えたりすることができるようになったりと成長が見られ、自己肯定感を高めることにつながった。友達のよさを考える項目では、同じ宿に宿泊する児童同士の結束を高めることができ、人の心を理解しようとしたり、意識的に協力しようとしたりする姿勢が見られるなどの成長があった。「明日の自分、明日のわたしたち」では、自分たちの生活をよりよくするためにはどうしたらよいのか真剣に話し合い、日々の自分たちの成長を確かめ合い、さらに次の目標に取り組む姿勢が身に付いてきた。

<生活・文化体験活動>

1 郷土料理体験

長野県飯山市の郷土料理である笹ずしを作った。笹ずしの起源について説明を受けた。宿によっては笹を取りに行くところから活動を始めた。5年生から学習が始まった家庭科で学んだ包丁の使い方を活用することができた。自分たちで作った料理を食べ、より食への興味を高めることができた。

調理でも協力し合う姿を見ることができた。 6日目ということもあり、チームワークも高まっていた。



【郷土料理「笹ずし」を作っている様子】

〇児童の感想

戸狩の人たちや自然、そのよさに触れ、そして自分たちの住む武蔵野市と比べることで、「自分たちの住む武蔵野市でも、武蔵野市にしかないよさを見つけていきたい。」と述べていた。また、近代化が進む現代社会と戸狩の自然を対比して考え、「自然環境のことを考えた社会をつくっていくべきだ。」と考えを述べていた。これからの社会や自然、自分たちの在り方を考えるようになっていた。

「友達と声をかけ合うこと、相手を認めること、相手の気持ちを考えることが大事だ。」と、 多くの児童が実感していた。これまでもそのような考えはあったものの、大人から教えられて いただけの表面的なものであった。共同生活の中で、互いの意見が衝突したり、それを反省し たり、友達に認められたりする中で、子どもたちがその価値を獲得していった。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

「日本のよさを発信しよう」という単元目標を確認し、戸狩のよさを学ぶことができた。「戸狩でもそうだったように」や「セカンドでの体験と比べると」など、日本のよさや特徴を考えるときに、比較対象として学習したことを生かしたり、自分の意見の根拠としたりする場面に生かすことができた。

友達のよいところを見つける活動を1学期から行い、セカンドスクールでは、その経験が生かされた。セカンドスクール後は、男女関係なく認め合ったり、より具体的に友達のよいところ見付けたりすることができるようになった。セカンドスクールで交流の仕方が身に付き、共同学習を円滑に進める力が高まった。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

課題学習では、インストラクターとして宿の方が主となって活動をした。しかし、教師が主となって活動をする方が時間配分と内容ともに効果的な場面があった。来年度は、さらに連絡を密にとって細かく分担していく。

指導員の人数によって宿での生活習慣に大きな差がでた。指導員が1名の宿では、10名以上を1人で見なくてはならず、難しいところがあった。各宿に、男女1名ずつ配置できるとよい。今回のセカンドスクールは天気に恵まれ、活動に問題はなかったが、トレッキング、農業体験、課題学習は天候に左右される。新たな雨プログラムがあればより安心できると思う。

【宿の方との事後確認より】

- ・トレッキングや農業体験で、お弁当を持たせずに現地で配ったことで児童の負担が少なく、 またゴミの回収も素早く行うことができた。
- ・稲の露を乾かすねらいもあり、農業体験の稲刈りの出発時間を遅らせた。子どもも宿側も時間的にも身体的にもゆとりができ、その後の活動への集中力が増した。
- ・トレッキングのルートは緊急時に備えてさらにいくつかのルートを確保する。

境南小学校

長野県飯山市

9月25日~10月1日(6泊7日)

参加人数 男子34名 女子36名 計70名

9月	9月25日(金) 9月26日(土)		月26日 (土)	9月	27日(日)	9月28日 (月)	
7:45	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	学校発	6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察
12:00	小布施SAにて	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
	休憩・昼食	9:00	わら細工作り	9:10	涌井見学	9:00	とんだいらハイキング
13:30	カントリーエレベーター見学	12:00	昼食	12:00	昼食	11:30	昼食
14:30	開校式	13:30	おやき作り	13:00	手紙書き		
14:45	各民宿へ	14:30	学年集会	14:00	野菜収穫たき火体験	14:00	とんだいら発
15:00	箸作り・周辺散策			15:00	すいとん作り		
16:30	夕会	16:30	夕会	16:30	夕会	15:30	夕会
17:00	入浴	17:00	入浴・学習の記録	学習の記録 17:00 入浴・学習の記録		16:30	入浴・学習の記録
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習の記録	19:00	飯山の自然文化の話	19:30	星空観察	19:00	お別れ会計画
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9	月29日 (火)	9月30日(水)		10月1日(木)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
6:45	健康観察	6:45	健康観察	6:45	健康観察		
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食		
9:00	ブナ林散策	8:30	稲刈り体験	9:00	閉校式		
11:00	千曲川見学	11:30	笹ずし作り	9:15	飯山発		
12:00	もちつき(昼食)	12:00	昼食	11:10	昼食		
13:30	宿別体験活動	13:30	脱穀作業・夕会	14:30	学校着		
16:30	夕会	15:30	民宿大掃除	14:45	帰校式		
17:00	入浴・学習の記録	16:30	入浴・学習の記録	15:00	解散		
18:00	夕食	17:30	夕食 (バーベキュー)				
19:45	お別れ会リハーサル	19:00	お別れ会				
21:00	就寝	21:00	就寝				

1 事前の学習内容

- ・「稲を育てよう」というテーマで、総合的な学習の時間に実際にバケツに種もみをまき、 稲を栽培する体験活動を行った。発芽や分げつの様子など、成長過程が分かるように観察 記録をとり、水の管理に気を配って世話をした。夏休みには自宅に持ち帰り、友達と順番 に世話をしながら観察を続けた。毎日熱心に観察を続け、成長の様子を喜んでいる姿が見 ることができた。店で売られた状態の米しか目にしたことのない児童が多く、種もみから 稲が育つことに驚き、本物の田んぼでの稲刈りを楽しみにするようになった。
- ・飯山の農業、自然、歴史など、事前に学習課題を選択した。学習課題が決まると事前学習 と現地での体験活動とのつながりも明確になり、児童の関心が高まった。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクール終了後、各自の学習課題に沿い、書籍やインターネットなどを利用して 調べ学習を行った。同様のテーマの児童が集まってグループを作り、パソコンの発表ソフトを使ってスライド資料を作成した。資料作成にあたり、インターネット上の情報だけで なく、実際に体験したことや見聞きしたことを大切にするように指導した。
- ・セカンドスクールの発表会は、保護者や指導員を招いて学年合同で行った。資料はキーワードを中心に、伝えたいことを分かりやすくまとめることができた。保護者からは、各グループが意欲的に調べ、活動に取り組んだ様子がよく分かると好評だった。
- ・今年度はセカンドスクール、全校実施 20 年目ということで、1月に小中合同セカンドスクール報告会を行った。校内発表会での内容や資料を精選し、飯山での生活の特色や活動内容等について報告した。各校の活動を知り合うことで、より理解を深めた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ぶな林散策

5日目、バスで鍋倉山まで行き、ぶな林散 策を実施した。茶屋池からぶな林の中に入れ ば、枝葉が大きく広がり、少しひんやりとし た場所であった。現地では、グループごとに 森林ガイドの方にぶな林の説明をしていただ きながら散策を楽しんだ。

雑木林の根が張り巡らされ、大雨が降っても少しずつ水を蓄える機能をもち「緑のダム」と言われるゆえん、ぶなの葉の見分け方や実の特徴、森で生きる動物たちとぶな林とのつながりなど、ガイドさんの説明を熱心に聞いていた。



【ぶな林散策でガイドさんの話を聞く】

1 農業体験

前日までの天候不良により、2日目に計画していた農業体験を6日目に変更して行った。 午前中は稲刈り、午後は脱穀を行った。田んぼに行く前に、帽子、長ズボンに長袖、軍手、 首に巻くタオル、長靴など、服装の確認をした。集合場所では、宿の方から手順について説 明を受けた。ここで手刈りの方法について、手ほどきをしていただいた。特に鎌の扱い方に ついては、危険のないように気を付けることをしっかり確認した。

田んぼに移動して、宿ごとにご主人から説明を受けた。児童は張り切って田んぼに入って行くが、始めはぎこちない動きで、苦労しながら稲刈りをしていた。しかし徐々に鎌の扱いや稲の東ね方にも慣れ、班の仲間と声をかけ合って熱心に作業をしていた。また、落ち穂拾いをする宿のご主人を見て、一つ一つの稲を大切に育て大事に扱っていることを知り、一緒に落ち穂拾いをしながら稲を東ねる姿も見られた。はぜかけが終わると、刈った場所に広い空き地が現れ、児童は汗だくだったが、達成感や満足感に満ちあふれていた。

民宿の方に、バインダーとコンバインによる刈り取りの様子を見せていただいた。手刈り とは比べものにならない作業スピードに、機械が動き始めると一斉に歓声が上がった。機械

での作業を見学したことで、農作業の機械化が生み出した効率性を改めて実感できた。

午後は場所をトピアホールの軒先に移して、昔の脱穀の方法を体験した。千歯こきは力の入れ具合が難しく、苦労する子どももいたが、足踏み脱穀機ではリズムをつかみ、熱心に作業していた。こうした活動を通じて、お米が自分たちの食卓に届くまでには農家の方のさまざまな工夫と苦労があることを再確認するとともに、昔の人々がその時代の技術に応じて知恵をはたらかせて稲作を行ってきたことに感心していた。



【コンバインによる稲刈り見学】

<生活·文化体験活動>

1日目、それぞれ宿に着くと、セカンドスクール期間中に自分自身が使う箸を作った。ちょうど良い長さの竹を宿の方にご準備いただき、小刀とやすりをうまく使って、食べやすい細さに削っていった。小刀は普段使い慣れていない児童も多く、安全に十分注意しながら取り組んだ。熱心に取り組み、それぞれ納得いく箸が完成した。

また、6日目には、この地方に伝わる郷土料理の1つの「笹寿司」を調理した。熊笹の葉の上に酢飯をの



【笹寿司作りの様子】

せ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜やクルミ、卵焼き、紅しょうがなどを盛り付けていた。児童は、昼食としてそれぞれオリジナルの笹寿司を作って食べた。好きなものを選んでのせることができ、作るのも食べるのも大満足の様子であった。

〇児童の感想

- ・はし作りでは、小刀を使って竹をちょうどよい細さまでけずります。上手にできたと思ったけど、あまり食べやすくはなかったです。だけど自分で作ったはしなので、大事にとっておこうと思います。
- ・稲をかり、結ぶということを何回もくりかえしていると、どんどんつかれてきました。今は機械を使って稲かりをしているけど、昔は全部手でやっていたのかと思うと、大変だし、とてもつかれるなと思いました。
- ・東京ではあまり田んぼを見たことがありませんでした。しかし飯山は、一面田んぼでした。 こんな風景は見たことがなかったので、一生の思い出になりました。
- ・一週間、友達と共同生活をして、友達とたくさん話をしました。そして仲良くなりました。 また、宿のお父さん、お母さんがいろいろなことを教えてくださり、初めて知ったことが たくさんありました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・稲刈り、脱穀(丸ごと1日農業体験) ⇒ 社会科「くらしを支える食料生産」
- ・カントリーエレベーター見学 ⇒ 社会科「くらしを支える食料生産」
- ・涌井見学・ぶな林散策(環境について考える) ⇒ 社会科「わたしたちの生活と森林」
- ・千曲川見学 ⇒ 理科「流れる水のはたらき」
- ・セカンドスクールでの生活 ⇒ 本校の研究テーマ「健康教育」との関連

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度から始めた箸作り体験では、自分達がこれから使う箸を丁寧に作ることができ、食の大切さやありがたさを改めて考えることができる良い機会となった。今後も継続できる と良い。
- ・宿ごとに飯山の自然や文化についての話を聞く活動を行った。学習課題に沿った話になる よう、宿の方々と打ち合わせをし、児童の関心を高めることができた。
- ・天候不良により、当初計画していた日時を変更することが多かったが、宿の方や戸狩観光 協会の方と連携して、計画していた全ての行程を行うことができた。
- ・食物アレルギーへの対応として、今後も宿の方と保護者の十分な打ち合わせが必要になる。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

9月30日~10月6日(6泊7日)

参加人数 男子30名 女子22名 計52名

9)	月30日(水)	1 0)月1日(木)	1 (0月2日(金)	10月3日(土)			
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面		
11:30	上の原地区到着	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
	昼食	9:00	稲刈り体験	9:00	笹団子づくり	9:00	塩沢宿ウォーク		
12:30	開校式	12:00	昼食	11:00	八色の森公園・昼食	12:30	昼食		
13:30	箸づくり	13:10	大崎小学校交流	11:30	児童交流	13:30	課題別グループ体験		
14:20	<u>∸ 44-44 4</u>			10.00	しいたけパックセン		調査活動(米,自然,川,		
14:30	自然観察			13:30	ター見学		郷土料理,雪国,歴史)		
16:00	周辺散策	16:00	周辺散策	16:00	周辺散策	16:00	周辺散策		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴		
20:00	民宿の方や友達との	20:00	民宿の方や友達との	20:00	民宿の方や友達との	20:00	民宿の方や友達との		
	交流		交流		交流		交流		
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝		
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯		
1 (0月4日(日)	1 0)月5日(月)	10月6日(火)					
6:30	起床・検温・洗面	6:00	起床・検温・洗面	6:00	起床・検温・洗面				
7:30	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食				
9:00	わらぞうり作り	8:30	大崎小と合流	8:30	雲洞庵				
12:30	昼食	10:30	藤崎海岸浜遊び		座禅体験				
14:00	カントリーエレベー ター見学	11:30	魚調理体験	11:30	昼食				
16:00	お別れ会準備	12:30	昼食	12:30	閉校式				
18:00	バーベキュー	14:30	漁港市場見学	13:00	上の原地区発				
19:00	入浴		せり見学	16:30	学校着				
20:00	民宿の方や友達との	18:00	宿着		帰校式				
	交流	18:30	夕食・入浴						
21:00	健康観察・就寝	20:00	お別れ会						
21:30	消灯	21:00	健康観察・就寝						
		01.00	304 Jer						

1 事前の学習内容

- ・課題別体験学習に向け、南魚沼の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙 げ関心のあるテーマを決めてグループづくりを行う。グループごとに事前に、本やインター ネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが現地で調べたい課題をつくる。
- ・大崎小学校と自己紹介カードの交換をする。また、交流会で行う発表の練習をする。

2 事後の学習内容

・課題別学習のグループごとに体験して調べてきた内容をまとめ、4年生に紹介する。

〇特色ある活動内容

<課題別体験学習>

自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりすることで、より意欲的 に問題解決に取り組むことができた。

1 米

「米作りがどのように行われているのか」、「農家の人の苦労や工夫している点は何か」といった課題をもって活動に臨んだ。手作業による稲刈りの体験から、実際に農家で行われている機械を使った米作りに興味をもった。刈り取りと同時に脱穀選別を完了できるコンバインが稼働する所を見学することで、機械化による効率性を実感していた。また、米作り農家の方に、様々な質問をし、答えていただいた。さらに、カントリーエレベーターや精米所見学から、社会の学習で学んだ米作りだけなく、日本の農業についても深く学ぶ機会となった。

2 郷土料理

「郷土料理にはどのような工夫があるのか」「六日町ではどんな料理の仕方が主流なのか」といった課題をもって活動に臨んだ。南魚沼に昔から伝わる籾殻を燃料にした「ぬか釜」による炊飯を体験した。米の後に残る籾殻が利用できること、杉の葉を使うと火が付きやすいことなども知った。さらに郷土料理「きりざい」を実際に作り、ぬか釜で炊いたご飯にのせて食べた。食材を余すことなく使いきること、上手に保管し長期間食べられるようにする等、様々な工夫が郷土料理にはあることを学んだ。また、塩につけて食品を保存する雪国の人々の知恵を知ることができた。

3 自然

「六日町にはどのような生き物がいて、どのような植物があるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。色々なカエルを観察して、たくさんの種類を学ぶことができていた。また、土を掘りおこし、腐棄土が層になっていることや、そこにどんな生き物がいるのかを調べた。その他にも触ってはいけない漆等の植物について教えてもらったり、蜂がきたのときの対処法などを話してもらったりした。「緑のダム」といった森の役割などについても興味をもち、自然や環境について考えるよい機会となった。

4 JII

「六日町の川にはどのような栄養があるのか」「川にはどのような生き物がいるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。川の源流である「雷電様の水」に行き、水が湧く付近で、サン

ショウウオを発見した。また、川の水の成分についての話を聞いたり、川の温度を計って、いくつかの川と温度を比べたりした。普段見られない生き物を見たり、話を聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。

5 雪国

「大雪の中どのように生活しているのか」「雪の利用方法は何か」といった課題をもって活動に臨んだ。1,000 トンの雪を収容する雪中貯蔵庫を見学した。日本酒の熟成だけでなく、野菜等の貯蔵にも使われていることを知り、1年間を通して雪が活用されていることに驚いていた。また、民宿の方の話や写真等から、冬の上の原地区の様子や大雪に対しての備えなどについて知ることができた。また、牧之通りで雁木や縦型信号機など町の中の雪国のくらしの工夫を見付けることなどからも、雪国の暮らしと生活する人々の様子について学ぶことができた。

6 歴史

「六日町で有名な武将はどのような人か」「坂戸城とはどのような城なのか」といった課題をもって活動に臨んだ。坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったかなど、坂戸山からの景色や住居の跡などを実際に見ながら話を聞くことができた。「坂戸城はなぜ負けたことがなかったか」など、講師の方に、子どもたちの質問に答える形でわかりやすく説明していただいた。また、雲洞庵見学や座禅体験なども、上杉景勝や直江兼続の生涯を知る機会となった。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り、はざかけなど)

稲刈り体験では、宿の方や地域の方に稲の刈り方と東 ね方を教えていただき、作業を進めていった。その後、 刈り取った稲を昔ながらの乾燥方法「はざかけ」をした。 今では機械を使って短時間で行われていることなどにつ いても話を聞いた。米作りの作業の一端を体験すること で米作りの大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間 をかけて米を作ってくれているおかげで自分たちが米を 食べられることを感じることができた。



【青空の下の稲刈り体験】

<自然体験学習>

1 上の原地区自然観察

周辺散策で毎日訪れるお松の池周辺の植物や生き物について詳しく学んだ。食べられる実や食べられない実があること、葉っぱを使った遊び、カエルの種類や持ち方なども教わり、豊かな自然を存分に楽しむことができた。自然環境や自然と共に生きてきた人々の暮らしについても学ぶことができた。

<生活・文化体験活動>

1 郷土料理作り(笹団子)

各民宿で、宿の方や地域の方に教わりながら、笹団子作りに取り組んだ。地元の方が講師として来てくださり、交流しながら笹団子作りを行っていた。笹団子作りでは最後はしばる作業があった。昔ながらの「しばる」作業に初めは悪戦苦闘していたが、次第に慣れ、生き生きと活動に取り組み、できあがった笹団子をおいしそうに食べていた。

2 わらぞうりつくり

宿の方、地域の方に教わりながら自分の足の大きさに合うわらぞうりを作った。わらで履き物を作りあげる昔の人の知恵や、右左を同じ大きさに作ることの大変さ等に気付き、最後まで根気強く作業をしていた。出来上がると、わらぞうりをはき、歩いて感触を確かめていた。

3 大崎小学校との交流

現地の南魚沼市立大崎小学校の5年生と交流を行った。大崎小学校の体育館で互いの学校紹

介やグループで交流できる遊び、ドッジボールを行った。最初はぎこちなかったものの、少しずつ打ちとけ、「また地引網で会おう。」と言葉をかけ合っていた。

交流2日目はバスで一緒に新潟県能生方面へ行った。海の荒れの影響で、地引網体験が急遽中止となり、藤崎海岸を交流しながら浜遊びをした。また、魚調理体験やせりの見学、バスレク等を通して、さらに交流を深めることができた。



【藤崎海岸での浜遊び】

〇児童の感想

- ・ 笹団子作りは最後にしばるのが難しかったけど、講師の先生に教えてもらったらできるよう になったのでうれしかった。そのあと、周辺散策で食べた笹団子はとてもおいしかった。
- ・大崎小の子と、こんなに仲良くなれるとは思わなかった。また会いたいと思う。
- ・川の学習で、サンショウウオを見ることができたのがとても嬉しかった。
- ・宿のお父さんお母さんとの別れはとても悲しかった。また同じメンバーであの宿に泊まりに 行きたい。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

「課題別体験学習」では、事前学習において、社会科での「気候を生かした人々のくらし」や「農業とわたしたちのくらし」の学習、南魚沼の調べ学習等を通して、更に調べたい課題を各自設定し、6 グループに分かれて学習を進めた。

事後学習では、4年生に課題別学習で学んだことを、図やグラフを使ったり、劇にしたり等 工夫して伝えることを通して、それぞれの課題に対する理解を更に深めることができた。

また、現地において行った自然観察は、社会科「わたしたちの生活と環境」等の学習の中で、 実際に体験したこととして活用していく。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・どのプログラムでも子どもが生き生きと活動し、普段できない体験を行うことができた。
- ・子どもたちが普段触れ合うことのできない自然と触れ合い、自然と親しむことができていた。
- ・ 荒天のため実施できないプログラムがあった。雨天に対応したプログラムや天候に左右されないプログラムを考えていく必要がある。

千川小学校

新潟県南魚沼市

9月25日~10月1日(6泊7日)

参加人数 男子26名 女子19名 計45名

9	9月25日(金) 9月26日(土)		9月27日(日)		9月28日 (月)		
8:00	学校出発	6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:30	朝食	6:50	朝会	7:00	朝食
12:30	開校式	9:00	各宿出発	7:30	朝食	7:30	片付け
14:00	各宿到着	9:30	後山ブナ林森林トレ ッキング	9:00	わら細工作り	9:00	坂戸山登山
14:45	出会いのつどい	12:00	昼食	12:00	昼食	11:00	昼食
14:50	マイはし作り	13:30	ちまき作り	13:00	わら細工作り	12:00	下山
16:00	班長会	14:30	宿での活動	15:00	八色の森公園	14:30	八海山ロープウェー
17:30	語らいの時間	16:30	班長会	17:30	夕食	18:00	夕食
18:00	入浴	18:00	夕食	18:45	お家の人への手紙	18:30	天体観測
19:30	健康観察	18:30	ナイトハイク	ハイク 20:00 入浴		20:00	入浴
		20:00	入浴・健康観察	20:40	健康観察	20:40	健康観察
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9	月29日 (火)	9	月30日(水)	10月1日(木)			
6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔		
7:30	朝食	6:50	朝会	7:30	朝食		
9:00	各宿出発	7:30	朝食	9:00	各宿出発		
9:30	稲刈り実習	9:30	三国川ダム見学	9:30	笹団子作り		
12:00	昼食		頭首工・浄水場見学	12:00	昼食		
13:30	カントリーエレベー ター見学	12:30	昼食	12:40	各宿お別れ式		
14:00	雲洞庵座禅体験	13:00	各宿での活動	13:00	閉校式		
18:00	夕食	18:00	夕食	13:20	レイホー八海出発		
18:40	お別れ会準備	18:50	お別れ会	16:30	学校着、到着式		
20:00	入浴	20:00	入浴				
20:40	健康観察	20:40	健康観察				
21:00	就寝	21:00	就寝				

1 事前の学習内容

- ・2 学期に社会科の学習において、米作りの盛んな地域の特徴や米作りの方法やその工夫など、 安心でおいしいお米を作るための人々の工夫や努力について学んだ。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼のコシヒカリを学校田に植えて成長を観察した。稲を手で植 えることの難しさや自分たちが稲刈り体験をする稲はどのように育つのかを知ることができ た。また、お米をテーマに栄養や品種、歴史など児童が興味をもったことについて調べ学習 を行い、知識を深めることができた。
- ・セカンドスクールで活動することや南魚沼の特徴など、自らが興味をもったことについてインターネットや本を活用して調べた。事前に調べたことでセカンドスクールへの関心がさらに高まった。また、それぞれが課題をもち、セカンドスクールに取り組むことができた。

2 事後の学習内容

- ・事前に決めていたテーマについて現地で体験・見学したことをもとに新聞、本にしてまとめ た。自分が経験したことを分かりやすくまとめることができた。
- ・セカンドスクールでの印象に残った出来事を作文にした。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイで八海山の展望台まで上がった。晴天にも恵まれ、南魚沼の全景を臨むことができた。田が広がり、米作りが盛んな土地であること、川と山に囲まれた自然豊かな場所であることを実感することができた。

2 坂戸山登山

現地の登山ガイドの方や宿の方と一緒に坂戸山の登山を行った。 道の途中で見られる草花、昆虫などの説明も聞くことができ、 自然を体験しながらの登山ができた。標高は低いが、武蔵野の子 には険しい山である。登り切ったことは大きな達成感につながっ た。



【坂戸山登山の様子】

3 後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林を散策した。ガイドから、自生する植物について 教わり、すべての植物と生物がお互いに関わり合っていることを学ぶことができた。また、笹 船や植物を使って音を出すなど昔ながらの遊びも教えていただいた。

1 稲刈り実習

始めに鎌の使い方など指導員に丁寧に教えていただいたことで 怪我もなく、素早く稲刈りをできるようになった。また、落ち穂拾 いを行い、米の一粒でも大切にすることを学んだ。はざかけまで 行うことで稲刈りの一連の流れを理解することができた。



【稲刈り実習の様子】

2 カントリーエレベーター見学

施設を見学することで、収穫されたお米の貯蔵の方法を学ぶことができた。いろいろな行程 を経ておいしいお米ができていることを見学することができた。

3 雲洞庵見学、座禅体験

名刹雲洞庵の見学と座禅体験を行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ 集中するという貴重な体験ができた。

4 水の再生プログラム

生活や農業を支える豊かな水がどのようにして生まれるのか、三国川ダム・頭首工・畔地浄水場を見学しながら学ぶことができた。また、森のダムである、ブナ林のトレッキングで自然の貯水に目を向けることができた。浄水場では武蔵野市と南魚沼市との水の浄水方法の違いなどを学ぶことができた。

<生活·文化体験活動>

1 各宿での作物収穫活動

各宿の畑に行き、野菜などの収穫を行った。実際に収穫した作物を食べることで、地産地消を体験することができた。

2 わら細工作り

地元の方を講師に迎え各宿でわらぞうりを作った。「時間をかけて丁寧に作ろう」とめあてを 決め、苦戦している児童もいたが、完成させた満足感を得られた。講師の方からの話も伺い、 米どころならではの生活を体験を通して学ぶことができた。

3 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統食を実際に作る体験をした。ちまきは次の日の自分の朝食になることもあり、 笹でもち米をくるむことを一生懸命行っていた。最終日に行った笹団子作りは、宿の方との最 後の交流となり、6泊7日の思い出を語らう意味でも、非常に有意義な時間となった。

〇児童の感想

- ・一番印象に残ったのは、坂戸山登山です。登りだけでなく下りも大変だったけれど、下に着いた時は達成感がありました。
- ・セカンドスクールで作ったマイ箸を今でも使っています。
- ・お米を作ることの大変さを知りました。今までよりもっと感謝の気持ちをもって食べたいと 思いました。
- ・大人になったら、みんなで宿のお父さん、お母さんに会いに行きたいです。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

セカンドスクールでは、自立、協力などを目標に日々の活動に取り組んでいる。ファーストスクールにおいても目標としているところだが、家庭を離れての生活経験ができることはほとんどない。そのためセカンドスクールの6泊7日は、自分が身に付けてきた自立や協力する力を改めて考え、実践し、改善する機会として位置付けている。

また、人とのかかわりを大切にし、体験を通して学ぶことの楽しさや苦労を味わえるような活動を設定している。その中で自分で新たな課題を見つけ、それを解決していく力や方法を考えたり、身に付けたりすることは、ファーストスクールへとつながっている。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

6 泊 7 日の間、児童は多くの経験を積むことができた。何よりも武蔵野では味わえない貴重な自然体験や学習体験をすることができた。子どもたちは生活の中から自然のすばらしさ、人とかかわることや協力することの大切さを学び、第二のふるさとを得ることができた。

課題としては、「後山ブナ林森林トレッキング」と「水の再生プログラム」の実施方法が挙げられる。

森林トレッキングは、ブナ林が水源林として機能していることなどを知ることができ、良かった。さらに、ガイドの方の人数を増やすことで学習の効果を高めたいと考えている。

水の再生プログラムの内容はダムの放流の様子を見学するなどもあり、子どもたちにとっては貴重な体験となった。しかし、座学でのダムのしくみや三国川ダムの歴史についての学習は、児童にとって少し難しかった。今後は、ダムの見学を中心にして、より分かりやすくダムの役割を理解させていきたい。

井之頭小学校

長野県飯山市

9月30日~10月6日(6泊7日)

参加人数 男子 33名 女子 35名 計 68名

9 月	月30日 (水)	1 0	月1日(木)	1 0	月2日(金)	10月3日(土)			
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床		
8:00	出発	8:30	田んぼへ出発	8:45	カントリー エレベーター見学	9:00	郷土食作り		
12:00	戸狩到着 開校式	9:00	米作りの話	10:00	和紙すき体験		(笹寿司・もちつき)		
13:00	昼食	10:00	稲刈り・はぜかけ	12:00	昼食	11:30	昼食		
14:00	箸作り	11:30	昼食	13:30	飯山の学習	13:00	わらぞうり作り		
15:30	里山散策	12:45	脱穀	15:00	とんだいら散策	16:00	終了 宿ごと解散		
17:00	健康観察	15:00	入浴	17:00	健康観察	17:00	健康観察		
18:00	夕食	16:00	雪国のくらし学習	18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	宿の方のお話	18:00	夕食	20:00	手紙書き	19:00	暗闇体験		
20:00	入浴	20:00	ふり返りの時間	20:30	ふり返りの時間	20:00	ふり返りの時間		
20:30	ふり返りの時間	21:30	消灯・就寝	21:30 消灯・就寝		21:30	消灯・就寝		
21:30	消灯・就寝								
1 (0月4日(日)	1 0)月5日(月)	1 0	月6日(火)				
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床				
8:30	ブナ林へ出発	9:00	課題別学習	8:00	荷物整理・大掃除				
9:00	ブナ林散策	12:00	昼食	9:30	閉校式				
11:30	グリーンパルで昼食	13:30	宿ごと勤労体験	10:00	戸狩出発				
13:00	飯山のすてきスケッ チ	15:30	感謝の会準備	12:00	横川SAで昼食				
15:00	終了 宿ごと解散	16:00	健康観察	14:30	学校到着				
16:30	健康観察	17:30	夕食		帰校式				
17:30	夕食 (バーベキュー)		感謝の会	15:00	解散				
19:00	入浴	20:00	入浴						
20:00	ふり返りの時間		荷物の整理						
21:30	消灯・就寝	20:30	ふり返りの時間						
		21:30	消灯・就寝						

1 事前の学習内容

- ・社会科の授業で「日本の農業」と関連させ、稲作についての学習を行った。田植えまでの過程を学び、学校の水田で田植えをした。植えた苗は戸狩から送っていただいたもので、セカンドスクールで行う稲刈りへの動機付けとなった。
- ・家庭科の授業で、飯山から、特産品であるアスパラガスを送っていた だき調理実習を行った。直接食材に触れ、自ら調理したことにより飯山 の食材への関心を高めることができた。
- ・総合的な学習の時間で、現地での課題別学習に向けて、インターネット や書籍を使って興味・関心のある項目を調べた。そして中間発表会を 行った。課題内容は現地の方の専門分野も考慮し、①米、野菜作り
 - ②戸狩の生き物 ③飯山の歴史、伝統文化(飯山仏壇) ④飯山の植物
 - ⑤郷土料理 ⑥飯山の暮らしや土地 の6つに分けた。



【学校の水田で田植え】

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことを作文にまとめた。
- ・現地での稲刈りの経験を生かして、育てていた稲を収穫・脱穀をした。
- ・セカンドスクールの内容を4年生へ伝えるために、課題別学習のグループごとに学習してき たことを画用紙にまとめた。そして、発表の準備を行い、学年で報告会を行った。
- ・宿の方に感謝の手紙を書き、12月に宿の方に来校していただいて、「感謝の会」を開いた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 茶屋池周遊ハイキング

各宿のお父さん方とともに、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についてのお話を聞いた。



【大きなナメクジ】

ハイキングの途中、ブナに触れたり、ブナの実を拾ったり、ブナの木の音を聞いたりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。大きなナメクジや森にいる生き物、生息しているキノコ、植物についても目で見たり触れたりしながら学習した。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生き物や人間との関わりを実感することができた。

2 棚田や自然のスケッチ

稲刈りを行ったあぜばたでスケッチを行った。様々な色を見せる 山々、黄金色の田など、秋の里山の美しさを感じ取っていた。景色 の美しさに思いを馳せ、心豊かな感性を育む素晴らしい体験となっ た。

【スケッチの様子】

1 農業体験(稲刈り・はぜかけ・脱穀)



【はぜかけについての説明】

作業前に農業の工夫や苦労、働くことの意義などを話していただき、農業への関心や稲刈りへの意欲を高めることができた。 宿のお父さん方の指導で稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。

稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に 取り組む姿が見られた。はぜかけでは、稲穂の束ね方から教え ていただいた。脱穀では、時代ごとの脱穀の道具を使いながら、 時代の移り変わりや、人々の苦労を学ぶことができた。

全ての作業を通して、落ちている稲穂を拾って大切にしたことで、「一粒のお米も無駄にしてはいけない」という思いをもてた。

2 地域についての学習(飯山について・雪国のくらし)

それぞれ学習の講師を宿の方にお願いし、多段式消火 栓、傾斜が急な屋根など、実際に取り組まれている暮ら しの工夫や生活の知恵を紹介していただき、直接学習す ることができた。児童は事前学習での知識だけでなく実 物を見たり触れたりしたことで具体的に理解を深めるこ とができた。



【飯山の小学生が使用するスキー板】

<生活・文化体験活動>

1 郷土料理作り

宿の方の指導で、「笹寿し」を作った。笹を自分たちで取りにいくことから始めた班もあった。笹寿しの起源や工夫された食材、食べ方などの話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷 土料理に興味を示していた。



【わらぞうり作り】

2 わらぞうり作り

最初は悪戦苦闘していたが、宿の方の指導もあり、全員 半足は編むことができた。 2 時間半、座ったまま作業を行った分、編み上げた際には、かなりの達成感を感じていた。 また、宿の方が編みながら話をして下さり、わらぞうりは 昔の人々にとって大切な履物であるとともに、壊れやすい ので替えを常に用意しておかなければならないものである ことを知って驚いていた。

〇児童の感想

- ・心に残ったことは、郷土食作りです。飯山の食や歴史を一度に学べ、笹寿しをしっかりおい しく作ることができたからです。食を通して歴史を知ることができてよかったです。
- ・お米が甘かったです。そのおいしいお米を自分で作った竹のはしで食べることができ、とて もうれしかったです。宿のお父さん、お母さん、おいしいお米をありがとうございました。
- ・心に残っているのはブナ林のハイキングです。ブナの木に触れて、命を感じたり他の植物に ついて教えてもらったりして楽しかったです。これからも自然を大切にしていきたいです。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

・セカンドスクール全体のめあてとして、次の2点を重点的に指導した。①自ら課題を見付け、 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を身に付ける。②集団生 活や自然体験学習を通して、互いを認め、互いを高め合う。これらのめあてを常に意識させ たことで、特に①に関してはセカンドスクール後の学芸会への取り組みでも成果が見られた。 グループ練習では互いに見合う中で、よりよい劇を目指して高め合うことができた。②につ いては、まだ成長できる部分がある。具体的には、互いによいところは認め改善点も伝えら れるようにすること、目先の楽しみにとらわれずやるべきことを判断し実行できるようにす ることである。①と共に今後も意識させていきたい。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・スケッチを「ふれあい広場」で行う予定であったが、蜂の巣があるということで稲刈りを行ったあぜばたで行った。「飯山のすてき」というテーマをもとに、棚田に限らず山々や街並みなど児童ならではの視点で個性豊かな作品を仕上げることができた。トイレも敷地内にあり、児童管理がしやすい場所であった。来年度も利用していきたい。
- ・6日目の課題別学習では、最初にファーストスクールで学習してきたことを発表し、児童が どのようなことを知っているのか、講師の方々に把握していただいた。その後活動に移った ことで、講師の方々も教える内容を絞ったり広げたりすることができ、好評だった。今年度 からの試みであったが、来年度にも引き継いでいきたい。
- ・飯山についての学習を3日目に行ったが、宿の方から、早めに行った方がその後の活動が充 実するのではないかという意見をいただいた。そこで、来年度は開校式後、昼食を食べてか ら行うようにスケジュールの組み替えを観光協会に提案した。
- ・今年度まで飯山仏壇工場と大規模農業の見学を、課題別学習の際に行っていた。しかし、飯山の文化や現状を知るためには、学年全体での見学が効果的と考えた。そこで来年度は、和紙すき体験と飯山仏壇工場見学、大規模農業見学を3つのグループでローテーションをして周ることを観光協会に提案した。

関前南小学校

長野県飯山市

9月25日~10月1日(6泊7日)

参加人数 男子26名 女子30名 計56名

9月	25日(金)	9月	26日((土)	9月	27日((日)	9月	28日(月)
7:30	学校集合、出発式	6:30	起床・健康	チェック	6:30	起床・健康	チェック	6:30	起床・健康チェック
8:00	出発	7:00	清掃・布団	整理	7:00	清掃・布団	整理	7:00	清掃・布団整理
12:00	戸狩到着、昼食	7:15	朝食		7:15	朝食		7:15	朝食
13:00	開校式	9:00	茶屋池ハイ	茶屋池ハイキング		森林伐採作	業体験	9:00	稲刈り・落ち穂拾い
14:00	避難訓練					のろし台山	頂で		• 脱穀体験
14:45	自己紹介(宿ごと)	11:30	集合写真			景色のスケッチ			
15:30	箸作り	12:00	昼食		12:00	昼食		12:15	昼食
16:30	周辺散策	13:30	わら細工		13:15	洗濯体験		13:30	イナゴとり
17:00	健康観察・入浴	15:00	餅つき		14:00	薪集め		15:00	お別れ会の準備
18:00	夕食準備・夕食	16:00	健康観察·	入浴	15:15	郷土食作り		16:00	学習のまとめ
19:30	めあての確認	16:30	学習のまと	: b)	16:30	学習のまと	め	16:30	薪割り・ご飯炊き
20:00	学習のまとめ	17:00	薪割り・こ	. 飯炊き	17:30	夕食準備・	夕食	17:30	夕食準備・夕食
20:30	健康チェック		夕食準備・	夕食準備・夕食		健康観察・入浴		18:30	健康観察・入浴
21:30	消灯	19:00	お別れ会準備		19:00	学習のまとめ		19:00	学習のまとめ
		21:00	健康チェック		20:00	星空観察		19:30	家族へのお手紙書き
		21:30	消灯	消灯		健康チェック		20:45	健康チェック
					21:30	消灯		21:30	消灯
9	9月29日 (火)	•	į,	9月30	日(水)		10月	1日(木)
6:30	起床・健康チェック		6:30	起床・健	康チェッ	ク 6:30		起床・健康チェック	
7:00	清掃・布団整理		7:00	清掃・布	団整理		7:00	清掃・ス	布団整理
7:15	朝食		7:15	朝食			7:15	朝食	
9:00	宿ごとの体験活動		9:00	火起こし体に	験・かまど作	=り・野外炊飯	8:00	荷物整理	理
12:00	昼食		11:30	昼食			8:30	大掃除	• 奉仕活動
13:00	課題別学習		13:00	宿ごとの	活動		10:00	閉校式	
17:00	健康観察・入浴		15:00	お別れ会	準備		10:30	戸狩発	
17:30	薪割り・ご飯炊き		17:00	健康観察	・入浴		12:00	昼食	
18:00	夕食準備・夕食		17:30 夕食準		夕食		14:00	休憩	
19:30	お別れ会準備		19:00	19:00 お別れ会			15:30	学校着	・帰校式
20:00	学習のまとめ		20:00	学習のま	とめ				
20:45	健康チェック		20:45	健康チェ	ック				
21:30	消灯		21:30	消灯					

1 事前の学習内容

- ・1 学期の社会科「米づくりのさかんな地域」では、自分たちの食べている米がどのように食 卓まで運ばれてくるのかを調べ、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間では、バケツ稲を育てた。種もみを選ぶ→芽だし→種まき→田植え→ 中干し→落水→稲刈りの順に、実際に自分たちで稲を育て、米を一粒育てるだけでも大変な 苦労があることを実感できる学習となった。また、「飯山探検隊」では、セカンドスクールで 行く飯山市の産業・自然や郷土食について、本やインターネットを使い、調べ学習を行った。 自分が設定した課題について、セカンドスクールの課題別学習の際に、事前に調べたこと等 について体験し追究する見通しがもてた。
- ・セカンドスクールの目的や活動内容を、パワーポイントを使って児童に紹介した。また、宿舎内で係に分かれ役割を分担し、係ごとにめあてを決めたり、仕事内容の確認をしたりした。 さらに、宿舎に自己紹介カードを送り、宿の方が事前に児童を知ることができるようにした。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後に生かしていきたいことをまと めた。また、各学級の代表者の作文を文集「けやき」に掲載した。
- ・「セカンドスクール・思い出川柳」を作り、学校便りに掲載したり、宿の方に送ったりした。
- ・セカンドスクールで学んだことを6つのグループに分け、パワーポイントやパネルを使って 4年生とお世話になった宿の方に発表した。写真や劇、クイズなど発表方法を工夫したこと により、より分かりやすい発表となった。
- ・家庭科「食べて元気!ご飯とみそ汁」では、飯山市で脱穀したお米を使ってご飯を炊き、いただいた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 茶屋池ハイキング

ハイキングは、ブナ林と茶屋池の周辺を歩いた。宿の方を先頭に、宿ごとに時間差をつけて 出発したことで、宿の方に現地の自然について詳しく教えていただく時間を確保でき、植物や 生き物に触れたり、説明を詳しく聞いたりすることができた。特に、ブナの木は水を蓄える働 きがあることを、ちょうど小雨が降っていた天候を利用し、木の幹から水が地面へと流れてい く様子を理解することができた。ハイキングの終着点である標高 1100mの光が原高原では、天 気の関係で日本海を一望できなかったが、頸城平野を眼下に景色を楽しみながらお弁当を食べ ることができた。

1 農業体験(稲刈り・野菜の収穫)

2日目に稲刈り体験を行った。稲の校長先生(宿のおじいさん)から、稲について様々な知識を教えていただいた。鎌を上手に使って、約1時間半稲を刈り取った。刈り取った稲を4~5本ひもでしっかりとまとめ、脱穀作業を行った。千歯扱きと足踏み脱穀機を使って脱穀をした。昔の人の知恵に驚きながら、何回も脱穀を行ううちに上手に使えるようになっていった。また、稲の穂が全て脱穀できてい



【鎌で一つ一つ丁寧に収穫】

るかを確認し、機械で穂が取れないものは手で一粒一粒つまみ取ることでお米の大切さを実感することができた。最後にコンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに「おお!」という歓声が上がった。昔は家族総出で稲刈りをしていたが、今はコンバインを一人で操作して一日で収穫できてしまうほど、労働生産性が向上したことが分かった。

5日目は、各宿の畑で収穫体験をした。野沢菜や落花生など自分たちが育てたことがないものから、さつまいもや枝豆などの身近な野菜まで、丁寧に収穫することができた。たくさん汗を流した後に、自分たちが収穫した野菜を食事に出していただき、食のありがたみを感じながら食べることができた。

2 森林伐採体験と山頂からのスケッチ

3日目に森林伐採体験を行った。森の家の講師の方に森林伐採の目的やのこぎりの使い方、作業をするときの注意事項を教えていただいた。宿ごとにそれぞれの場所に分かれて、安全に伐採することができた。一生懸命に切った木が倒れ、森に光が差し込むと、子どもたちは嬉しさから笑顔が溢れた。また、その後のろし台の山頂まで登った。山頂まではアップダウンが激しく、飯山城を守るための戦国時代の戦略であることを学びながら山頂を目指した。ようやく着いた山頂からの眺めに「すごい。」という歓声が上がった。山々に囲まれた稲作地、その間を流れる千曲川が自然の雄大さを物語っていた。山頂に座り、感動的な景色をスケッチした。

<生活·文化体験活動>

1 郷土食作り

長野県の郷土食であるうどん・おやき・笹ずしの3つのグループに分かれて郷土食を作った。 うどん作りでは、気温や湿度が大きく関係してくるため同じ分量でも班ごとにこしの強さが変わっていた。どの班も上手にうどんをのばしながら、包丁で切ることができた。おやきは、カボチャの餡を入れるときに餡が外に出てしまったり、生地が分厚すぎてしまったりするなど、作ることが難しかった。上杉謙信に野戦食として送ったと言われる笹ずしは、自分たちが食べているお寿司のイメージとは異なり、海のない県ならではの山の幸の具材をたくさんのせたものであることを学んだ。それぞれの具材を食べる順番があり、一つ一つに意味があることを学びながら作ることができた。作った郷土食はその日の夕飯となり、子どもたちは自分たちが作った郷土食は格別においしかったと感想を話していた。

2 火起こし体験(かまど作り・野外炊飯)

6日目に自分たちの力でかまどを作り、火を起こしてカレーライス作りをした。火を起こしたことがない児童がほとんどのため、事前に各宿でかまどの作り方・薪割りのしかた・マッチの擦り方・薪の組み方・火の持続のしかたなどを夕飯作りの際に学んだ。当日は、使用できるマッチの本数を3本と決め、児童に火起こしに取り組ませた。

全部の宿が自分たちの力で火を起こし、カレー ライスを作ることができた。ご飯が炊きあがった



フイスを作ることができた。こ飯が炊きあがった 【マッチ1本で火起こし】 ときには「やったあ。」という声がどの班からも聞こえ、児童が達成感を得る体験となった。

〇児童の感想

- ・一番自然を感じた場面は、のろし台から見る黄金色の稲や山々が連なる景色と、途中で食べたぶどうと橅の実だ。武蔵野市では感じることのできない自然を感じることができた。
- ・野外炊飯ではみんなで協力して火を付けることができ、チームワークの大切さを学んだ。
- ・自然の大切さや素晴らしさ、標高が高い地域でのくらしの工夫などを学ぶことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連

学校や家庭での基本的な生活や学習のルールやマナーを、宿での生活や公共施設の見学を通して生かすことができた。また、自分で健康管理をし、7日間、大きな病気やけがをすることなく過ごすことができた。さらに、友達との集団生活や飯山の人々との交流を通して、望ましい人間関係を築くことができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・宿の方々と様々に活動を行えるよう、事前・事後も含めてプログラムを組むことで、児童は、 宿の方への感謝の気持ちを持ち、交流を深めることができた。
- ・森林伐採体験では、昨年、活動の場所が狭かったため、宿ごとにある程度離れて行うことで ゆとりをもって安全に活動できた。
- ・郷土食作り、わら細工、課題別学習は、グループによって活動時間に差が出てしまっている ため、帰宅時間を合わせられるように内容を調整する。

桜野小学校

長野県飯山市

9月27日~10月3日(6泊7日)

参加人数 男子 52名 女子 65名 計117名

	27日(日)	9月	28日 (月)	9月	29日 (火)	9)	月30日(水)
7:30							(,1,0)
	学校集合	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
	出発式	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	バス乗車・出発	9:00	米作りの学習	9:00	宿ごと体験		
12:00	昼食	10:00	稲刈り		(笹寿司作り)	9:15	ブナの森ハイキング
14:00	戸狩到着、開校式						
	部屋割り	12:30	昼食	12:00	昼食	12:30	昼食
	里山散策			14:00	宿ごと自然体験	14:00	宿ごと食体験
	笠 佐 い	19.00	매스 높다.	15:00	毎日のノミュ 学習		(餅つき・ジャムづく
	箸作り	13:30	脱穀	15:00	雪国のくらし学習		りなど)
				16:00	手紙書き		
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
		19:00	星空体験				
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯
1 0	月1日(木)	1 0	月2日(金)	10月3日(土)			
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床		
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食		
				8:00	大掃除、荷物整理		
9:00	カントリー	0.00		0.00	4-4488		
	エレベーター見学	9:00	焼き板工作	9:30	閉校式		
	和紙すき体験			9:50	戸狩出発		
12:30	昼食	12:30	昼食	10:00	飯山シャンツェ		
14:30	わら細工(亀)				見学		
		13:00	宿ごと勤労体験	12:00	昼食(横川SA)		
				15:00	学校着、帰校式		
18:00	夕食	18:00	夕食	15:30	解散		
		19:00	感謝の会				

1 事前の学習内容

- ・1 学期の社会科の授業で行った「気候を生かした地域の暮らし」の学習において、飯山市や 雪国の暮らしにふれ、現地に行った際の学習への意識付けを図った。また、循環型農業やカ ントリーエレベーターの役割について学習し、日本の食料生産の抱える問題点やこれからの 農業について理解を深めた。
- ・1 学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。バケツを使った田植えを行い、稲穂が実るまでの様子を学校で継続して観察した。手作業で体験をすることで米づくりの苦労を実感することができた。
- ・2 学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単元では、長野県飯山市についての事前学習を行った。「自然」「雪国の生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」「米」「伝統工芸」などのテーマについて調べ学習を行い、個人の課題を決定した。

2 事後の学習内容

- ・個別の課題についてセカンドスクール中にメモしたしおりや資料を活用して、まとめに取り 組んだ。
- ・インターネットや図書資料を活用して課題について探究した。
- 調べたことや体験したことを新聞にまとめた。
- ・友達と作品を読み合い、ポスターセッション型の発表会をしたり、廊下に掲示したりクラス ごとに発表方法を工夫した。
- 1週間で体験した活動について活動ごとまとめて、4年生に説明し、その際に自分たちで撮 影した写真などを使って紹介した。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 茶屋池周遊ハイキング

ハイキングでは、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて直接的に学ぶことができた。なぜ飯山のお米がおいしいのかということについて、ブナの森が蓄えた豊富な水が大きな役割を果たしていることを知ることができた。森にすむ生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、疑問がその場で解決されていった。ハイキングを通して、自然と触れ合い、自然と生物との関わりを実感することができた。

2 星空体験

東京では体験できない、真っ暗な道や田んぼのあぜ道を歩く体験を行う予定だったが、当日は、武蔵野市とは違う暗闇よりもスーパームーンの明るさ、月の美しさに深く感動したりすることができた。大自然を肌で体感し、畏敬の念を育む貴重な体験となった。

1 農業体験(稲刈り・脱穀)

作業の前に日本の稲作や農家の苦労などを宿の方に話していただき、米の大切さや稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。宿の方々の指導で、稲刈り・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、勢いよく手前に引くように刈っていった。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・ハーベスターの3種類の農具を体験した。千歯扱では、もみをより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。手前に引くと一気にもみが落ちる迫力にも感動していた。足踏脱穀機はさらに多くの量を手早く脱穀でき、農機具の発達や仕組みの工夫に驚く児童もいた。最後にハーベスターでの脱穀の様子を目の当たりにし、手作業の大変さを実感できた学習であった。一方では、手作業だからこそ汗をかく素晴らしさや気持ちよさを感じる児童も大勢いた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものであり、他の活動との関連を図っている。主な活動は、カントリーエレベーターの見学とわら細工である。カントリーエレベーターの見学を実施することで、稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えやすくした。わら細工では、もみを落とされたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について、ともに学ぶことが出来た。



【足踏脱穀機で脱穀する様子】

<生活·文化体験活動>

1 笹ずし作り体験

宿の方の指導で、「笹ずし」作りを行った。笹ずしの起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、乗せる具材を調理して作るところから始めたことで、達成感もあったのかおいしそうに食べている様子がみられた。

2 宿ごと食体験

宿ごとの食体験では、りんごジャム作り、餅つき、おやき作り等が行われた。りんごジャム作りではりんごを細かく切り鍋で煮詰めてパンなどにつけて食べた。餅つきでは米をふかしたあと宿のメンバーで餅をついて、しょうゆやあんこ、きな粉をまぶして食べた。おやき作りは、飯山で獲れた新鮮な野菜を具材として様々な味のおやきを作った。どの宿も武蔵野市では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。



【笹ずし作りの様子】

〇児童の感想

- ・稲刈りに昔ながらの手作業で取り組み、作業の大変さ難しさがよくわかった。
- ・班の友達に分からないことを教えてあげたり、教えてもらったりしながら、協力して7日間 生活することができてとてもよかった。友達にやさしくできるようになった。
- ・宿の方の話を詳しく聞いたり、学んだことをすぐにメモしたり、今まで苦手だったことが少 しずつできるようになった。
- ・ブナの森ハイキングで見つけた植物や生き物を宿のお父さんに聞いたり、後で調べたりする ことで、たくさんの知識を身に付けることができた。
- ・学校ではあまり話さなかった人とも少しずつ話せるようになって、とてもうれしかった。
- ・セカンドに行く前は、時間を守ることが苦手で全体活動で遅れ気味だったが、7日間生活する中で、5分前行動を意識して素早い行動ができるようになった。
- ・宿の生活で前半にケガをする人がいたけれど、生活のきまりをみんなで確認して意識することで、後半はケガを減らすように心がけて生活できた。
- ・宿では少し仲間割れやけんかなどあったけれど、相手の気持ちを考えて協力して生活することで「友情」ということを改めて学ぶことができた。
- ・宿のお父さんには箸作りや畑の作業などを教えてもらい、お母さんには郷土食作りや食事の 準備などでいろいろ話を聞いて、今まで知らなかったことをたくさん学ぶことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連

飯山では、自分で収穫した野菜や果物を調理して食べる機会があり、生産者の姿を意識して 普段の給食を食べるようになってきている様子から、食育に関する意識の高まりを感じる。社 会科で既習した「くらしを支える食料生産」の学習を思い起こし、学習内容を実感として深め ていたようである。身の回りの整理整頓を始め、自己の生活管理に責任をもてず、家族や教師 を頼りがちだった児童が多かったが、家族と離れて生活し、民宿の方々や友達にお世話になる ことで、依存心が少なくなり、自分のことは自分でできる限りやっていこうとする姿勢がみえ た。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・カントリーエレベーターの見学と和紙すき体験を2グループずつ交代で活動を行った。カントリーエレベーターの説明は実路の際に細かい打ち合わせが必要だと感じた。
- ・自分が刈った稲を自分で脱穀すると思っていた児童がいたため、全員で刈り取った稲を分担 して脱穀作業することを最初に明確に確認して実施したい。
- ・事前の保護者説明会や文書で、事前調査にはない医薬品を持ち込むことがないように徹底することで、不明な医薬品の確認や健康観察の時間超過などの問題がなく取り組めた。
- ・今年度も実施中に指導員との打ち合わせを2回、宿の方との打ち合わせを3回行ったことで、 予定の大きな流れを共有することができた。次年度も事前の説明や打ち合わせで指導員と宿 の方、教職員の指示連絡の方法を明確にするようにしたい。

中等微位介》片又介一几



第一中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月8日~9月12日(4泊5日)

参加人数 男子 54名 女56名 計110名

	9月8日 (火)		9月9日 (水)		9月10日 (木)
6:45	集合・点呼	6:15	起床・健康チェック	6:00	起床・健康チェック
7:15	出発	7:00	朝食	6:30	朝食
	談合坂SA 諏訪SA	8:30	退館式	9:00	各民宿出発
11:45	大町市国営アルプス	9:00	開村式	9:35	中土観光交流センター着
	あづみの公園着	9:50	民宿着 オリエンテーション	9:40	開校式
12:20	森の体験舎で昼食		民宿別プログラム	10:10	林業体験(下草刈り)
12:50	体験プログラム	12:30	各民宿で昼食	12:00	昼食 (バーベキュー)
	自然観察ツアー			13:10	林業体験 (薪割り等)
	ピザ作り、石器作り	13:00	雨天、民宿別プログラム	14:20	終了式
15:50	国営アルプスあづみの公園発			14:30	中土観光交流センター発
16:45	白馬ハイランドホテル着	15:00	レクリエーション	16:30	民宿着
	入館式			18:00	夕食
18:50	夕食 (ハーフバイキング)	17:00	民宿着	19:00	民宿の方々と交流
19:30	班長会議	18:00	夕食	20:00	班会議
20:10	黒部ダム学習会	20:00	班会議	22:00	就寝
22:00	就寝	22:00	就寝		
	9月11日(金)		9月12日 (土)		
6:00	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック		
7:00	朝食	7:30	朝食		
8:30	名民宿で、農作業体験等	8:00	各民宿で、農作業体験等		
11:00	民宿出発	0.00	100日代 展厅来件领导		
11:30	ゴンドラ乗車口集合	9:30	神城駅前集合		
12:00	エントノ 木手 ロ来 日 兎平レストハウスにて昼食	9:50	閉村式		
12:50	鬼 - レス - ハラスに く 量 段 東平レストハウス出発	10:21	IR 神城駅発		
12.00	リフト+リフトで上る	11:11	IR 細野駅着		
	八方尾根自然研究路を下る	11:30	道の駅バス乗車		
	第1ケルン	11:50	あずみのクラフトパーク着		
	リフト+ゴンドラで下る	12:00	昼食		
14:30	白馬ジャンプ競技場見学	12:50	あずみのクラフトパーク発		
16:00	民宿着	13:40	諏訪SA		
18:30	夕食	15:10	談合坂SA		
20:00	班会議	17:30	学校到着、解散式		
22:00	就寝	18:00	解散		
				J	

1 事前の学習内容

- ・5月下旬の学年集会で、セカンドスクールのオリエンテーションを行い、昨年度の様子を知るところから事前学習を開始した。また、6月下旬に白馬村の方々をお招きして、白馬の自然や農作業体験、林業体験についての講話を聞いて学習した。
- ・夏休みの課題として、白馬村の歴史、地理、気候、自然、環境、産業、観光、名物、特産品、 姉妹都市、友好都市、スキー場や長野オリンピック、白馬ジャンプ競技場、八方尾根、白馬 三山、黒部ダム等から各自がテーマを1つ決めて、画用紙1枚の新聞を一人一人が作成した。

2 事後の学習内容

- ・お世話になった民宿の方々へ、お礼の手紙を書いた。また、民宿の方を学校に招いて学習の成果を伝える「白馬交流会」のときに、写真を貼り付けた台紙に言葉を一言添えたものを、 各宿の代表生徒から民宿の方々に渡した。
- ・セカンドスクールでは夕食後に一日のまとめとして、体験で学んだことや、発見したことなどを記録したり、印象に残ったことなどをしおりに日記として記録したりした。帰校後は、体験活動を通して成長につながったこと、今までの考えが変わったこと、一番印象に残っていることの観点から作文を書いた。
- ・白馬交流会に向けて、各クラス数人ずつの代表クループを作った。 模造紙に書いた資料だけ ではなく、当日はクイズや寸劇を取り入れるなどして発表した。
- ・1クラス4グループに分かれて、自分たちが旅行会社の社員という設定で白馬村への旅行を 企画し、模造紙を活用して資料を作成し、上級生に対してプレゼンテーションを行った。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 自然観察ツアー

国営アルプスあづみの公園で、各クラス4班に分かれて、指導員の方と一緒に、公園の中の草や樹木、 昆虫や動物を観察して回った。

武蔵野市では見られない草花や樹木が見られただけでなく、草笛の吹き方や、笹舟作りを教えてもらったり、興味深く質問したりする体験活動を通し、自然環境に対する関心や自然保護の意識が高まった。



【自然観察ツアー】

2 八方尾根トレッキング

台風の影響で足場が悪くなっているのを考慮して予定を変更し、標高 2,060mの八方池へは 行かず、自然研究路を歩いた。当日は天候も回復し、標高 1,820mの第1ケルンからの眺めは 絶景で、生徒たちは急な坂道に注意を払いつつ、雄大な自然に感動しながら下山した。

1 農業体験

例年と違い、稲刈りの体験はできなかったが、サツマイモ掘り、ジャガイモ堀りをはじめと する野菜収穫体験を行った。また、雑草を刈り取る機械などを運転させてもらった。作物を植 えてから収穫するまでには、結構な手間がかかることを身をもって体験できた。

2 林業体験

中谷郷おらが里で、指導員の方々の指導のもと、午前中は下草刈り、午後はチェーンソーを使っての丸太切りや薪割りの林業体験を行った。これらの体験活動は全員が行い、一生懸命取り組んでいた。うまく割れると周りから歓声が上がり、大変盛り上がった。



【林業体験:下草刈り】

〈生活・文化体験活動〉

1 郷土料理体験

そば打ち、そばガレット、おはぎ作り、おやき作りなどの中から、民宿ごとに異なる郷土料理体験を行った。地域の食材を生かしての料理体験で、気候や風土も学べた。

〇生徒の感想

- ・3日目の林業体験で先輩たちの植えた杉の木の周りの下草を刈り、先輩から後輩へのつなが りの大切さも学びました。一中の伝統を継ぐ使命を胸に刻み、これからも部活動や行事を後 輩達につなげられるよう、必死に頑張りたいです。
- ・部活動で自己ベストがなかなか更新できず悩んでいました。白馬のジャンプ台に行って、オリンピックで記録を残すのは、誰よりも何倍も努力した人達だと実感できました。これからは、部活動だけでなく勉強や学校生活でも、ただ結果に落ち込むだけでなく、よく考え、次へつながる行動をしたいと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

学年やクラスの親睦を図るとともに、集団の一員としての行動を学べた。実行委員や班長を中心としての自治的な活動を通して、自主自律の精神を培うことができた。また、自然体験的な活動や自然との触れ合いを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢が養えた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

天候による予定変更では無理をせず、生徒の安全面、体力面を考え、余裕のあるプログラムにした。全ての民宿に指導員を配置できたことで、生徒間のトラブル等に素早く対応できた。 今後、天候に左右されない体験活動の充実を図っていきたい。

第二中学校

新潟県十日町市松之山

5月26日~5月30日(4泊5日)

参加人数 男子56名 女子62名 計118名

	5月26日 (火)		5月27日 (水)		5月28日 (木)
7:00	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
	出発式	7:30	朝食	8:45	農家の方とのお別れ会
7:30	学校出発		農家体験I	9:00	伝統料理体験
	関越自動車道		農家ごと農業、自然体験		そば打ちコース
	(所沢 IC・塩沢石打 IC 経由)				あんぼ・ちまきコース
12:30	現地(十日町市浦田)着		農家体験Ⅱ		田舎料理コース
	昼食(浦田交流会館)		午前に引き続き活動	14:00	環境学習
13:30	開講式				森の学校キョロロ見学
	田植え体験	16:00	活動終了		キョロロの森の動植物観察
16:30	民泊農家対面式			16:40	宿舎(千歳)着
17.00	民泊体験1日目		民泊体験2日目		坛江县 TT江县
17:00	民泊農家でのお手伝い		民泊農家でのお手伝い		係活動・班活動
22:30	就寝	22:30	就寝	22:30	就寝
	5月29日(金)		5月30日 (土)		
6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	ブナ林ハイキング	8:45	宿舎(千歳)発		
	大厳寺高原自然観察コース	9:10	美人林見学		
	指導員による動植物観察	10:15	閉校式		
12:00	昼食		松之山発		
13:00	自然観察 (風景スケッチ)		関越自動車道		
15:45	宿舎(千歳)着		(所沢 IC・塩沢石打 IC 経由)		
	荷物整理、入浴	15:30	学校到着		
18:45	夕食		合同学活		
	係活動、班活動	16:00	解散		
22:00	就寝				

1 事前の学習内容

- ・班員でそれぞれ、十日町市の観光、産業、社会問題、食文化、生物、地理、気象の7つのテーマを分担し、書籍やインターネット等を用いて調べ学習を行った。(総合的な学習の時間)
- ・民泊先の受け入れ農家に送る自己紹介を添えた挨拶状を作成した。(国語科との連携)
- ・中学生としての自覚や自律をめざして、団体行動や班行動、民泊先での宿泊体験の場での目標やルール作りを行った。(特別活動)

2 事後の学習内容

- ・個人でテーマを選び、課題解決に向けて事前の学習と現地での学びを通して、画用紙1枚の レポートにまとめた。それを持ち寄り、班の発表を行い学びの共有を図った。その際、相互 評価を行い、一つのテーマにつき各クラス1人の代表者を決め学年全体での発表会を行った。 また、各クラスの代表生徒でテーマに沿ったグループをつくり、課題を再構築してセカンド 報告会での発表を行う予定である。(総合的な学習の時間)
- ・民泊農家へのお礼状を作成した。(国語科との連携)
- ・現地でのスケッチを水彩画として完成させた。(美術科との連携)

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 キョロロの森観察

3つの体験活動を行った。①ブナ林散策は、現地の代表的なブナ林で、そこに住む生き物の特徴について解説を聞きながら観察することができた。林内の葉を使った伝統的な遊びも学ぶことができた。②水辺の生き物観察では、生徒一人一人が網を持ち、ため池で水性動物を採集した後、インストラクターから採取した生物についての解説を聞いた。③館内展示見学は雪国の稲作や、雪国での生活における伝統的な生活用具や現在で使用されている用具などを見学した。

2 自然観察ハイキング(大厳寺高原)

前日のキョロロの森での学習を土台に、自然林でのハイキングを 行った。ヤマウルシやハチなどの危険な動植物の対処法を学び、ハ イキングを行いながら自然観察をした。



【山頂付近での様子】

3 自然観察スケッチ(大厳寺高原)

ハイキングの後、風景画のスケッチを行った。自然豊かな雄大な景色の中、自分が絵として 残したい場所を選んでスケッチした。学校で美術の時間に絵を仕上げ、後に現地に送り、審査 をしていただく。

4 人工林観察(美人林)

松之山の観光名所である美人林の見学を行った。インストラクターの詳しい解説を聞くこと で前日の天然の林と人口林の比較ができ、環境保全について考える機会になった。

<社会体験活動>

1 農業体験(山菜の収穫・田植えなど)

現地の方を指導員として迎え、初日に学年全員で棚田での田植え行った。地形的に機械を用いて田植えができないため、手で苗を植えることを体験した。また、民泊先の農家では農業体験を行い、山菜の収穫、家畜の世話、種まきなど各々様々な体験を通して、自然の中で暮らす知恵を学び、自然に対する畏敬の念を体感した。

<生活・文化体験活動>

1 伝統料理体験

伝統料理体験では、田舎料理・そば打ち・あんぼ・ちまきの4 グループに分かれ、地元の食材で現地の方を講師として招き班内 で協力しながら、実習を行った。



【伝統料理体験での様子】

2 民泊農家のお手伝い

1日目の夕方から2日目まで各農家で農業体験を行った。農家ごとに体験内容は異なっていたが、各家庭での農業体験や生活体験は有意義なものとなった。また、事前に挨拶状を送っていたこともあり、違和感なく積極的に交流することができ、それぞれの家庭での交流は充実したものとなった。

〇生徒の感想

農業を実際に体験して、改めて大変な仕事だと実感しました。農作物はつくるのに苦労しているのだから、残したりせずに感謝して食べようと思いました。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

雄大な自然のなかで、現地の人々と触れ合うことで、自然に対する畏敬の念、思いやりや心の豊かさなど、生徒の情操が育つ心の教育になっている。また、5日間寝食をともにすることで、生徒同士の人間関係も深まり、他と関わることで、協調性や協力することの大切さを学ぶことができる。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

内容の大幅な変更はなく、今まで積み上げてきた地域の方々との交流は生徒にとって大変意義のあるものだと考える。課題としては、民泊受け入れ農家の高齢化による受け入れ先の減少である。また、アレルギー生徒への十分な配慮は今後一層工夫が必要となる。

第三中学校

長野県北安曇野郡白馬村

5月21日~5月25日(4泊5日)

参加人数 男子63名 女子49名 計112名

〇日程表

	- H o + H /!)		= II o a II (A)		
	5月21日(木)		5月21日(金)		5月23日(土)
7:40	学校集合・出発式(校庭)	6:30	起床・洗顔・朝食準備	6:30	起床・洗顔・朝食準備
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	池田町クラフトパーク着	9:00	田植え体験	9:00	各農家民宿でオリジナル
	昼食				プログラム(農業体験等)
	北アルプス展望美術館見学	12:00	昼食	11:00	郷土料理体験
14:50	JR信濃松川駅発	13:00	田植え体験振り返り	12:00	昼食
	ローカル線乗車体験	14:00	各農家民宿でオリジナル	14:00	夕食づくり体験
15:40	JR 神城駅着、開校式		プログラム(自然散策等)	17:30	体験実習館へ移動
	各農家民宿へ移動	18:00	夕食	18:00	夕食「おらほのおごっつぉ」
17:30	夕食	19:00	各農家民宿でオリジナル	19:20	天体学習
19:00	わら細工・ものづくり体験		プログラム(自然学習等)	20:45	各民宿着
21:30	入浴	21:30	入浴	21:30	入浴
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝
	5月24日(日)		5月25日(月)		
6:30	起床・洗顔・朝食準備	6:30	起床・洗顔・朝食準備		
7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	白馬五竜スキー場着	8:00	出発準備		
	環境学習	8:45	白馬ジャンプ競技場着		
	雪上体験、雪形観察		ジャンプ台見学		
11:50	昼食	10:20	白馬五竜スキー場着		
13:00	校歌練習				
14:00	震災学習	11:15	昼食		
15:15	白馬五竜スキー場発	11:45	退村式		
17:00	夕食				
18:30	ウィング 21 着	12:10	白馬発		
	復興支援合唱披露				
21:30	入浴	17:15	学校着		
22:00	消灯・就寝		閉校式、解散		

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・白馬村に関する 10 個のテーマを設定し、個人でテーマを決めた後に、書籍やインターネット 等を用いて調べ学習を行い、調べたものを新聞形式にまとめた。
- ・白馬村の方々を招き、白馬村の自然や観光、農作業体験についての講話を聞いて学習した。
- ・社会科の授業で白馬村について取りあげ、農業や地域の特色、地形等について学習した。

2 事後の学習内容

- ・実施期間中には就寝前に1日のまとめとして、体験したことを記録したり、1日の感想をし おりの日記欄に記載したりした。実施後にはセカンドスクール全体を振り返って印象に残っ たことや感じたことを原稿用紙2枚程度の作文にまとめた。
- ・各自が現地で集めたパンフレットや写真、実施期間中に記録をとったしおりをもとに、班で テーマを決めて事後学習として 1 枚の模造紙に班新聞をまとめた。まとめた班新聞はくぬぎ 祭(文化祭)で全作品展示した。
- ・お世話になった民宿の方々に、実施期間中に民宿ごとに色紙を作成し閉校式で直接渡した。 また、実施後には各自で民宿に感謝の手紙を作成し後日送付した。
- ・合同発表会に向け班ごとに発表テーマを設定し、パワーポイントを用いて発表資料の作成と 発表に取り組んだ。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 雪上体験・雪形ウォッチング

白馬五竜スキー場山頂の残雪を利用し、農家にある肥料袋で雪すべり等の雪上体験を行った。 生徒にとって東京と違い雪がまだ残っていること自体が新鮮であったため驚きを隠せず感嘆の 声をあげる生徒もいた。また、白馬村で田植えを始める時期を見極める規準にしている白馬三 山の雪形を観察し、昔の人の知恵を学び、美しい景色に生徒は見入っていた。

<社会体験活動>

1 農業体験

民宿近くの田んぼで田植えを体験した。田んぼの中に素足で入るため、生徒の中にはその感触に大声をあげる生徒もいた。田植えは事前に生徒全員を集めて農家の方による指導があったため、はじめて田植えを体験する生徒もスムーズに行うことができた。自分の場所の田植えが終わると、まだ終わっていない場所に加勢に行く等協力する姿も見られた。田植え後には、米づくりに関する質問も多く出て、生徒の関心が高まった。

農家ごとに実施した農業体験では野菜の苗植えから、菜園づくり、キノコの駒打ち、山菜の 収穫等を行い、農業の大変さ等を実感していた。

2 復興支援合唱披露

地域ホール「ウィング 21」にてお世話になった民宿の方、白馬村の村長等の関係者を招待して、感謝と復興への願いを込めた校歌と『Believe』の合唱を披露した。生徒はいつも以上の力を発揮し、素晴らしい合唱を披露し民宿の方が感激していた。最後には民宿の方、白馬村の村

長にもステージに上がっていただき、一緒に 『Believe』を合唱した。これにより、白馬村の方と もより一層交流を深めることができた。



【復興支援合唱披露】

<生活・文化体験活動>

1 ローカル線乗車体験

東京とは違い、1時間に数本しか走らないJR大糸線での 電車の旅は、生徒へのセカンドスクールに対する期待度を増 した。また、変化する車窓の風景を楽しみ、写真に収める生 徒、列車の先頭に行き運転席を見学する生徒、乗車されてい る一般の方との会話を楽しむ生徒等、生徒一人一人が思い思 いに列車の旅を楽しんでいた。



【ローカル線乗車体験】

2 農家民宿における生活体験

農家民宿では生徒一人一人が家族の一員として食事づくりや掃除等の家事を体験した。また、 4泊5日の生活の中でそばやおやき等の郷土料理づくりも体験し、長野県の食文化について詳 しく知る機会になった。

〇生徒の感想

- ・田植え体験をはじめてやったが、腰も痛くなったし本当に大変だった。農家の方はこの大変 な作業を毎日やっているのだと思うと本当にすごいと思ったし、ご飯もだけど食べ物を好き 嫌いせず残さずに食べようと思った。
- ・友達の大切さを知り、友達との友情を深めることができた5日間でした。いつまでもこの気 持ちを忘れずに友達と協力していきます。
- ・復興支援合唱披露では始めは緊張したけど、歌い始めるとだんだん緊張もほぐれ最後は気持ちよく歌うことが来た。宿の方や先生にも褒めてもらえて嬉しかった。

○ファーストスクールの教育活動との関連

食生活と文化、食事作り、校歌合唱、天体学習等、普段の授業との関連に配慮した。また、 各民宿での集団生活やクラス、学年単位での集団行動を通してコミュニケーション能力、団結 力、協調性を育むことができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・長野県白馬村でのセカンドスクールは初めての実施であったが、5日間全て晴天日程であったことで、曇り空で実施できなかった星空観察を除いて全てのプログラムを実施することができた。また、ローカル線乗車体験や復興支援合唱披露では地域の方とも交流を深めることができた。
- ・課題としては、雨天時を含めたプログラムを検討していくこと、5日間すべて民宿に分泊を するため指導員との連絡体制を確立し、連携をとることである。

第四中学校

長野県飯田市

9月25日~9月29日(4泊5日)

参加人数 男子66名 女子66名 計132名

〇日程表

	9月25日(金)		9月26日 (土)		9月27日 (日)
7:30	市役所前駐車場集合、出発	6:00	起床	6:00	起床、朝食
11:50	飯田運動公園着、昼食	6:30	朝食準備		農家ごとに農業体験
14:10	うるぎ星の森着	7:30	朝食(オープンサンド等)	12:00	各集合場所でお礼の挨拶
14:30	テントへ移動	8:00	朝食片づけ		昼食
15:30	夕食準備	9:00	各テントで休憩	13:00	稲刈り(売木村)
17:00	夕食(カレー等)	11:50	昼食(弁当)	17:30	ひるがみの森着
17:30	片づけ	12:45	うるぎ星の森発	17:40	室内点検•入室
18:30	各テントで休憩	13:00	各農家との対面式	18:00	夕食
21:00	班長会		農家ごとに農業体験	18:40	入浴
21:45	就寝準備	18:00	夕食・入浴	21:00	班長会
22:00	就寝	21:45	就寝準備	21:45	就寝準備
		22:00	就寝	22:00	就寝
	9月28日 (月)		9月29日 (火)		
6:00	起床、洗面、布団片づけ	6:00	起床、洗面、布団片づけ		
7:00	朝食	7:00	朝食		
8:00	ひるがみの森出発	8:30	ひるがみの森出発		
8:50	極楽峠登山口着、登山開始	10:00	尖石縄文考古館着、見学		
12:30	パノラマパーク 着、昼食、休憩	11:15	尖石縄文考古館出発		
14:40	極楽峠登山口着	11:30	おぎのや で昼食		
15:50	ひるがみの森着	12:30	出発		
16:00	入浴	17:00	市役所前着		
18:00	夕食		解散式、学活		
19:20	学年レク大会	17:10	解散		
21:00	班長会				
22:00	就寝				

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

・長野県の自然や農業、飯田市の紹介など自分で一つテーマを選び、個人新聞を作成した。また農家への挨拶状や自己紹介カード作り事前に送付した。そして、実行委員を中心にスローガン作りや生活のきまり(服装、持ち物など)を作成し、レクリエーションやキャンプファイヤーの企画をした。

2 事後の学習内容

・セカンドスクールでの体験を作文にし、班ごとに農家体験を個人新聞にまとめ、四中祭で展示した。また、お世話になった農家へお礼の手紙を書いた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

飯田市南部の下條村にある極楽峠に登った。途中ロープを頼りに登るような少し険しい登山路もあったが、けが人等を除いて全員無事に極楽峠を通過し、パノラマパークに到着した。天候もよく南アルプスや中央アルプスの山々を眺めることができ、ハイキングの達成感を味わうことができた。

く社会体験活動>

1 尖石縄文考古館の見学

5日目の最終日、尖石縄文考古館の見学をした。屋外では施設の名前にもなっている尖石遺跡や竪穴式住居の見学をした。屋内ではビデオ学習をし、展示の見学をした。

2 農業体験

2日目の午後から3日目の午前中にかけて各農家に分かれ、キノコ狩りや野菜の収穫など農業体験を行った。また、3日目の午後には全員で稲刈りを行った。作業ごとにグループを編成し、時間で区切り各作業を全員が体験できるようにした。

当日は、朝から大変よい天気に恵まれ、田んぼの状態もよく快適に体験ができた。初めは戸惑う生徒もいたが、慣れてきた後半は作業がスムーズに進み、予定よりかなり早い時間で全ての稲刈りを終わらせることができた。

<生活・文化体験活動>

1 キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」で行った。雨天のため、テントの設営は施設の従業員にしてもらったが、各テントにそれぞれ宿泊した。夕食は行動班に分かれ、班員と協力しながらカレー作りをした。天気が安定しない中ではあったが、夜はテントの中で寝袋と毛布で過ごした。寒さも心配ではあったが無事に過ごすことができた。また、夜に予定していたキャンプファイヤーは雨のため中止とした。

2 農家泊(地域の人々とのふれあい)

売木村、阿南町、下條村の農家の方々に、2日目の午後から3日目の午前の一泊でお世話になった。

売木村役場、阿南コミュニティセンター、信濃路下條の道の駅にそれぞれ集合してから各農家に分かれた。生徒たちは農家独特の住まいを体験し、また農家の方々との交流を深めた。そして、五平餅や味噌を作ったり、野菜や稲の収穫をしたりと、東京では体験できない長野特有の料理・食物を味わい貴重な経験をした。

〇生徒の感想

- ・僕の一番の思い出は農業体験です。まず始めにくりの皮むきをしました。包丁を使ったけど うまくいかず3~4個しかできませんでした。他にも、五平餅作りやトマトの袋詰めなどた くさんのことをやらしていただき、とても楽しかったです。
- ・4日目のハイキング。行動班ごとに登る山、つらい時には励ましあい、楽しい時には笑いあ う。そんなことがあったからこそ見られた景色。その光景が頭から離れません。セカンドの 登山の時だけではなく、普段の学校生活でもそうしていきたいと私は思います。このセカン ドの思い出をずっと忘れないで心にとどめておきたいです。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

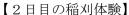
「共生」が1学年の総合的な学習の時間のテーマである。さまざまな活動を通して自然との 共生、人との共生を考えている。

セカンドスクール4泊5日の生活を通してまた仲間の大切さや仲間に対する思いやりを考えて経験するよい機会でもあったと思う。この体験を今後の学校生活に生かしていきたい。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

地域の方々との交流や自然の中での生活、仲間との生活を通して人と人との関わりや生きていく上で大切なことは何かということを考えるよい機会になった。雨の影響により行程の中で変更点がいくつもあったが、臨機応変に対応し、生徒も協力しあう事で成功させることができ、団結することの素晴らしさを実感することができた。またハイキングや稲刈りで事故なく無事に終わることができたことも大きな成果である。次年度以降の実施に向けて、農家泊やハイキングの内容を再度見直し、生徒たちが「人や自然との共生」をより一層考えることができるような内容になるように努力していきたい。







【4日目のパノラマパークにて】

第五中学校 長野県北安曇野郡白馬村

9月25日~9月29日(4泊5日)

参加人数 男子41名 女子28名 計69名

〇日程表

	9月25日(金)		9月26日 (土)		9月27日 (日)
7:00	出発式	6:30	起床	6:00	起床
7:30	バス出発	7:30	朝食	7:00	朝食
12:30	JA 大北にて昼食	8:30	白馬ジャンプ台見学	7:30	JR 神城駅~JR 白馬駅
13:00	大町市内街探検	10:30	白馬さのさか地区開村式	8:30	八方尾根ゴンドラ山麓駅着
16:00	仁科台中学校交流学習	11:00	農家民宿オリエンテーション	9:00	八方池登山
18:00	ホテル到着	12:00	昼食	13:00	兎平レストハウス昼食
19:00	夕食	13:30	農村ふれあい体験 I	14:30	八方尾根ゴンドラ山麓駅着
20:00	入浴	16:30	入浴	15:00	五龍エスカルプラザ見学
21:00	班長会議・室長会議	17:00	夕食準備 夕食	17:00	民宿到着 夕食準備 夕食
22:30	就寝	19:00	民宿の方々との交流	19:00	民宿の方々との交流
		21:00	班長会議・室長会議	21:00	班長会議・室長会議
		22:30	就寝	22:30	就寝
	9月28日 (月)		9月29日 (火)		
6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食		
9:00	親海湿原環境保全活動	9:30	農村ふれあい体験Ⅱ		
12:00	昼食	11:00	お別れ BBQ 準備 昼食		
14:00	稲刈り体験	12:00	白馬さのさか地区閉村式		
16:30	入浴	12:30	バス出発		
17:00	夕食準備 夕食	16:30	学校着 解散式		
19:00	レク大会				
21:00	班長会議・室長会議				
21:30	就寝				

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の総合的な学習の時間を使って次の3点について学習を行った。
 - ① 長野県大町市の地理・歴史・文化・産業・観光について調べ学習を行った。
 - ② 大北農業協同組合(JA 大北)の観光課の方や地元 NPO 法人の方から長野県大町市の魅力についてお話を聞いた。
 - ③ 姫川源流や親海湿原の環境保全活動の意義について説明を受けた。
- ・夏休みに長野県大町市のキャッチコピーの原案を考え、地元大町市立仁科台中学校との交流 学習で行う武蔵野市紹介プレゼンの内容をレポートにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・お世話になった大町市立仁科台中学校の1年生と農家民宿の方々へお礼の手紙を書いた。
- ・大町市のキャッチコピーを班ごとに考え、それを大町市長や観光協会へ送った。
- ・小中合同セカンドスクール報告会で次のテーマでポスターセッションを行った。
 - ①大町市の歴史と文化 ②大町市の未来と街づくり ③白馬村大地震 ④長野オリンピック
 - ⑤農業の現状と環境保全 ⑥観光産業と八方尾根

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 八方池登山

八方池登山では、3,000m級の白馬三山を眺めることができ、高山植物の宝庫であり日本有数の蛇紋岩の産地でもある。中学1年生の理科では植物の性質や岩石の特徴などを学ぶため、実際の山岳地帯の自然に触れ学ぶことになった。

2 姫川源流の散策

姫川は白馬さのさか地区の源流から 50km 以上離れた日本海に注ぐ大河である。「姫川源流」 一帯は、名水百選にも選ばれるこの源流の湧水は清く澄んだ水が美しい。この源流から笹舟を 作って流しこの美しい風景を記録にとどめた。

<社会体験活動>

1 大町市街探検

『あなたの街のいいところを教えてください。私たちはキャッチコピーを考え宣伝します。』を合言葉に、当日、地元大町市立仁科台中学校の1年生が大町市内を案内していただき、その後、同中学校の体育館でポスターセッションを行った。本校生徒は、武蔵野市のいいところや大町市のキャッチコピーの案を提示し、大町市立仁科台中学校の生徒は大町市をテーマ別に紹介をしてくれた。



【地元中学校と大町市内街探険】

2 親海湿原の環境保全活動

民宿の方々や地域の人たちと一緒に親海湿原の環境保全活動に取り組んだ。活動内容は固有の湿原植物を守るために、葦を鎌を使って刈り取り束ねる作業である。生徒は鎌の使い方を教わり予想以上に広い範囲の葦を刈り取ることができた。本校がはじめて地元以外から参加した。

3 農業体験

農業体験は主に稲刈り作業を行った。大型コンバイン、バインダー、手刈りの3種類の稲刈り体験では、農家民宿の方々の指導のもと生産者の気持ちに思いを馳せる活動になった。さらに、活動中に事前に学習していった日本の農業事情やTPPの影響などを質問したり、刈り取ったお米の銘柄やどのような流通経路で自分たちの食卓に並ぶのかなど、単なる活動で終わることなく主体的な活動の様子もみられた。

<生活・文化体験活動>

1 農村ふれあい体験

そば打ち体験、わら細工、箸作り、畑仕事、郷土料理体験、栗拾いなど、農家民宿ごとのプログラムによって様々な農村体験を行った。特に、夜の農家民宿の方々との交流では、長野オリンピックの苦労話や昨年の神城断層大地震の経験を踏まえた防災・減災の話を聞けたことは、生活体験として大きな影響を受けた。

〇生徒の感想(生徒が考えた大町市のキャッチコピー)

- ・『今も昔もかわらずに、わたしとあなたの塩結び』(起案理由)大町市は昔、塩の道街道で塩 を運んでいたことから「塩」で、その中から生まれる人と人の「縁」は今であるということ を基に作りました。
- ・『緑と歴史の交差点 大町、いい町 水の町』(起案理由)大町市にはたくさんの自然と歴史 がコンパクトに存在する。2種類の異なる源流から水が交差している場所でもあることから、 交差点としました。町が3つ並ぶも語呂の調子がいいので並べてみました。

○ファーストスクールの教育活動との関連

・3年間を見通して、総合的な学習の時間で「市民性」を育てる活動の一環として関連付ることができる。たとえば、本校が昨年実施した「市長への提言」のような取り組みを考えている。今回の大町市内街探検はその一翼を担う活動となり、大きな成果を上げることができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

・今年度、本校セカンドスクールの実施場所と活動内容を18年ぶりに変更した。単なる体験活動から「学び」への移行を目指した。その成果として、地元中学校と連携を行った大町市内街探検や地域が大切に守ってきた親海湿原の環境保全活動が挙げられる。

第六中学校

長野県安曇野市

9月9日~9月13日(4泊5日)

参加人数 男子30名 女子29名 計59名

〇日程表

	9月9日(水)		9月10日 (木)	Ş	9月11日(金)
7:30	二小前しろがね公園集合	6:30	起床	6:30	起床
7:40	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	宿舎到着 開校式	8:40	出発	8:15	出発
12:30	昼食	9:00	稲刈り体験	10:35	上高地ハイキング
13:30	オリエンテーリング	12:30	昼食	12:00	河童橋 休憩
19:00	夕食	14:00	わさび掘り	12:30	昼食
20:00	農作業体験講義		わさび漬け	13:20	上高地バスターミナル出発
21:30	部屋班・行動班係会議	17:00	夕食	15:00	宿舎到着
22:30	消灯	18:20	キャンプファイヤー	19:00	夕食
		21:30	部屋班・行動班係会議	21:45	部屋班・行動班係会議
		22:30	消灯	22:30	消灯
	9月12日 (土)		9月13日 (日)		
6:30	起床	8:00	集合		
7:00	朝食		閉校式		
8:30	民泊対面式	8:30	朝食		
9:00	各農家へ	9:00	出発		
10:00	安曇野生活体験	10:00	クラフト体験 あずみの公園		
11:30	昼食作り	11:30	昼食		
14:00	安曇野生活体験	12:30	あずみの公園出発		
17:30	夕食作り	16:30	二小前しろがね公園到着・解散		
19:00	民泊先の方々と交流				
22:30	民泊				

〇セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・安曇野市についての知識と理解を深めた。
- ・「地域、産業、自然」という大きな総合学習のテーマを設け、その中から、安曇野市や長野 県についてのものを選択し、夏休みの課題として調べ学習を実施した。

・民泊でお世話になる家庭宛てに、自己紹介文を作成した。誤字・脱字に注意し、失礼のないように手紙文を書いた。

2 事後の学習内容

- ・民泊でお世話になった家庭宛てに、お礼状を作成した。誤字・脱字に注意し、失礼のないように、なおかつ相手に誠意が伝わるように手紙文を書いた。
- ・セカンドスクールで学習したこと、体験したことを行動班ごとにポスターにまとめ、ポスターセッションを行った。
- ・事前に学習したことや体験したことの中からテーマを決め、レポートを作成した。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 上高地ハイキング

大正池から班ごとに移動を開始し、河童橋まで移動した。本来ならばそのまま明神橋まで向かい、そこで昼食をとる予定であったが、天候の悪化を危惧し、河童橋で昼食をとった。その後は予定通り、右岸コース、左岸コースに別れ、明神橋まで移動し、河童橋に帰着後、宿舎に戻った。班長を中心に各個人の役割を意識しながら行動し、集団行動を学ぶことが出来た。同時に、普段味わえない美しい景色や、野生動物との出会いなど、多くの生徒が大自然の壮大さを心に残したようである。

<社会体験活動>

1 農業体験

1日目の夜に農業体験講義として、「稲作農業」と「わさび」についてお話を聞いた。JAあづみの職員の方、わさび農家の方を招き、翌日の体験学習である稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義をしていただいた。



【稲刈り体験の様子】

稲作に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具など、詳しく説明していただいた。わさびに関する講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、簡潔に分かりやすく説明していただいた。どの生徒もメモを取りながら、興味深く真剣に講義を聴いていた。今まで知らなかった農作業の内容を理解した上で、2日目の体験活動に臨めるため、農業や作物に対しての意識が変わった生徒が多くいたようである。また、わさび掘りも冷たい水に素足で入る体験をすることにより、わさびはきれいな冷たい水でなければ育たないということを身をもって学ぶことができた。

2 安曇野オリエンテーリング

ビレッジ安曇野を起点として、豊科市街地でオリエンテーリングを実施した。途中にある道 祖神を多く見つけることを課題とし、安曇野の田園風景を楽しんだ。立ち寄り先の郷土博物館、 近代美術館では美術品や工芸品に触れることができた。

3 クラフト体験

国営あづみの公園大町松川地区において、「とろとろ石器作り」を行った。白、黒、ピンクの石を生徒が選択し、その石を削り自分のデザインした形に仕上げ、アクセサリーを作る体験である。各自時間内で一生懸命取り組み、思い思いの作品を作っていた。

<生活・文化体験活動>

1 わさび漬け作り体験

日本わさび協会の会長の指導によるわさび漬け作り体験を行った。わさびを刻み、酒粕と調味料を合わせ、わさび漬けができるまでの体験活動を行った。作ったわさび漬けは各自持ち帰り、安曇野の特産物を知ることができた。



【わさび掘り体験の様子】

2 民泊体験

セカンドスクール中の土、日曜日を使い、安曇野の農家を中心とした民泊体験を行った。天 候にも恵まれ、それぞれの家庭での農作業と食事作り、その他体験活動を楽しく行うことがで きた。実際に宿泊することにより安曇野の方との交流も十分に図れたようである。

〇生徒の感想

- ・農作業体験では、お米やわさびなど作物を育てることの大変さを知ることができた。
- ・民泊体験では、人の優しさに触れることができた。
- ・まだあまり話したことが無かった友だちと仲良くなれて嬉しかった。
- ・上高地のハイキングでは、東京では見られない自然の豊かさを直に知ることができた。

〇ファーストスクールの教育活動との関連

主に総合的な学習の時間で、事前学習、事後学習に取り組んだ。特に事後学習では実際に経験してきたことを基に班でポスターを作り、ポスターセッションを行った。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度の農作業体験では前日からの雨が残り、後半の脱穀作業ができなかった。そのため急遽1本の稲穂についた米粒を数える作業を行った。また、その後のわさび掘り体験でも、雨に見舞われて十分に活動を行えなかったクラスがあったため、雨天プログラムとして近隣の田淵行男記念館や安曇野ガラス工房を見学することになった。雨天プログラムの用意はしていたが、来年度以降はそれをより充実させ、急な天候の変化に随時対応していく必要がある。

7にもかシドスクール



第一小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

9月16日~9月18日(2泊3日)

参加人数 男子36名 女子34名 計70名

〇日程表

9	月16日(水)	9	月17日 (木)	9	月18日(金)
7:30	校庭集合	6:30	起床 検温	6:30	起床 検温
8:10	出発式	7:00	朝会	7:00	朝会 湖畔散策
	談合坂 SA にて休憩	7:30	朝食	7:30	朝食
11:00	富士山五合目着	9:30	小池邦夫絵手紙美術館着	8:00	清掃 出発準備
	御中道コーストレッキング		絵手紙体験・見学	9:00	閉校式
	昼食		昼食	10:00	富士山レーダードーム館着
14:00	富士ビジターセンター着	13:00	富岳風穴見学		見学
	見学		樹海ハイキング	11:30	さかな公園着 昼食
15:30	宿舎着 開校式	15:30	宿舎着・入浴	12:20	山梨県立富士湧水の里水族
16:30	入浴	18:00	夕食		館見学
18:00	夕食	19:00	学習の記録	13:40	出発
19:00	学習の記録 はがき書き	20:00	就寝準備 健康観察	15:45	学校着 帰校式
20:00	就寝準備 健康観察	21:00	消灯		
21:00	消灯				

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1 学期に、昨年度4年生の報告会で学んだことを想起させた。また、日程表や昨年度の画像も含め興味をもったことについて話し合い、そこから一人一人大まかな課題を設定した。 夏季休業中には富士山についての概要を可能な範囲で調べ、2 学期からは具体的に調べてみたいことを絞り込み、課題設定して、図書室や市内の図書館の本や、コンピュータ室でのインターネットの活用などから情報を集めた。その後、調査したことを冊子にまとめ、中間発表会を行った。情報を共有したことで、現地で調べたいことを新たに見つけたり、どの活動でどんなことが学べるか、見通しをもったりすることができるようになった児童が増えた。
- ・初めての宿泊行事にあたり、部屋の片付け方、布団の後始末の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のきまりやマナーについて指導した。また、養護教諭と連携し、保健領域「育ちゆく体とわたし」の授業を行い、心身の発達に伴った健全かつ快適な過ごし方について指導した。

2 事後の学習内容

・3日間で学んだことや自身の成長を作文にまとめ、読み合う活動を行うことで、宿泊行事に対する考え方や適切な過ごし方などについてより深くふり返ることができた。また、学習し

たことを、学級内で5~6グループに分かれ、「3年生が興味をもてる伝え方」を工夫しなが ら調べたことをまとめ、総合的な学習の時間を用いて発表会を行った。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道コーストレッキング

トレッキングに向けて車中では雲や地面、植物の様子の変化について注目させた。また、菓子袋を見せ、五合目に近づくと袋が徐々に膨らむ様子に児童は驚きの表情を浮かべ、早く活動してみたいという気持ちを高めていた。

五合目では気温が山麓よりずっと低いことを体感した。 足元の石がふだん見慣れた地面とは違うことや、木々が外



【御中道コースのトレッキング】

側に向かって反りながら生えていることなど、気付いたことをそれぞれ口にして、情報を共有しながら歩いた。そこから五合目ではかろうじて低木やコケ類、キノコが厳しい環境の中で生育していることを、実感をもって学習することができた。刻々と雲の形が変化する様子から、「山頂付近は強風が吹く過酷な環境」という事前学習を思い出していた。

2 富岳風穴見学・青木ヶ原樹海ハイキング

ネイチャーガイド4名同行のもと行った。風穴では事前学習で学んでいたが、溶岩棚や縄状溶岩などを実際に見学すると自然の織り成す世界に改めて驚いた様子であった。また、「蚕や種子を貯蔵していた」というガイドの説明に児童は「わざわざ寒いところで貯蔵するのはなぜですか。」などと質問していた。

雨の中の樹海ハイキングであったが、ガイドにはこの天候を生かして雨水の行方や植物の生育のしくみについてくわしく説明していただいた。動物や樹木だけでなく、朽ちた木、キノコ類、コケ類、シダ類や微生物など全てが互いに関係しながら豊かな自然を育んでいることや、貴重な場所だということを知り、こうした自然を大切にしなくてはという意識を高めていた。

<社会体験活動>

1 富士ビジターセンター見学

五合目から下り、富士ビジターセンターに到着。ここでは最初に 富士山の形成について大型スクリーンによるビデオを上映していた だいた。その後児童は、自分の課題に沿って館内にある様々な展示 資料から情報を集め、熱心にメモを取る姿が見られた。

2 絵手紙体験(小池邦夫絵手紙美術館)

2日目は雨天プログラムとなり、絵手紙体験を行った。「絵手紙と はどのようなものか」「どのような道具を使うのか」といった説明 から入り、程良い緊張感の中で絵を描いた。唐辛子の絵の周りには



【絵手紙制作中の様子】

それぞれ児童が考えた言葉が添えられ、絵を一層引き立てた。皆熱中し、時間内に全ての児童が作品を仕上げることができた。同じ唐辛子を描いても、淡い色、鮮やかな色、堂々としたもの、繊細なものと様々であり、児童は絵手紙の面白さや奥深さを感じることができた様子で「早く家の人に見せたい。」「飾っておきたい。」「また体験してみたい。」といった感想を述べていた。

3 富士山レーダードーム館

昨年と異なる点は、個々にワークシートを持ち問題の答えを探したことである。答えが展示 資料の中で必ず説明されているので、児童は説明をよく読みながら情報を集め、知識を広げた。

4 山梨県立富士湧水の里水族館

絶滅したとされていたクニマスや、水生に限らず富士山周辺の多くの動植物が展示されていた。最初に視聴した「山梨に住む魚たち」の映像はとても迫力があり、4年生にも十分理解できる内容で構成されていた。展示は回遊水槽や流水水槽など自然に近い環境を整え、オープンラボコーナーなども充実しており、児童は様々な角度から観察や調査を進めることができた。

〇児童の感想

- ・絵手紙美術館でトウガラシの絵を描いた。色ぬりがあまり上手にできなかったけれど、「下手でいい、下手がいい。」というのが絵手紙だというから、少しほっとした。
- ・樹海ではきびしい自然の中で自分の身を守りながら生きている動物や植物がいることと、その 大変さがよく分かりました。
- ・宿のお父さん、お母さんが作ってくれたみそ汁を飲んでみると、味が口の中でいっぱいになっておいしかったです。ごはんを作ってくれた人に感しゃの気持ちで、残さないで食べることが大切だと思いました。

〇セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールの現地学習では、学習形態が状況や内容に応じて変化することや、計画の 見直しが必要になることもある。4年生から「事前学習-現地学習-事後学習」という大き な活動の流れを押さえ、次年度からスムーズに取り組むことができるようにしたい。
- ・セカンドスクールでは勾配があるコースを進むのに対し、4年生では「比較的なだらかなコースを進みつつ、標高の高い場所を歩くという活動に慣れさせていく。また、岩石が多く植物が少ない富士山五合目と、それとは対照的な、樹木、草が地面を覆った樹海を歩くなど、環境の異なる場所で散策活動に慣れさせるとともに、ガイドを付けたり、引率の教諭がレクチャーしたりしながら周囲の植物を観察、比較させながら散策の楽しみを味わわせようと工夫し、自然の美しさやすばらしさを感じることができるようにしたいと考えている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は2日目から雨天となり、樹海ハイキングは散策ルートを短縮し、時間も大幅に削って行った。ずぶ濡れの雨具のままバスに乗り込むことはできないので、ハイキング後に公衆トイレの屋根付近で着替えたが、このようなときの場所の候補地も複数考えておく必要がある。ただ、ネイチャーガイドを昨年度より1名増やしたことで児童の学習が進んだのは良かった。また、学習内容や児童の実態によって時間帯や学習に適したルート、説明内容などを検討・提案してくれることが分かり、次年度以降もその点を含めて折衝すべきと考える。

絵手紙体験は児童や保護者からも好評だった。児童の作品の一部は中央コミュニティセンターに展示された。今年度はやむなく忍野八海見学を削ることになったが、次年度以降は活動の優先順位を決め、時間の融通がきくように手配を進めておくということが大きな課題である。

第二小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月14日~10月16日(2泊3日)

参加人数 男子37名 女子19名 計56名

〇主な体験活動

-	10月14日 (水)	1	0月15日(木)	1	0月16日(金)
8:00	出発式	6:00	起床	6:00	起床
10:15	富士ビジターセンター (着)	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操・河口湖散策
11:45	河口湖フィールドセンター	7:00	朝食	7:30	朝食
	昼食	9:00	富岳風穴	9:15	閉校式
		9:40	樹海ハイキング	10:30	勝沼ぶどう畑農業体験
15:30	開校式	11:40	紅葉台駐車場発	13:00	昼食
16:30	入浴	12:00	西湖公民館	15:30	学校着、解散式
18:00	夕食		(ほうとう作り体験)		
19:00	係会議	14:45	湧水の里水族館		
19:45	星空観察	16:50	入浴		
21:00	就寝	18:30	夕食		
		19:30	係会議		
		21:00	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊学習であるため、宿泊学習はどのように進められるのか、またどのような意義 があるのかを知らせ、学習や生活に関するめあてを児童にもたせるようにした。
- ・生活班の中では、室長、生活係、食事係、保健係、レク係に役割を分担した。それぞれの係 の役割をスケジュールと照らし合わせ、具体的に確認した。
- ・2 学期に入り、総合的な学習の時間の中で、富士山のでき方や周囲の自然、山梨県の郷土料理や農産物など、実際に体験する内容について幅広く調べ活動内容についての意欲を高めるとともに、知識を深めていくようにした。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールでの活動記録をもとに、学習のまとめを行った。 2 泊 3 日の中で心に 残った事柄を三つ決めて、読む人に伝わるように発表の仕方を考えて詳しくまとめた。
- ・自分の課題を決め、絵本や模造紙、紙芝居などの形式にしてまとめた。そして、それらをも とに「伝えよう、富士山・河口湖」をテーマに発表会を行う。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 ガイドウォーク・複合型溶岩樹型観察(河口湖フィールドセンター)

ガイドウォークでは、溶岩樹型を観察した。特に大型の溶岩樹型の中に実際に入り観察し、 子どもたちは楽しみながら、興味・関心をもって自然と触れ合うことができた。

2 富岳風穴見学

溶岩でできた大きな洞窟の中に入り、外界の温度と洞窟内の温度差を肌で実感した。洞窟の途中には、氷があったり、奥にはまゆ玉が冷蔵されていたりと、かつて昭和初期まで天然の冷蔵庫として保管されていたことを、目で見て感じて理解することができた。

3 樹海ハイキング(風穴〜氷穴〜紅葉台展望台)

樹海ハイキングでは、樹海の特徴的である原生林の様子や、 溶岩の地面から、登るに従って土の地面に変わっていく様子を 楽しみながら、紅葉台を目指した。



【紅葉台展望台】

4 星空観察

理科の「星の明るさや色」の学習をもとに、星座早見を使って、実際の星を観察することができた。新月の時期と重なったことや、光が少ないことで、オリオン座やカシオペア座を始めとし、普段東京ではあまり見られない星についても観察できた。

5 河口湖散策

最終日の朝、河口湖散策を行った。河口湖には少し霧がかかり、静かな湖畔を観察しながら歩いた。武蔵野近辺には湖がないため、子どもたちは日常では見られないその幻想的な風景に浸ることができた。

<社会体験活動>

1 富士の歴史や自然について(富士ビジターセンター)

富士ビジターセンターでは、自然展示ゾーンや芸術展示ゾーンなど、複数の展示ゾーンを見て回った。富士山の噴火史、自然文化などを見て、事前学習で学んだ事を確かめたり、一生懸命メモを取ったり、意欲的に学習に取り組むことができた。

2 淡水魚について(富士湧水の里水族館)

この水族館では、山梨県内外・大小様々な淡水魚を扱っていた。特に中央に大きく設置してある二重回遊水槽では、ニジマスという見たことのある淡水魚から、チョウザメなどの大型の淡水魚も観察することができた。

<生活·文化体験活動>

1 クラフト体験(河口湖フィールドセンター)

フィールドセンターでは、児童自ら選択した「バードコール」または「ペーパーウエイト」 のクラフト体験を行った。普段扱わない道具に苦戦しながらも、安全に気を付けて、楽しく制 作することができた。

2 ほうとう作り体験(西湖公民館)

ほうとう作りでは、小麦粉から麺づくりを行った。現地の方々に教えていただきながら、足で踏んだり、均等に麺棒でのばしたり、班で協力して楽しみながら作った。



【ほうとう作り】

3 農業体験(ぶどうばたけ)

勝沼のぶどう畑における農業体験では、主にかさ拭き体験・草取り体験・収穫体験を行った。 農家の方々がどのような想いや願いから仕事をしているのかを知った。ぶどうの栽培に適した 扇状地の観察をしたり、勝沼ぶどう郷駅のスイッチバックの跡を見たりした。

〇児童の感想

- ・「ほうとう作り」などの活動では、班で協力することでおいしいほうとうが食べられるなど、 みんなと協力することのよさを学びました。
- ・日本一の富士山は、ぼんやりと自然にできたのだと考えていましたが、噴火により4つの山でできていることを知りました。実際に見ることができ、富士山のすごさがよく分かりました。

〇セカンドスクールとの関連について

「自分の事は自分ですること」が難しく、身の回りのこと以外にも係の役割を果たしたり、時間を守ったりすることを意識して行う必要があることを児童は痛感していた。来年度のセカンドスクールでは、さらにこの力が求められる。プレセカンドスクールを経験することで、セカンドスクールが児童にとって現実的となり、意欲を高めることができた。

〇次年度に向けての反省・課題

く良かった点>

・事前学習の段階で、幅広く調べ、皆で基本的な情報を共有したため、現地で教え合う児童の 姿が見られた。自分の課題をなかなか見付けられない児童にとっても、基本的な情報がある ことで、それをもとに学習活動を進めることができた。

く課題点>

・溶岩樹形の観察の際、短い時間の中、暗く足元が不安定であり少し危険であったため、コースや活動時間の見直しを行い、安全管理の徹底を図り、子どもの安全に配慮していく。

第三小学校

新潟県南魚沼市

6月3日~6月5日(2泊3日)

参加人数 男子32名 女子37名 計69名

〇日程表

	6月3日 (水)	6月4日 (木)		6月5日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・朝食・おにぎり作り	6:00	起床・検温・朝食
11:15	上越国際観光協会到着	8:20	朝の会 (観光協会前)	9:00	塩沢つむぎ機織り体験
	開校式	9:00	上越国際スキー場トレッキング		雁木通り散策
12:30	昼食 (各民宿)		出発	12:00	昼食
14:00	田植え体験	10:30	十日町展望台到着・昼食	13:00	観光協会前集合
16:30	入浴	14:00	農業体験		閉校式
17:30	ぬか釜体験	16:30	入浴	16:30	学校到着・帰校式
18:30	夕食	18:30	夕食		
20:00	交流会準備	20:00	民宿の方との交流会		
20:30	学習の記録	20:30	学習の記録		
21:30	就寝	21:30	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

・プレセカンドスクール実施前に、プレゼンテーションソフトで昨年度の活動の様子を見ながら2泊3日の一連の流れを確認した。また南魚沼市の地理、歴史や伝統、暮らしなどについてインターネットで調べ学習を行った。班長、副班長、生活係、学習係、レクリエーション係などで集まり、係会を行った。当日の係の仕事の確認をし、各部屋に貼る、係からのお願いのポスターやチェック表を作成した。また班ごとにも当日の流れの確認に加え、2日目の夜の宿の方との交流会の出し物の準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中で学んだことや今後の生活に生かしたいことをふりかえり、 作文にまとめた。
- ・来年度プレセカンドスクールに行く3年生が、プレセカンドスクールに行きたいと思えるように、どんなことを体験し、学んできたかを伝える「プレセカンドスクールを伝えよう」という活動を総合的な学習の時間で行う。何のために伝える会をやるのか(目的)、誰に向けて発表するのか(相手)を明確にしながら、グループごとに発表方法を考え、3年生に向けて発表を行う。

・11 月に民宿の方々に来ていただき、本校の校庭でプレセカンドスクールにおいて田植えをした稲をぬか釜で炊いて食べる活動を体験した。お世話になった民宿の方々と再会をして、感謝の気持ちを伝えた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 上越国際スキー場トレッキング

2日目に、上越国際スキー場でのトレッキングを行った。曇天の中だったが雨に降られずに 無事に決行することができた。ゲレンデを通り、トレッキングルートに入り、頂上を目指した。 途中、休憩を兼ねて写真撮影を行い、山道を進んだ。道端に咲く花や植物や動物を観察しなが ら歩いた。残雪や地上を見下ろす風景を見て、自然の雄大さを多くの子どもが感じていた。山 頂からの景色にはどの子どもたちも「すごい」「きれい」と感動の言葉を口にしていた。登りや 下りを通して、疲れながらも子どもたち同士で声をかけ合い、励まし合いながらトレッキング を終えることができた。自然に親しむことができ、達成感を味わうことができた。

<社会体験活動>

1 田植え

1日目の昼は民宿の方に講師になっていただき、民宿近くの田んぼで田植えを行った。民宿の方から苗を2、3本ずつ指の第一関節まで土に入れることや、目印の十字に2、3本ずつまっすぐ丁寧に植えることなど田植えの仕方を教えていただいた。実際に体験してみると、意外に上手く植えられなかったりするや田んぼに足をとられてしまったり思うようにできない子どもが多くいた。田植え体験を通して、米作りの大変さや農家の方々の苦労、食べ物の大切さを身をもって学ぶことができた。子どもたちに食事に対する感謝の気持ちが芽生えた。



【田植え体験の様子】

2 塩沢つむぎ機織り体験・雁木通り散策

3日目の午前に、塩沢つむぎ機織り体験と雁木通りの散策をクラスごとに交代で行った。 塩沢つむぎ機織り体験は塩沢つむぎ機織り記念館で行った。越後地方に伝わる伝統工芸の塩 沢つむぎについて、歴史や織り方、糸の種類、生地ができるまでの行程について説明していた だき、機織り体験を行った。糸を一本一本丁寧につむぎ、初めての体験ながらコツをつかみ上 手に生地を織ることがきた。雁木通りの散策はガイドの人に案内してもらいながら、雪国の街 並みや工夫を知ることができた。また古い街並みから南魚沼の伝統や江戸時代当時の暮らしぶ りを伺うことができた。ウォークラリー方式でそれぞれの場所でクイズに答えていきながら子 どもたちは楽しみながら学習することができた。

<生活·文化体験活動>

1 民宿の方との交流会

2日目の夜に、民宿の方々との交流会を行った。子どもたち 主催で、事前に学校で準備をした出し物や歌を披露し、最後は 感謝の気持ちを表すためにメッセージカードや色紙などのプ レゼントを渡した。短い期間であったが、子どもたちなりに工 夫をして感謝の気持ちを表すとともに民宿の方々と交流を深 める良い機会になった。



【民宿の方々との交流会】

〇児童の感想

- ・田植え体験という武蔵野市では絶対にできない体験ができて嬉しかった。農家の方々の苦労 を感じることができた。お米や食べ物の大切さがわかった。これからは感謝の気持ちをもって 食事をいただきたいと思った。
- ・トレッキングで蛙の卵や東京ではみられない植物をみることができすごいなあと思った。 たくさんの自然があるなと思った。登るのは大変だったけど友達と励まし合いながら登ること ができて良かった。頂上で食べたおにぎりがとてもおいしかった。
- ・先生の指示なしに自分たちで行動するのは初めてで、最初は班のみんなで集まるのが遅くなってしまった。だけど最後の朝の会は一番に集まることができた。嬉しかったし、みんなのことを考えて行動できるようになった。時間の大切さがよくわかった。学校生活でも時間を守りたいと思った。

〇セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールでは、8つの班に分かれてそれぞれの宿に宿泊した。その中で、生活のルールを守ったり、仲間と協力して生活したりする体験ができた。次年度のセカンドスクールも同様に分宿をするので、今年度の宿泊体験や集団生活で学んだことは充分にセカンドスクールでも生かすことができる。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・グループ活動を通して、友達同士で声を掛け合い、互いの関係が深まった。集団として時間 やルールを守るという意識をもつことができた。
- ・民宿や現地の方々、指導員など多くの大人と関わりをもつことで、自分たちだけで生活をしているわけでないことに気付き、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・3日目の塩沢つむぎ機織り体験では、雁木通りの散策の後の昼食の時間が短くなってしまった。もう少し時間に余裕があると良い。

第四小学校

群馬県利根郡片品村

10月14日~10月16日(2泊3日)

参加人数 男子31名 女子31名 計62名

〇日程表

1	0月14日(水)	1	0月15日(木)	1	0月16日(金)
7:45	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村到着・開校式	8:30	尾瀬へ出発	8:00	荷物整理・清掃
12:00	昼食	9:30	尾瀬ハイキング出発	8:30	うどん作り体験
12:40	各宿出発	11:30	牛首・昼食	11:00	昼食
13:00	農作業体験	14:35	尾瀬ぷらり館見学	11:45	閉校式
15:45	各宿に移動し顔合わせ	15:35	各宿着	12:15	片品村出発
16:30	宿周辺散策	15:45	宿の方へお礼の手紙を書く	16:00	学校着・到着式
17:00	入浴	17:00	入浴	16:30	解散
18:00	夕食	18:00	夕食		
18:50	健康観察	18:50	健康観察		
20:00	学習の記録	20:00	学習の記録		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:30	消灯	21:30	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・群馬県利根郡片品村について、パンフレットやインターネット資料を活用して調べ学習を行った。「尾瀬の生き物」や「片品村の名産品」などについて調べ、レポートにまとめた。
- ・しおりの活用の仕方とスケジュールや持ち物について、しおりを全体で読み合いながら確認 し、プレセカンドスクールのめあてについても共有した。
- ・初めて行う集団での宿泊に関する心構えについて話を聞き、指導員との顔合わせをする際に グループごとのめあてを立てた。係の仕事についても、係ごとに事前に確認した。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールでの3日間の体験と感動について振り返り、作文にまとめた。
- ・プレセカンドスクールでの思い出を俳句・川柳に表現し、学校だより「だいし」に掲載した。
- ・3年生に対しての報告会に向けて、班ごとに「農作業体験について」「宿での過ごし方について」などの発表内容を考え、ポスターにまとめたり寸劇で表現したりして発表した。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 農作業体験、環境保全型農業についてのお話

遊楽木舎にて、りんごの収穫体験、豆の脱穀体験、農家の方のお話を聞く、園内見学を行った。4チームに分かれ、多様な活動を行うことができ、化学肥料や農薬を使わないで土づくりを行う環境保全型農業への興味・関心が広がった。プレセカンドスクール後も、社会科の水の学習時に、農家の方のお話で聞いた水の循環資源についてなどを思い出し、学習に生かす姿も見ることができた。



【豆の脱穀体験】

2 尾瀬ハイキング体験

片品村振興公社のガイドの方に付き添っていただき、 案内に耳を傾けながら、紅葉真っ盛りの尾瀬の自然の中 を散策した。川上川では、イワナを見たり、湿原ではア カハライモリを見たりと、自然を満喫しながら約1時間 かけて休憩ポイントの山の鼻に到着した。その後、尾瀬 ヶ原の中にある牛首で、暖かな日差しの下、紅葉を見な がら昼食をとった。

帰路は、上り坂が続いたが、友達同士励ましの声を掛け合いながら、全員無事に鳩待峠まで歩くことができた。



【尾瀬ハイキング体験】

<生活・文化体験活動>

1 うどん作り体験

小麦粉そのものをこねて、うどんを作るという体験はほとんどの児童が初めてであったため、 活動中は、歓声や驚きの声がたくさん聞かれた。上手く作業が進まなくても、宿のお父さん、 お母さんが各班に付き添って、手助けをしてもらいながら進めることができたので、順調に活

動を進めることができた。また、この体験活動が宿のお 父さん、お母さんと触れ合う最後の機会でもあり、2泊 3日間の間にすっかり打ち解けた様子や、しっかり技を 教わろうとする姿勢も見られ、温かい雰囲気の中で体験 活動を楽しむことができた。できあがったうどんは、「今 までで食べたうどんの中で一番おいしかった。」と語る 児童もあり、自分で作ったものを食べる充実感や友達と 協力して作ったおいしさを実感することができた。



【うどん作り体験】

〇児童の感想

- ・農業体験で土のやわらかさや、うどんこ病の事がよくわかりました。初めてのりんごがりはとても楽しく、とるのが気持ちよかったです。
- ・ハイキングでは、長い時間一生けん命歩きました。とてもきれいな景色が見られたので、つかれたけれど歩いてよかったなあと思いました。
- ・尾瀬の魚とアカハライモリがかわいくてむちゅうになりました。あと、カモシカは尾瀬では見られなかったけど、ぷらり館で毛皮をさわったらとてもごわごわしていてびっくりしました。 なぜかというと、ふわふわだと思っていたからです。

〇セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールの前段階として、分宿制を取り入れて短期間の宿泊を体験することを通して、宿の方々との触れ合いを大切にする心や、すすんで自然と親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置いた。セカンドスクールに向けて基礎的な集団生活を学び、セカンドスクールにつなげていきたい。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・昨年度の引継ぎ事項から、防寒具の必要性を保護者説明会で説明し、準備の徹底を図った。尾瀬でのハイキングだけでなく、片品村で過ごす際にも活用することができたので、次年度でも保護者説明会等で十分な説明と準備の徹底を行いたい。
- ・環境保全型農業についての話は、児童の実態に合わせて体験と説明を組み合わせて行っていた だき、児童の農業に関する関心を高めることができた。
- ・宿によってはテレビや雑誌類が置いてあったため、事前に宿との打ち合わせを行い、しまって いただくなどの工夫が必要だと感じた。

第五小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月30日~10月2日(2泊3日)

参加人数 男子 29名 女子 32名 計 61名

〇日程表

9月30日 (水)		1	0月1日 (木)	10月2日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士ビジターセンター	8:40	宿舎発	8:15	大掃除・荷物整理
11:30	富士山五合目着・昼食	9:00	忍野八海見学	9:30	閉校式
12:30	富士山トレッキング			9:50	宿舎発
15:45	宿舎着	10:30	さかな公園着 水族館見学	10:10	忍野村着・ほうとう作り体験
19:00	星空観察	13:00	クラフト体験	12:00	昼食 (手作りほうとう)
19:45	健康観察・係活動	16:00	宿舎着	12:40	忍野村発
21:30	就寝	19:00	室内レク	13:00	山中湖交流プラザ
		19:45	健康観察・係活動	16:00	学校着・帰校式
		21:30	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習として、「プレセカンドスクールを楽しもう~自然に触れよう~」 を行い、富士山などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の歴史、富士山の自然、富士五湖について、山中湖について、山 梨県の食文化などを調べた。
- ・インターネットや図書資料などを使って調べたことをポスター形式でまとめ、友達と交流したり、家族に紹介したりした。また、本単元で学んだことを学習発表会でプレゼンテーション形式で発表する。

2 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自、作文やポスター形式でまとめた。
- ・プレセカンドで学んだことを分かりやすく伝えようとそれぞれが工夫を凝らしていた。
- ・帰校後すぐに最後の係活動を行い、反省や感想を出し合った。その内容を今後の学校生活に 生かすことを確認して終えた。
- ・学習発表会において、プレセカンドスクールでの学びの成果を発表した。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

雲ひとつかからない富士山であり、山頂までよく観察できた。トレッキングのコースは、険しい道ではなかったためか、2時間30分という長時間の活動であったが、特に児童に疲れは見られなかった。解説員により、武蔵野市では見られない珍しい木々や植物について詳しい説明を受けた。また、磁石を用いた簡単な実験を通して、溶岩の性質について楽しく学習することができた。10人程度の班に1人解説員がついたことにより一人一人の質問に丁寧に答えていただけた。

2 クラフト体験

山中湖キャンプ場にて、自然のものを利用したフォトフレームづくりを行った。ドングリや松ぼっくり、落ち葉や 貝殻など数十種類の飾りの中から、自分たちで好きなもの を選んで、飾り付けを行った。自然のものを使って楽しい 活動を行うことで、自然に親しむ心がはぐくまれた。



【自然のものを利用したフォトフレーム】

3 山中湖散策

クラスごとに山中湖の遊歩道を 15 分ほど散策した。山中湖を間近で見ることで、インターネットや本だけでは分からなかった、山中湖の壮大さを感じ取った子どもたちが多かった。

<社会体験活動>

1 富士ビジターセンター見学

プレセカンドスクールでの一番はじめの目的地であった。40 分間の環境学習プログラムにおいて、富士山レンジャーの方から富士山の環境について講義を受けた。日本の誇りである富士山が抱えてきたごみ問題の深刻さについて写真資料やクイズなどを通して学習することができた。「自然に親しむ」ということをテーマにしたプレセカンドにおいて、わたしたちが抱える課題を理解したうえで、活動をスタートできたことは有意義であった。

2 さかな公園見学(自然体験)

富士五湖や周辺の川に住む魚を見たり、学んだりすることができた。淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあったようだ。また、シアターでは「アユの冒険」や「山梨県の魚」の映像資料も人気の学習教材であった。見るだけでなく、実際に手で触ったり、調べたりできる学習コーナーも充実しており、最後まで集中を切らさず学ぶことができた。



【迫力のある魚の群れ】

<生活·文化体験活動>

1 ほうとう作り

クラスごとに、2つの民宿に分かれ活動を行った。民宿の方に教えていただきながら、小麦粉をこねて、伸ばして、大きな包丁で切って仕上げた。できあがったほうとうを民宿の方に仕上げていただき、食べた。野菜も豊富に入っており、好き嫌いも心配されたが、全員が完食した。自分で作った麺と、民宿の方の優しさがこもったお汁は格別だったようだ。



【班員で協力してこねている様子】

〇児童の感想

- ・富士山には、昔は多くのごみが捨てられていたことに驚いた。特に、トイレットペーパーが 流れたこととでできた白い川の写真を見た時は、すごくショックだった。
- ・富士山には、植物が生えているところとそうでないところがあることが分かった。
- ・ほうとうは、いつも食べているうどんとは違う味がした。自分でつくって食べたことが、と ても楽しかった。家族にもつくり方を伝えたい。
- ・自然のものを使ってフォトフレームをつくったのが楽しかった。今まで見たこともない木の 実がたくさんあって、すごくわくわくした。
- ・友達といる時間が長かったので、もめてしまうこともあったが、友達と協力することの大切 さに気付くことができた。友達と協力することでなんでも乗り越えられるので、セカンドス クールでも頑張りたい。

〇セカンドスクールの教育活動との関連

セカンドスクールに向けて、自主管理と協力に重点を置いて指導を行った。まず、自主管理では、布団たたみや、活動の準備など自分のことは自分で行ったり、衣服の調整など体調管理も自分自身で行ったりすることで、自分で考えながら生活することができていた。また、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもち充実した生活を送ることができた。

協力という面では、どんな活動も班で行ったことで、自分がよければ良いという自分中心的な考え方から、みんなで出来るようにと考え方が育った。互いの個性を認め合い、困った時には助け合う姿が多く見られた。また、担任などの大人が関わり過ぎないことで、子どもたちが自分たちで新たな人間関係を築きあげていた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

ビジターセンターで展示物を見る時間があまり確保できなかった。来年度、環境学習プログラムを利用するかしないかを早めに検討し、ビジターセンターの滞在時間の見直しを行っていく。また、雨プログラムであるクラフト体験だが、予定時刻より早く終了してしまい、手持無沙汰になった時間もあった。作品づくりだけでなく、発表会を設けるなど有意義な時間を過ごせるようにする。

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

6月17日~6月19日(2泊3日)

参加人数 男子61名 女子42名 計103名

〇日程表

	6月17日 (水)		6月18日 (木)		6月19日(金)
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:45	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:00	「よく見よう、じっと見よう自				
	然のつながり」	7:00	清掃、荷物整理	7:00	清掃、荷物整理
	昼食				
13:30	「山中湖畔の散策」	7:15	朝食	7:30	朝食
15:00	宿舎着、開校式、避難訓練、	9:30	「見て学ぼう、感じよう、 富士山の自然」	9:00	「作ろう 味わおう 郷土料理」
16:00	学習のまとめ、班長会			11:00	昼食
18:00	夕食	11:00	昼食	12:00	閉校式
19:00	「見あげてみよう夜の星空」	12:00	「見つけよう ブナ林の 不思議」	13:30	宿舎発
20:00	入浴、1日の反省、荷物整理	15:30	西臼塚着	15:30	学校着、帰校式、解散
20:50	健康観察、就寝準備	16:30	班長会、学習のまとめ		
21:20	消灯	18:00	夕食		
		19:00	「富士山の自然に関する話」		
		20:00	入浴、班ごとの振り返り		
		20:50	健康観察,就寝準備		
		21:20	消灯		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・課題解決学習とするために、自己の学習課題や観察の視点をもつ
- ・富士山周辺の生き物、天気、森や林、郷土料理などについて調べる
- ・集団行動、マナーについて
- ・公共施設利用のマナーについて
- 係活動

2 事後の学習内容

- ・「富士山」「ネイチャーハント」「山中湖周辺」「郷土料理」などの活動について、児童それ ぞれが発表の仕方(紙芝居、プレゼンソフト、クイズ形式、劇など)を考えてまとめる。
- ・各自で設定した課題をもちよって、課題が同じグループに分かれてまとめを整理し、3年 生に学習発表会を実施して伝える。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 「よく見よう じっと見よう 自然のつながり」 (東大演習林でのネイチャーハント)

グループに分かれ、セルフガイド形式のワークショップを行った。ガイドを依頼した地元のNPO法人の方々に、各グループごとに生物の多様性や自然・人と生体系などについて説明を交えて紹介していただいた。植物の特徴をふまえて名前を付けたり、鳥の鳴き声を言葉で表したりとクイズ形式で友達と一緒に楽しみながら考えるこ



【ネイチャーハントの様子】

とで、自然を観察する力や思考力を高めることができた。自然の中にある植物や生き物たちは、私たちの生活とは、かけ離れているように感じるが、実はそうではなく密接に関わり合っていることを、ネイチャーハントを通して感じ取ることができた。また、「空気が澄んでいて気持ちがいい!」「耳をすませると鳥の鳴く声や葉が揺れる音が聞こえる。」など自然を身近に感じ、自然とつながる活動にすることができた。

2 「見て学ぼう、感じよう、富士山の自然」 (宝永第一火口までのガイドウォーク)

当初、富士宮五合目駐車場から宝永第一火口から第二火口まで行き、五合目駐車場へ戻る予定を組んでいたが、濃霧のため、駐車場から樹林帯を経由して第一火口まで行くルートに変更した。宝永第一火口周辺では、火口全体を見渡すことができ、目の前に広がる自然の雄大さを感じ、その自然の中で体を動かす気持ちよさを満喫していた。雲の切れ間からは遠くに宝永第二火口も見ることができた。富士山最大の噴火口による自然災害や噴火活動の植物群落への影響についての説明を受けると、子どもたちは自然の雄大さと共に自然の恐ろしさを感じずにはいられない様子だったが、それほど自然には大きな力があることについて改めて感じさせられ、自然に対する見方を広げることができた。足下の火山灰や植物の様子、道に落ちている動物の糞にも素早く気付くことができ、前日のネイチャーハントで身に付けた自然を観察する力を更に高めることができた。

3 「見つけよう ブナ林の不思議」 (西臼塚周辺のガイドウォーク)

富士山ではブナ林の原生林をガイドによる説明を交えて紹介していただいた。「なぜだろう。」「もしかしたら、こうなのではないかな。」と考えることができ、単に説明を聞くだけでなく、自らガイドさんに質問する姿が多く見られるようになった。「よく見て・よく聞いて・触って・かいで・心で感じる」活動ができ、ミクロとマクロの視点をもって自然をとらえることを身に付けることができた。ブナ森にも違いがあることから、次年度のセカンドスクールでのブナ林との違いにつなげられる活動となった。緩やかな下山道と遊歩道ではあるが、小雨の影響で滑りやすくなっていたところ、「ここ気を付けてね」など、友達と声を掛け合いながら歩く様子やそっと手を差し伸べる姿が見られ、連帯感や協力、思いやりの心を育むこともできた。

<社会体験活動>

1 富士山の自然に関する話

エコスクールの方にスライドを使って富士山周辺の自然についての話をしていただいた。 ネイチャーハントやガイドウォークで実際に見た植物や動物が画像に出てくると、植物や動物の名前をいち早く叫ぶ子もいた。体験したことを振り返って確認することで、学習内容を深めることができた。また、富士山の噴火の歴史の話でも、昔の富士山の様子や、実際に歩いた道が長い年月をかけて現在の姿になったことを知ることができ、過去と現在とをつながりをもって考えることができた。本物の鹿の頭蓋骨を手にする機会もあり、貴重な体験に目を輝かせていた。

<生活·文化体験活動>

1 ほうとう作り

ほうとうが郷土料理である所以やうどんとほうとうの違いなど、単にほうとうを作って食べる活動で終わるのではなく、ほうとうに関する知識も身に付けることができた。包丁を使って野菜の皮をむいたり切ったりすることには危険が予想される場面のある活動であったが、児童は指導してくださる方の話をよく聞き、活動に取り組んでいた。麺を打ったり野菜を切ったりすることに悪戦苦闘しつつも、工程どおりに完成させることができた。自分たちで作ったことに達成感を感じ、ほうとうの味に舌鼓を打っていた。



【ほうとう作りの様子】

〇児童の感想

- ・たくさんの植物を知ることができました。自然ってすごいな、楽しいなと思いました。
- ・みんなで協力して作ったほうとうは、どんな料理よりもおいしく感じられました。
- ・時間を守ったり、部屋の中をきれいにしたり大変なこともたくさんあったけれど、係の人が中心になって、協力して生活でき、いい経験になりました。

〇セカンドスクールとの関連について

- ・「つなげよう・つながろう」をテーマにしたように、自然観察の仕方、課題解決学習という 流れはセカンドスクールでも十分に生かすことができると考えられる。
- ・学校行事として初めての集団宿泊体験は、子どもたちの自主・自立・協力の心を養うとと もに、生活上のルールやマナーを身に付けるよい機会となり、セカンドスクールに向けて の自信と期待につながった。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・現地のよさを十分に体験できるようなプログラムを実施することができ、自然観察の仕方 を身に付けることができた。
- ・晴天時と比べても内容的・予算的に遜色のない雨天プログラムを再検討する。

境南小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

9月16日~9月18日(2泊3日)

参加人数 男子50名 女子49名 計99名

〇日程表

	9月16日 (水)		9月17日 (木)		9月18日(金)
8:00	学校集合(出発式)	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
8:15	出発	7:00	朝の会(体操・散歩)	7:00	朝の会(体操・散歩)
	調布 IC より中央道へ	7:30	朝食	7:30	朝食
9:45	談合坂 SA	8:10	部屋の清掃	8:30	片づけ・清掃
	(トイレ休けい)	8:40	ホテル発 (バス)	9:00	閉校式
10:30	野鳥の森公園着	9:00	氷穴着	9:15	ホテル発
10:40	クラフト体験		樹海コースハイキング	10:30	「ぶどうばたけ」着
12:30	昼食(弁当)、休けい	9:40	風穴見学		農業体験
13:30	野鳥の森公園発	10:20	風穴出発 (バス)		・三森さんのお話
14:00	富士ビジターセンター着	10:40	西の海キャンプ場着		・作業体験
15:40	富士ビジターセンター発		ほうとう作り体験		(かさふき・草取り・収穫)
16:00	ホテル着・開校式	12:10	ほうとう昼食、休けい	12:30	昼食(弁当)
	入室・荷物整理・避難訓練	12:40	西の海キャンプ場発 (徒歩)	13:00	扇状地見学
16:40	入浴、学習の記録・まとめ	13:30	コウモリ穴見学	13:30	ぶどうばたけ発
18:30	夕食	15:30	コウモリ穴発	13:45	勝沼 IC より中央道へ
19:15	はがきをかく	16:00	ホテル到着	14:15	談合坂 SA(トイレ休けい)
20:45	健康観察	16:40	入浴、学習の記録・まとめ	15:30	学校着・帰校式
21:00	就寝準備	18:30	夕食		
21:30	消灯	19:30	室内オリエンテーリング		
		20:30	健康観察		
		21:00	就寝準備		
		21:30	消灯		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・宿泊を伴う共同生活体験に向けて、集団行動のルール、集団生活のマナーについて指導した。 特に、集団活動を楽しく安全に行うには、時間を守って行動することやきちんと整列すること、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。
- ・係ごとに必要なルールやマナーを話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、全体で確認し、実行できるようにした。
- ・自主的に活動できるよう、班長を中心に児童が考えたスローガン「みんなで協力、心を一つ に」を設定し、初めての宿泊行事をみんなで協力し思い出に残るものにしようと話し合った。

2 事後の学習の内容

- ・課題別の学習について、同じ課題のグループごとに資料を準備して調べた。
- ・宿泊体験や自然体験、農作業体験、友達との交流など、プレセカンドスクールの思い出を振り返り新聞にまとめた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 風穴見学、樹海コースの散策

富岳風穴は青木ヶ原樹海の中の遊歩道の先にある溶岩洞窟である。そこから、急勾配の階段を下りて行き、低い天井に気をつけながら奥に進むと、そこは気温0℃の暗闇。溶岩樹形や縄状溶岩、氷柱などが見られる。子どもたちはこの季節に氷が残っているのを実際に見て、その寒さに驚いていた。こうした溶岩洞窟は、昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたと説明書きを見て納得した様子であった。

風穴から氷穴まで樹海の中を歩く 20 分ほどのハイキングコースを歩き、火山で流れ出た溶岩の上に木々が生えている様子や、ガスが抜けて大きな穴が空いているところを見て、自然の威力を実感することができた。傘をさしながらの散策は残念だった。

く社会体験活動>

1 ぶどう畑で何種類もの農作業体験をする

3日目、ホテルを出発後、勝沼のぶどう畑に向かった。まず、活動についての説明を聞いた。その後、草取りと笠拭き、ぶどうの収穫体験を行った。はさみで枝を切る際に、切ったぶどうを落とさないように片手で支えるなど、現地の指導員の方の指導で安全に作業ができた。児童は説明を聞き、できるだけ良いぶどうを自分なりに見分けながら収穫していた。収穫作業と草取りの体験後、昼食をとり、その後、ぶどう畑や休耕地の除草のためにぶどう畑で放牧されている牛に草取りで取った草を、えさとして与えた。



【ぶどう畑で笠拭き体験】

こうした作業を体験することによって、児童は、自分たちが食べている農作物を育て収穫するまでには、人が多くの手間をかけなければならないということや、安全でおいしい農作物を育てる工夫に気付いた。さらに、その牛が食肉となることも知り、現地の方の話や実際の体験を通して、働いている方々の努力や苦労、また食べ物の大切さについて考えることができ、大変有意義な活動になった。

<生活・文化体験活動>

1 野鳥の森公園で「クラフト体験」

公園内にあるクラフト小屋は園内で手に入るたくさんのクラフト用の材料がそろっていた。 小屋に入ると、その雰囲気はいかにもすばらしいアイデアを生み出してくれそうである。児童 は使ったことのない道具であっても積極的に活用した。結果は、想像力をかきたててくれる種 類の作品を多く作ることができた。平面的なものから立体的なものまで多様であった。

2 西の海キャンプ場で「ほうとう作り体験」

2日目は前日より天候が悪かったが、キャンプ場近くの公民館を借りきって行うことができ

た。ホールの大きさは百人の児童がグループ(クラス6テーブル×3)に分かれて言葉を交わし合いながら作業をしていくのに適していた。地元のほうとう作りの達人者たちがたくさん来てくれて、細やかにサポートしてくれた。また、準備の仕方が実にきめ細かく周到なもので、児童にとっては初体験だったが、わかりやすくかつ楽しくほうとう作りができた。すべての作業内容は初めてであったが、なかでも小麦粉の練り方(袋に入れて足で踏みながら練った)、食材の入れる手順、さらには大きな特殊な包丁で切ったことなど、歓声はたえなかった。

〇児童の感想

- ・クラフト小屋に入ってみて、たくさんの材料が天井にかかっていたのでおどろいた。
- ・初めて使う道具がたくさんあって、おもしろかったけどむずかしかった。でも、気に入った 作品に仕上げられて良かった。
- ・ふくろの上にのって、足で何回も何回もふんでねった。つかれたら友達とバトンタッチしな がら、地元のおばさんが良しと言うまでがんばった。
- ・富岳風穴の入口の階段を下っていくと急に寒くなっていった。コウモリがいてとてもびっく りした。繭や種を保存するための天然冷蔵庫だったと知って、昔の人の知恵を学んだ。
- ・部屋の中では、自分の荷物をいつも整理することができた。いつもは、話さない友達といろ いろなことを話せて、友達の意外な一面を知ることができてうれしかった。
- ・ぶどう畑では、たくさん草をとることができてよかった。笠を一枚一枚ぶどうにつけていて とても大変な作業だと感じた。自分で収穫したぶどうは、甘くてとてもおいしかった。
- ・班長として、早く並んだり、時間を意識して行動したりした。1日目より3日目がみんなと ても速く行動できるようになったので、成長したと感じた。

〇セカンドスクールとの関連について

友達との集団生活を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めるようにと考えて計画・実施した。全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことを全体で確認し、意識して行動するよう指導した。また、課題追究型の学習過程で、学習課題の調べ方や資料の表現方法などを学んだ。それがセカンドスクールにも生かされると考えている。

さらに、健康教育との関連として、自然の中での数々の活動体験は単なる知的な学習課題の 追究にとどまらず、心身の鍛錬も行っている。この点のねらいもしっかりと取り上げて指導す ることができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年は初体験が2つあった。どれも貴重ですばらしく、来年度以降につなげていきたい。
- ・雨対策はうまくいったと思われるが、メインの活動体験ができないのは残念である。プレセカンドの最大の魅力は『自然の直接体験』にあるので、少々天候が悪くても雨対応をしっかりしながら、二重三重の企画予定を準備して実施すると良い。
- ・ぶどう畑の方に農業や土地の特徴に関して話をしていただいたことが、事前学習と事後学習 に深く結び付けることができた。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

6月3日~6月5日(2泊3日)

参加人数 男子 22名 女子 23名 計 45名

〇日程表

月3日(水)		6月4日 (木)	(6月5日(金)
学校集合・出発式	6:30	起床・検温	6:00	起床・検温
	8:30	朝の会	7:00	朝の会
レイホー八海到着			8:20	八海山ロープウェイ乗車
開校式	9:30	そば打ち(レイホー八海)		展望台周回・温度調べ
			9:15	バス乗車
昼食(レイホー八海)	12:00	昼食(各宿・打ったそば)	9:45	坂戸山ハイキング
	13:30	集合(本部宿)		
田植え体験		地域探索 (八海山スキー場)	11:10	昼食(銭淵公園)
	15:30	天文台施設見学		
入浴	17:00	入浴	13:00	閉校式(本部宿)
夕食	18:00	夕食	16:30	学校到着・帰校式
民宿の方との交流	19:30	民宿の方との交流会		
学習の記録	21:00	学習の記録		
就寝	21:30	就寝		
	学校集合・出発式 ・イホー八海到着 開校式 ・全食 (レイホー八海) 田植え体験 人浴 ・文音の方との交流 ・学習の記録	学校集合・出発式 6:30 8:30 8:30 2イホー八海到着 開校式 9:30 全食 (レイホー八海) 12:00 13:30 日植え体験 15:30 17:00 夕食 18:00 民宿の方との交流 19:30 21:00	学校集合・出発式 6:30 起床・検温 8:30 朝の会 9:30 そば打ち (レイホー八海) 程食 (レイホー八海) 日2:00 昼食 (各宿・打ったそば) 13:30 集合 (本部宿) 地域探索 (八海山スキー場) 大浴 15:30 天文台施設見学 17:00 入浴 9食 18:00 夕食 18:00 夕食 19:30 民宿の方との交流 19:30 民宿の方との交流会 21:00 学習の記録	学校集合・出発式 6:30 起床・検温 6:00 7:00 8:30 朝の会 7:00 8:20 相校式 9:30 そば打ち(レイホー八海) 9:15 日食(レイホー八海) 12:00 昼食(各宿・打ったそば) 9:45 13:30 集合(本部宿) 地域探索(八海山スキー場) 11:10 15:30 天文台施設見学 17:00 入浴 13:00 夕食 19:30 民宿の方との交流会 21:00 学習の記録 6:00 7:00 7:00 7:00 7:00 7:00 7:00 7:00

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・南魚沼市の地形や気候、食事、特産物、暮らしなどについて調べたい課題ごとにグループを つくり、本やインターネットなどで調べ学習を行った。事後に行う発表会を視野に入れて、 実際に見てきたいもの、実際に体験したいことを明確にさせた。
- ・生活班や行動班での係の打ち合わせや一人一役としての係の準備・確認を行った。また、交流会で行う出し物の準備や練習を行った。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの中で学んだことやこれからの生活に生かしたいことについて、作文にまとめた。
- ・来年度にプレセカンドスクールに行く3年生に向けて「プレセカンドスクールについて伝えよう」という内容を総合的な学習の時間で行った。事前からの課題別のグループごとに、体験したこと、学んだことなどを発表方法を工夫し、3年生が「来年のプレセカンドスクールが楽しみ」となるように発表を行った。

<自然体験活動>

1 坂戸山ハイキング

3日目に、坂戸山でのハイキングを行った。予定では坂戸山登山であったが、悪天候のため頂上までの登山ではなく、3合目あたりまでのハイキングを行った。途中、ガイドの方に植物について教えていただいたり、坂戸山について話を伺ったりして楽しんで登っている児童が多かった。普段あまり目にすることのない植物を真剣に観察する児童や、坂戸山の歴史について興味深そうに話を聞きながら歩く児童の姿が見られた。銭淵公園での宿のお父さんお母さんの手作り弁当もとてもおいしく、また感謝しながら食べている様子だった。

<社会体験活動>

1 田植え

1日目の午後は講師の方々のもと、田植えの体験を行った。 初めに、苗を2、3本ずつ取り、指の第一関節まで土に入れ、 十字に垂直に植えるなど田植えの仕方を教えていただいた。

実際に体験が始まると、初めは田んぼの中でうまく動けずにいた児童も、友達と並んで進みながら自分の植えた苗を振り返りながら体験を楽しんでいた。田植え体験を通して、米作りの農家の方々の苦労や、食べ物に対して大切にしようという意識をもつようになった。



【田植え体験の様子】

<生活・文化体験活動>

1 そば打ち体験

2日目の午前中に、グループに分かれてそば打ち体験を行った。 ふのりを入れたそば粉をこねる講師の方の説明を真剣に聞き、粉からこねる作業が始まった。

グループ全員で丁寧にこねる作業を繰り返すうちに、徐々に 弾力が増し、形になっていった。包丁の持ち方や切り方を教わ り、心を込めて集中して切っていた。でき上がったそばは昼食 に出してもらい、山菜の天ぷらとともに食べた。初めて出会う 山菜の天ぷらも多かったが、とてもよく食べていた。貴重な体 験を、終始真剣に、また楽しみながら行うことができた。



【そば打ち体験の様子】

2 民宿の方との交流会

2日目の夜に、民宿の方々との交流会を行った。児童が司会をして、民宿の方も交えてゲームや、歌やハンドベルでの演奏を行った。また、3日目のお別れの時に感謝の気持ちを込めて練習してきた踊り「よっちょれ」を披露し、メッセージカードを渡した。短い時間ではあったが、アイディアを出し合い、協力して行うことで、民宿の方々と交流を深めたり、感謝の気持ちを表したりすることができた。

〇児童の感想

- ・田植え体験では、最初足がぬるぬるして嫌だなと思ったけど、だんだんと楽しくなってきた。 でも、お米をつくるのがこんなに大変だなんて初めて知ったので、これからは残さないよう に食べようと思う。
- ・そば打ち体験がとても楽しかった。粉だったのが、そばになってお昼に食べた時、今までで一番おいしいと思った。天ぷらもおいしくてたくさん食べた。
- ・天気が悪かったのに、2日目の夜、先生とみんなでペンションの外に出てみたら空いっぱいの 星があった。本当にきれいでびっくりした。みんなだまって見ていた。絶対に忘れないと思う。
- ・班長としてみんなに声をかけるのを頑張った。でも、時々みんなに助けてもらった。みんなで 協力して頑張れて楽しかった。

○セカンドスクールとの関連について

4年生が植えた稲を、秋に5年生がセカンドスクールで刈り取り、精米後、学校まで届けていただき、給食で食べることができた。自分たちで植えた苗が育って実際にごはんとして食べた時に、「おいしい!」と全員が嬉しそうな表情をしていた。

また、プレセカンドスクールでは、2つの宿に分かれ、更に6つの班に分かれて宿泊した。 その中で、決められたルールを守ること、仲間と協力することの大切さなどを体験することが できた。次年度のセカンドスクールでも今回学んだことが生かせるようにする。

- ・事前から実施中、事後にかけてグループでの活動を行い、集団での行動の仕方や、目的をもって学ぶことの楽しさを感じることができた。
- ・家や学校を離れて生活をする中で、民宿の方や現地の方々、指導員さんなどの多くの方との 交流を通して、自分を支えてくれている周りの方への感謝の気持ちをもつことができた。
- ・6年生が5年生の時(昨年度の秋)にセカンドスクールで植えた苺を、今年度4年生が南魚沼に訪れた際、収穫して食べる予定でいたが、まだ実っておらず収穫ができなかった。 そのため、同じ実施地での連続性に課題を感じた。
- ・4年生にとって初めての宿泊体験であることを考慮し、移動時間の短縮や活動体験の充実を 検討していく。

千川小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月6日~10月8日(2泊3日)

参加人数 男子21名 女子23名 計44名

〇日程表

1	0月6日 (火)	1	0月7日 (水)	1	0月8日(木)
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床・検温	6:30	起床・検温
		7:00	朝の会 (河口湖畔)	7:00	朝の会(宿舎前)
10:15	リニア見学センター到着	7:30	朝食	7:30	朝食
	昼食	9:00	富士ビジターセンター到着		
13:30	富士山科学研究所到着			9:00	閉校式
		10:00	富士山五合目ハイキング到着		
15:30	宿舎到着		昼食(班ごと)	10:00	共選場到着
	開校式			11:00	ぶどう農業体験
		13:45	青木ヶ原樹海トレッキング		昼食(班ごと)
16:30	入浴	14:15	富岳風穴見学		
				13:30	ぶどう農家出発
18:00	夕食	16:30	入浴		
		18:00	夕食	16:00	学校到着・帰校式
19:30	学習の記録				
21:00	就寝	19:30	学習の記録		
		21:00	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・今年度は実施先を変更した初年度なので、プレセカンドスクール実施前に写真を見ながら、 2泊3日の一連の流れを確認した。
- ・児童一人一人が課題を見付け、富士山周辺の地理、文化や歴史、暮らし、産業などについて本やインターネットで調べ学習を行った。班長、副班長、保健係、食事係で分かれ、式の司会や宿での過ごし方について確認をしたり、練習をしたりした。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中で学んだことや今後の生活に生かしたいことをふりかえり、 作文にまとめた。
- ・来年度にプレセカンドスクールに行く3年生に、プレセカンドスクールの様子が伝わるよう に、どんなことを体験し、学んできたかを伝えるため、パソコンの発表ソフトを使ってグル ープごとに発表を行う。誰に向けて、なぜ発表するのかを明確にして、子どもたちにめあて をしっかりともたせるようにする。

<自然体験活動>

1 河口湖畔散策

1日目、宿に着いて荷物の片付けが終わった後、河口湖畔の散策を行った。子どもたちは、 河口湖の様子を見て、隅から隅まで見わたせないほど大きいことに驚いていた。また、河口湖 畔にある草花を見たり、雑草を使って遊んだりして、自然に親しむことができた。

2 富士山五合目ハイキング

2日目の朝から富士山五合目から御中道を通り奥庭までハイキングを行った。朝から雲ひとつない晴天で、宿舎からはこれから登る富士山がよく見え、富士山五合目からは富士五湖のうち四つ(本栖湖、西湖、河口湖、精進湖)を見ることができた。子どもたちは、河口湖や宿舎を見付け、河口湖は自分たちが湖畔を歩いたときよりもずっと大きいということに気付き、驚いていた。

3 青木ヶ原樹海トレッキング・富岳風穴見学

2日目の富士山ハイキング後、青木ヶ原樹海のトレッキングと、富岳風穴の見学を行った。 樹海では、富士山の溶岩が生み出した不思議な形の溶岩樹形や、見たこともないキノコを見付 け、その土地特有の自然があることを学ぶことができた。富岳風穴では、夏でも氷がとけない ほど涼しい洞窟を見学した。外気と洞窟内の空気の違いや、洞窟の中の様子を感じることがで きた。

<社会体験活動>

1 ぶどう農業体験

3日目、ぶどう農家の山下さんやJAフルーツ山梨のみなさんに講師になっていただき、加工用ぶどうの収穫体験を行った。 農家の方々に、ぶどうの上手な切り方や商品にならないぶどうの見分け方、切り取り方を丁寧に教えていただいた。実際に体験してみると、おいしいぶどうがどこになっているのか、ぶどうを傷付けないで収穫するにはどこを持つとよいかなどを身をもって知ることができた。ぶどう農業体験を通して、農家の方々の苦労などを体感することができ、食べ物に感謝する気持ちをもつことができた。



【ぶどう農業体験の様子】

2 山梨県立リニア見学センターの見学

1日目に山梨県立リニア見学センターへ行った。実際に試験走行しているリニアモーターカーの様子を観察することができる日本唯一の施設である。児童は、事前に調べていたリニアモーターカーのしくみを、実物を見ながら確認したり、超電導磁石の実験を見たりして、リニアモーターカーに関わる人々の工夫や努力を知ることができた。また、リニアが時速 504 kmで目の前を通り過ぎたときには、その迫力を間近で感じることができた。

<生活·文化体験活動>

1 宿の方のお手伝い

宿舎では、毎日の食事の準備や掃除など、自分たちの生活に関わる仕事のお手伝いを行った。普段は家の人にしてもらっていることも、自分でやってみると大変なことがたくさんあることに気付いた。また、お客さんに気持ちよく過ごしてもらうための宿舎の人の工夫や努力に気付き、感謝の気持ちをもつことができた。



【宿舎での食事配膳のお手伝い】

〇児童の感想

- ・富士山五合目からのハイキングでは、初めて富士山に登ったこと、紅葉が鮮やかだったこと、 五合目はとても寒かったこと、野生のカモシカに出会えたこと、河口湖や樹海などの絵葉書 のような景色が見られたことが心に残りました。みんなで食べたお弁当もおいしかったです。
- ・3日間ずっと晴れていて気持ちよくすごすことができました。武蔵野市とは景色や空気が全 然違っていました。みんなと寝たり、食事をしたり、お風呂に入ったりすることは楽しかっ たです。
- ・農家の方のおいしいぶどうを作るための工夫を知ることができました。普段はあんなに多く のぶどうを少人数で収穫しているからすごいと思います。
- ・ぼくは、班長をやって、自分が変わったような気がしました。班をまとめて行動して、班で活動をして、普段できない体験をできました。つらいこともあったけれど、うれしいときもありました。それは、みんなが5分前行動を心掛けてくれるからです。来年のセカンドスクールでも生かしたいと思います。

〇セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールでは、一つの宿の中でグループに分かれ、それぞれの生活を送った。 その中で、生活のルールを守ったり、仲間と協力して生活したりする体験ができた。次年度の セカンドスクールでは、複数の宿に分かれて宿泊するため、今年度の宿泊体験や集団生活で学 んだことは充分にセカンドスクールでも生かすことができる。

- ・グループで生活することを通して、友達同士で声を掛け合い、互いの関係が深まった。集団 生活では時間やルールを守ることが大切であるという意識をもつことができた。
- ・宿舎や現地の方々、指導員さんなど多くの大人と関わりをもつことで、自分たちだけで生活 をしているわけでないことに気付き、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・3日目のぶどう農業体験では、たくさんの農家の方に仕事の仕方を教えていただいた。昼食時など、更に交流を深められる時間をつくるとよかった。

井之頭小学校

群馬県利根郡片品村

10月14日~10月16日(2泊3日)

参加人数 男子22名 女子29名 計51名

〇日程表

10月14日 (水)		10月15日 (木)		10月16日(金)	
8:10	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床
8:30	バス乗車、出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	尾瀬わくわく体験郷到着	8:30	りんごの収穫体験	8:30	農作業体験
	開校式	10:00	片品川水源見学	9:30	田舎料理作り体験
14:00	豆腐・こんにゃく作り体験	13:00	昼食	11:15	昼食
17:40	各民宿着	14:00	植物採集・押し花作り	12:00	宿の方とのお別れの集い
17:15	学習のまとめ・健康観察	15:00	学習のまとめ	13:00	閉校式
18:00	夕食	17:00	健康観察	13:30	片品村出発
19:00	夕食上毛かるた体験	18:00	夕食	16:30	到着式・解散
19:30	民宿の方と交流	19:00	星空観察		
21:30	就寝	21:30	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、片品村について調べ、これから訪れる地域の概要をとらえた。その 後、各自の興味や関心に基づき学習課題を設定した。「湧水」「田舎料理」「冬の暮らし」「公 共交通機関」「学校生活」など一人一人が課題を選択し、本やインターネットを活用し調べ学 習を進めた。出発前に課題毎に発表会を行い、相互の様々な課題に関する理解を深め、当日 への活動意欲を高めた。
- ・社会科「くらしと水道」、の学習を行った際、水源林について学習した。水源林のはたらきに ついて学び、利根川源流についても地図で確認した。
- ・理科「星の明るさや色」の学習を行い、星座の位置や名称などについて学習した。

2 事後の学習内容

・学習課題に沿い、体験をもとに考えをまとめ、学級内で相互に発表会を行った。課題毎に整理しまとめた模造紙は、次年度参加する3年生へ向け掲示発表した。

<自然体験活動>

1 りんご狩り体験

りんご園の農家の方に協力いただき、木から直接りん ごをもぎ採る体験を行った。たわわに実ったりんごの木 から、自分の食べたいりんごの実二つを選びもぎ採った。 甘く良いにおいのするりんごをすぐにかぶりつく子、自 分の宝物のようにみがく子など様々であったが、どの子 も大切に一つのりんごを食べていた。もう一つのりんご は、宿に持ち帰り食事の際に一緒に出していただくよう にした。



【りんご狩り体験】

2 片品川水源見学

沢を歩いて片品川の水源を見に行き、社会科で学習した「水源林」についての学びを深めた。 たくさんの木々や腐葉土が積もりふかふかの地面、自然のままに生えているいろいろなきのこ、



【片品川水源見学】

橋のない川を渡る体験など、武蔵野市では体験することができないありのままの自然を実感することができた。また、片品村振興公社の方にガイドになっていただき、野生動物について話してもらったり、熊よけの轟音玉 (ロケット花火)の実演などをしてもらったりしたことで、都会とは違う自然の環境を理解することができた。川の水の始まりは、斜面の土の中から突然水が湧き出ていた。冷たい水でざぶざぶと顔を洗う子、収穫したりんごを水で洗って食べる子など自然の恵みを喜ぶ様子がみられた。

<生活・文化体験活動>

1 豆腐・こんにゃく作り体験

片品村の特産品の大白大豆を使った豆腐作りと群馬県の特産品であるこんにゃく作りを二つ

のグループに分かれて体験した。普段は食べるばかりで、 どのように作られるのか知らない児童がほとんどのため、原料を細かくすることからの調理作業に興味津々で 意欲的に体験していた。

完成までの工程では手間や時間がかかったが、班で協力し根気強く作業することができた。作った豆腐とこんにやくは、各宿へ持ち帰り、その日の夕食や次の日の朝食としておいしく味わった。



【豆腐・こんにゃく作り体験】

<社会体験活動>

1 農作業体験

片品村の特産品である花豆の殻むきや、農作業道具や獲れた作物を運ぶ農作業体験をした。 花豆の殻むきは収穫した量が多く、一つ一つのさやから豆を取り出す作業の大変さを実感していた。殻をむいたばかりのつやつやした豆の美しさに感動し、宿のお母さんに頼み自分のおみやげに一粒持ち帰る子もいた。

〇児童の感想

- ・行く前までは心配なことがたくさんあったけれど、実際に行ってみると全てが楽しかったで す。もう1泊したいなと思いました。
- ・初めて友達と一緒に寝たりお風呂に入ったりしました。普通のことを一緒にしたことが楽し かったです。
- ・星空がとてもきれいでした。夜空にはこんなにたくさんの星があるのだと知りました。
- ・りんご園には見渡す限り数えきれないほどたくさんのりんごがなっていました。片品村は果物の産地だということを実感しました。
- ・山道で見つけたいろんな葉や実を押し花にしたのが面白かったです。

〇セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールは日程的にゆとりのあるプログラムであるが、プレセカンドスクールでは 3日間の日程の中で多様な体験活動を通して、充実感を味わわせることを目的にプログラム を組んだ。天候に恵まれ、児童は全ての活動を達成感、充実感をもちながら楽しんで行うこ とができた。
- ・来年度のセカンドスクールでは長期間家庭を離れる生活をする。プレセカンドスクールでは 身辺自立の意識を高め指導にあたった。持ち物の管理、部屋の片づけなどは指導員に言われ る前に進んで行動する姿が多くみられた。
- ・児童一人一人が事前の学習で課題を明確にしたことで、現地でも課題を意識した体験や学習をすることができ、来年度の課題別学習につなげることができた。

〇今年度の成果と次年度に向けての課題

体験活動が武蔵野市では経験できないものばかりで、児童に感動や発見を促し、知的好奇心や探究心を引き出すことができた。今年度は、星空観察や押し花作り、田舎料理等班ごとに協力して行動する活動を多くし時間も十分にとった。小集団の中で声をかけ合いながら決まりを守って行動する様子や宿のお父さんやお母さんとの関わり合いを深める様子が多くみられ、一人一人の自主性を大いに高める体験活動とすることができた。

今年度は、引率教諭や指導員の連絡を密にし十分な指導体制をとることができた。様々な状況に適切に対応し、安全に十分に配慮しながら無理なく活動を予定通り進められたことは大きな成果である。次年度も指導体制については十分な配慮が必要である。

関前南小学校

東京都西多摩郡檜原村

9月16日~9月18日(2泊3日)

参加人数 男子25名 女子19名 計44名

〇日程表

9月16日 (水)		9月17日 (木)		9月18日 (金)	
7:40	出発式	6:30	起床・健康観察・清掃	6:30	起床・健康観察・清掃
8:05	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:25	フォレスティング゛コテーシ゛着	8:30	民宿出発	8:30	民宿出発
	• 開校式	9:00	都民の森着	9:00	井上食品こんにゃく工場見学
10:40	林業体験	9:30	三頭山ハイキング	10:15	シクラメン栽培見学
12:30	昼食	10:30	三頭大滝見学	10:50	井上食品発
13:15	水生昆虫観察	11:15	森林館着・講話 昼食	11:10	檜原小学校着
15:15	製材作業見学	12:30	森林館見学・木工教室		・交流会
16:20	各民宿着・入浴	14:45	都民の森発		• 学校案内
18:00	夕食	15:15	数馬分校記念館見学	12:15	• 昼食
19:00	民宿の方との交流	16:00	各民宿着・入浴	13:20	払沢の滝見学
20:00	学習の記録・明日の準備	18:00	夕食	14:30	払沢の滝出発
21:00	消灯・就寝	19:00	学習の記録・明日の準備	16:40	学校着
		21:00	消灯・就寝		帰校式
				17:00	解散

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習の内容

- ・社会科の授業で、檜原村の特色について学習した。
- ・総合的な学習の時間で、自分が特に学習したい課題を見付け、課題ごとにグループを決めた。 課題解決に向け、何を見たり聞いたりしてくるのかを話し合った。
- ・宿での係を決め、宿での過ごし方について話し合った。また、出発式や帰校式の役割分担を し、児童が主体的に進められるようにした。
- ・ 檜原小学校との交流に向けて、学校紹介の準備をしたり、相手校の児童と楽しく交流できるようにグループを編成したりした。

2 事後の学習の内容

(1)総合的な学習の時間において

「檜原村を伝えよう」をテーマに、体験したことや調べたことをまとめ、3年生児童と保護者を対象に発表会を行った。それぞれのグループで発表した内容は次の通りである。

- ・林業…林業が果たす役割や間伐の方法の紹介
- ・シクラメン…シクラメンの育て方や様々な種類の紹介
- ・滝や川…檜原村にある滝や川の特徴についての紹介
- ・三頭山…三頭山の特徴、花や鳥などの紹介

- ・旧数馬分校…展示してある資料や檜原村の小学校の紹介
- ・水生昆虫…秋川で観察した水生昆虫とその特徴の紹介
- ・檜原小学校…学校生活の様子や施設の紹介
- ・こんにゃく…こんにゃく製造、工場で働く人々の工夫の紹介
- ・檜原村の交通…檜原村の地理的位置や道路の様子について

(2) 社会科において

「わたしたちの東京」の「地形の特色を生かす〜山地にくらす人々」で東京都の山地として檜原村について学習した。プレセカンドスクールでの体験や話、見てきたことにより、 学習の理解が深まった。

(3) 国語科において

「説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう」の学習では、プレセカンド スクールについてリーフレットにまとめた。また、檜原村でお世話になった方々や檜原小 学校の児童にお礼の手紙を書いた。

〇特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 間伐体験

林業体験として、ロープを幹にかけて倒す方向を定めてからのこぎりを用いての間伐体験を行った。

2 水生昆虫観察

秋川では水生昆虫を採集して観察した。川の水にふれ、 生き物を採集することにより自然と生物とのかかわりを考 えることができた。



【水生昆虫観察の様子】

3 三頭山ハイキング

三頭山ハイキングでは、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。ハイキングで出会った様々な動植物については、都民の森のガイドの方から詳細な説明を受けた。

<社会体験活動>

1 林業体験

林業体験では、地元の林業に携わる講師の方々から間伐の仕方について指導を受けた。森 林の保全や管理、植林の大切さについて話を聞いた。講師一人あたり7名の子どもに教えて いただき、手厚い指導を受けることができた。

2 檜原村の自然の学習

都民の森の森林館では、ガイドの方から檜原村の四季の変化の様子や野鳥について説明を聞き、自然に関する展示を見学して、理解を深めた。

3 キーホルダー作り

「都民の森」の木工教室で、杉板から型をとり、電動のこぎりでキーホルダーを作った。

4 数馬分校記念館見学

檜原小学校数馬分校記念館では昔の檜原村の子どもの様子や昔使っていた道具についての 説明を聞き、実物やジオラマを見ることができた。

5 地元の特産物についての見学

檜原村の特産物であるシクラメン作りの様子や、こんにゃく工場の見学を行った。

<生活・文化体験活動>

1 地域の人々とのふれあい

- ・檜原村の地域の人々と様々な場面でふれあい、地域のよさを感じることができた。
- ・一日目の夜に各宿で宿舎の方と交流した。各宿で、檜原村の特産物であるこんにゃくやジャガイモスープ、ジャガイモ餅づくりを行った。宿の方との交流を深めるとともに、自分たちで協力してつくる作業は子どもにとって貴重な経験となった。

2 地域に伝わるこんにゃく作り

・こんにゃく工場見学では、檜原村特産のこんにゃく作りについて話を聞くことができた。 また、できあがったこんにゃくを実際に試食させてもらい、味を確かめた。

3 地元の小学校との交流

・ 檜原小学校の子どもたちと交流した。体育館で自己紹介ゲームやドッジボールをした。その後、檜原小学校の校内を案内していただき、自校との違いを知ることができた。また、 昼食も一緒に食べ交流を深めた。

〇児童の感想

- ・間伐体験で、木を切ることが難しかったです。特に斜めに切るのは、切っている間に角度がずれてしまい、「木を切るってこんなに難しいのか。難しいのにできてすごいな。」と思いました。講師の方が倒す向きを考え、倒す方法を教えてくれました。初めてのことで大変だったのですがとても楽しかったです。間伐ができてよかったです。
- ・水生昆虫観察の最初は全然採れずに悩んでいたけれど、先生にやってもらったら、すぐ採れたのでびっくりしました。その後、やり方をおさらいしていたら、少し小さいものを採ることができました。なかなか採れなかったので、採れたときはとても嬉しかったです。
- ・檜原小学校との交流では学校紹介・ゲームや校内見学を一緒にしました。檜原小学校の紹介は檜原村のお祭り・特産物を教えてもらいました。お昼ごはんでは、檜原小学校のことを質問してよいところをたくさん聞けました。すごく楽しく、おもしろかったです。



〇セカンドスクールとの関連について

【檜原小学校との交流の様子】

- ・学校で行う初めての集団宿泊体験なので、心構えや集団生活の指導に重点をおいた。
- ・現地の方との交流を大切にし、気持ちのよい挨拶や、感謝する意義を話した。
- ・持ち物の準備や片づけ、部屋の整理整頓などができるよう意識付けした。

- ・ 檜原小学校との交流は、毎年交流を重ねる中で活動内容が精選され、充実した交流を行うことができた。今後も連絡を密に取り、実態に合わせて充実した活動になるようにする。
- ・水生昆虫観察は、講師の方から昆虫の採り方や採った昆虫の名前を教えていただき、虫の特 徴や虫の生息する場所が分かり、有意義な活動になった。
- ・三頭山ハイキングでは、全員が無事に歩くことができた。途中、都民の森のガイドの方から 話をしていただき、自然について興味・関心をもつことができた。天候不良のために短縮コ ースで行ったが、晴天のときは三頭大滝から野鳥観察小屋に向かい、そこから下るコースに している。児童が安心して歩くことができるよう、今後もコースを検討していく。

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月16日~9月18日(2泊3日)

参加人数 男子 73名 女子 70名 計 143名

〇日程表

9月16日 (水)		9月17日 (木)		9月18日 (金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	学校発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	富士ビジターセンター	9:30	自然の草木染め	9:30	閉校式後 宿舎発
12:30	富士山トレッキング	11:45	昼食	10:30	ほうとう作り
16:00	宿舎着	13:40	富士湧水の里水族館	12:00	昼食
19:00	絵手紙書き	15:40	宿舎着	12:45	忍野八海見学
20:30	健康観察	19:15	絵手紙書き	13:30	忍野村発
21:00	就寝	20:30	健康観察	15:45	学校着
		21:00	就寝		

〇プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1 学期の総合的な学習の時間に、「見つけよう 広げよう 山中湖から」という単元 を設定し、富士山や山中湖をキーワードに課題を設定し、調べ学習を行った。主なテーマと しては、富士山の歴史、富士山の自然、富士五湖、山中湖、山梨県の食文化、山梨県の伝統 文化などである。中には、リニアモーターカーや登山電車へと広げていった児童も見られた。 インターネットやガイドブックなどを使って調べたことをまとめ、発表会を開き、友達と交流した。
- ・2学期には、「プレセカンドスクールを成功させよう」という単元を設定し、当日に向けて協力しながら主体的に活動できるよう意識を高めていった。

2 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自、新聞やパンフレットにまとめた。 制作した作品は教室に掲示し、学校公開で保護者にも見ていただいた。
- ・来年プレセカンドスクールに行く3年生に、プレセカンドスクールでの様子や自分たちが学 んできたことを伝えようと各クラスが劇化するなど工夫して発表、交流した。
- ・プレセカンドスクールで学んだことをみんなで確認しながら共有し、それを分かりやすく伝 えようと工夫して表現することができた。

<自然体験活動>

1 富士山トレッキング

富士五合目までバスで行き、五合目の休憩所で昼食をとった後、富士五合目の御中道コースを歩いた。各クラス二つのグループに分かれ、それぞれのグループに富士山の自然解説員をお願いした。



【富士山で雲海を臨む】

自然解説員は、コケモモ、ダケカンバなど富士山に自生する植物のことや 富士山の噴火、地質など、実際に磁石を使って石をくっつけたり、模型を示したりし ながら、分かりやすく解説してくださり、児童は関心をもって話を聞くことができた。

解説を聞きながら約3時間、目の前にそびえる赤い富士山とその下に広がる雲海を眺めなが ら、じっくりと自然を味わい、トレッキングすることができた。

2 自然の草木染め

あいにくの雨でネイチャーラリーは実施できず、雨天プログラムである自然の草木染めを行った。宿舎の体育館に集まり、富士山ネイチャークラブの方々の指導のもと、バンダナをマリーゴールドの染め液で染め、オリジナルの黄色いバンダナが完成した。

始めに、付けたい模様を考えながら輪ゴムでバンダナを縛った。縛り方だけでなく、縛る強さによっても模様が替わってくると聞き、出来上がりを楽しみにしながら工夫して縛る様子が見られた。染める段階では、植物を発酵させた染め液の独特のにおいを経験することができた。しぼる工程ではしぼるのが得意な児童がその役を買って出るなど、互いに協力する姿も見られ、楽しく草木染めのバンダナを作り上げた。

マリーゴールドという植物の染め液から、自然の風合いのある柔らかな黄色いバンダナが出来上がることを体験することができた。

3 忍野八海散策

バスガイドさんの案内で忍野八海を歩いて回った。クラスごとに5つの池を回りながら、池の名前の由来や池の特徴などを教えていただいた。透き通った水、次々と湧き上がる水に、子どもたちは自然の美しさや神秘さを実感することができた。富士山が世界文化遺産に登録されてから、ここにもたくさんの観光客が押し寄せとてもにぎわっていた。

<社会体験活動>

1 富士ビジターセンター

プレセカンドスクールで最初に訪れたのが富士ビジターセンターである。ここでは、富士山の地形や地質、動植物、歴史、文化などについて、映像やパネルで理解を広げたり深めたりした。

子どもたちは、事前学習で調べてきたことを確認でき、富士山のトレッキングを前に、集中 して学習することができた。また、自然への理解を通して富士山の自然に親しみ、自然を守る ことの大切さも学ぶことができた。

2 富士湧水の里水族館

忍野村にある魚公園の「富士湧水の里水族館」を見学した。普段はなかなか見られない淡水 魚専門の水族館で、子どもたちは初めて見る大きな淡水魚に驚いていた。また、絶滅したとさ れたが、2010年に西湖で発見されたクニマスを始め、富士五湖や周辺の川に棲む魚も見ること ができた。 2階のシアターでは「アユの冒険」や「山梨にすむ魚」の映像を見たり、ブラウジ ングコーナーで魚に関する調べ学習を行ったり、顕微鏡で観察するコーナーを楽しんだりして いた。

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

クラスごとに民宿である会場に分かれ、民宿のお母さん方に教えていただきながら、ほうとう作りを行った。小麦粉に水と塩を加えて混ぜ、こねて伸ばして、大きな包丁で切って仕上げた。できあがったほうとうは、お店の方が調理をしてくださり、3日目の昼食として、みんなでいただいた。



【ほうとう作り】

グループで協力しながら作ったほうとうは、太さもまばらだが、自分たちで作った手作りの 味に大満足の様子で、大きなかぼちゃ入りのほうとうを何杯もおかわりをして食べていた。

〇児童の感想

- ・東京では見られない赤い富士山や、雲海、自然がたくさんあって、空気のきれいなところで しか見られない植物もありました。日本一の富士山はやっぱり日本一気持ちいい山でした。
- ・初めてほうとうを作って食べたら、とてもおいしくて、ほっぺが落ちそうなぐらいでした。
- ・いつもより自分たちで考え、行動することができたのでうれしかったです。
- ・協力することの大切さと、まとめることの大変さと、みんなですごす楽しさが学べました。

〇セカンドスクールとの関連

セカンドスクールに向け、集団行動、自立、指導員との生活など、多くのことを指導することができた。今年度は一つの宿に全員が泊まったが、次年度のセカンドスクールはグループごとに分泊になるので、前段階として、部屋ごとに分かれて生活するというのは児童にとってよい機会となった。また、3日間、親元を離れて、自分のことは自分でやるという経験も貴重だった。持ち物の管理、体調の管理、スケジュールの管理など、来年につながるよい学びとなった。

- ・天候が悪く、予定変更を余儀なくされたが、校長の判断のもと、職員が組織的に動くことができ、雨天プログラムでも、児童が有意義に活動することができた。
- ・2回の実地踏査や電話連絡を通して、関係機関とは事前に打ち合わせを行い、問題なく無事終 了することができたが、宿舎とのアレルギー対応等については来年度以降、さらに十分かつス ムーズな打ち合わせを行う手立てが必要である。

平成28年3月発行 武蔵野市教育委員会 教育部指導課

〒 180−8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1897 FAX 0422-51-9264 平成二十七年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

平成二十八年三月

武蔵野市教育委員会